

焚キ其通行ヲ容易ナラシメ又途中疾病ニ罹リタルモノアルトキハ醫師ヲ招キ其他厚ク保護ヲナス可シ

第二十六條 條例第二十八條第一項第三項第四項ニ從ヒ豫テ其分擔ヲ定メ置ク可シ

第二十七條 陸軍召集脚夫ニハ第四號書式ニ準シ鑑札ヲ付與ス可シ

第四章 町村後場ニ於テ執行スヘキ事項

第二十八條 條例第二十八條第二項ノ軍用旅舎ヘ左ノ各所ニ配置ス可シ

宮崎郡 宮崎町大字上野町川原町上別府 大淀村大字中村町 田野村字學ノ木 南濱村大字

宇木原字新町

北那珂郡 廣瀬村大字廣瀬町 佐土原村大字佐土原町 青島村大字折生迫内海

南那珂郡 依肥村大字本町今町 北郷村大字郷ノ原 榎原村大字橋之口字榎原 鷗戸村大字宮

浦字吹毛井 福崎村大字西方字上町酒谷村字白木俣

北諸縣郡 都波町大字上野中町西町 山之口村大字山之口 高城村大字高城町 高崎村大字割

田

西諸縣郡 高原村大字西院 野尻村大字東籠紙屋 小林村大字五日町 飯野村大字原田 加久

藤村大字栗下 眞幸村大字京町

東諸縣郡 高岡村大字高岡町内山字山下 本庄村大字六日町十日町

兒湯郡 高鍋村大字高鍋町 都農村大字都農町 美々津村大字美々津町 都於郡村大字都於

郡町 下穂北村大字妻町 三納村大字三納字尾泊 西木良村大字越野尾小川村所

富高村大字富高字新町 門川村大字尾末字門川 延岡町大字南町中町北町元町紺屋

町 北川村大字川内名字熊田 北方村字曾木 東郷村大字山陰坪谷 南郷村大字神

門 細島町

西臼杵郡 七折村字新町宮水 高千穂村大字三田井 椎葉村大字大河内

第二十九條 町村長ハ前條ノ軍用旅舎土地ノ情况家屋ノ廣狹ニ從ヒ二軒乃至十軒ヲ配置シ宿泊料ヲ豫

約シ其町村番戶及宿主氏名ヲ所轄警察署警察分署巡査駐在所ニ通牒シ且郡長ヲ經テ届出ツ可シ

第三十條 條例第二十八條第二項ニ依リ掲ケシムヘキ標旗標燈ハ官ヨリ給セサルニ依リ旅舎所有ノ國

旗又ハ高張提灯ハ陸軍ノ徽章ヲ附着セシムル等便宜處置ス可シ

第三十一條 熊本及小倉ヘ直行スヘキ支道アル町村ニ於テハ其町村内適宜ノ場所ニ軍用旅舎ヲ豫定シ

豫備後備將校下士兵員ノ請求アルトキノ用ニ供ス可シ尤モ此場合ニ於テハ寄泊料ヲ豫約シ置ク可シ

第三十二條 條例第四十九條ニ依リ掲示スヘキ警報ハ第二章第五條ノ手續ニ依リ豫テ圖製記載シ置ク

可シ

警報ヲ掲示スヘキ場所偏僻ニ在ルトキハ尙人民輻輳地又ハ公衆ノ認知シ易キ場所ニ掲示ス可シ

第三十三條 陸軍召集脚夫ハ町村内豫備後備兵員ノ數ニ應ジ之ヲ豫定シ第一號書式ニ準シ其受持ヲ定

メ置キ令狀配達ノ際發着ノ時限ヲ其姓名上ニ記載ス可シ但沿道等ニシテ遅延ノ恐レナキハ二三名

ヲ兼テシムルモ妨ケナシ

第三十四條 豫備後備兵員召集ノ令狀ヲ配達シタルトキハ其受領證ヲ要スルヲ以テ豫テ其人員ニ應ジ

第三號書式ニ依リ該料紙ヲ調製シ置ク可シ

第三十五條 町村長ハ召集ノ達アリタルトキハ當該名簿ニ照合シ令狀ヲ召喚ニ應スヘキ兵員ニ前條ノ

受領證料紙ヲ添ヘ速ニ豫定ノ脚夫ヲ以テ配達セシメ本人ヲシテ等級氏名並年月日時間ヲ記入押印セ

シム可シ

召集ノ達ヲ受ケタルトキハ郡長ヨリ送付ノ受領證料紙ニ年月日時間並職氏名ヲ記入調印シ脚夫ニ交

付ス可シ

召集ノ達アリタルトキハ其町村ニ豫備後備尉校下士兵員ヲシテ雖モ速ニ警報ヲ揭示ス可シ

第三十六條 陸軍召集脚夫ニハ第四號書式ニ準シ鑑札ヲ付與ス可シ

第三十七條 町村長ハ豫備後備兵員召集ノ令狀豫定ノ脚夫ヲ以テ配達セシムヘキ成規ナリト雖モ時機切迫若クハ必要ト認ムルトキハ役場員ヲシテ之ヲ配達セシム可シ

第三十八條 町村長ハ召集ノ豫備後備尉校下士兵員途中川支其他ノ事故ニテ滞留シ證明書ヲ請求スルトキハ第八號書式ニ依リ之ヲ調製シ交付ス可シ

第三十九條 町村長ハ第三章第二十二條揭示外ノ河川渡津及港河等ノ要地ニシテ召集ノ豫備後備尉校下士兵員ノ通行スヘキ箇所ニハ役場員及區長若クハ組合世話人ヲ出張セシメ其通行ヲ容易ナラシム可シ但夜間ハ提燈ヲ點シ又ハ篝火ヲ焚キ之ヲ認知スルニ使ナラシム可シ

第四十條 町村長ハ第三章第二十五條ノ協議ニ應ジ暗事不都合ナキ様措置ス可シ

第四十一條 條例第四百八條ニ依リ調製スヘキ名簿ハ第五號第六號書式ニ依ル可シ

第四十二條 豫備後備兵員ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應センコトヲ出願シ許可ヲ得タルモノアルトキハ第二章第十七條ニ準據シ取扱フ可シ

第四十三條 條例第五百四十四條但昔ノ各自身上ノ異動ヲ生シ町村長ニ於テ召集令狀中訂正ヲ加フヘキモノハ暇休兵ヨリ豫備後備尉校ヨリ後備後備役ニ移リ又ハ其所轄内ニ於テ轉居スル等ニシテ其他ハ召集令狀ヲ監視區長ニ送付ス可シ

召集令狀訂正ノ爲メ監視區長ニ送付中或ハ他府縣ヨリ轉住シ或ハ現役兵歸休シ又ハ現役滿期豫備役編入等ニテ歸郷スルモ令狀ノ未達中若シ召集ノ發令アルトキハ令狀ノ到達ヲ待チテ之ヲ交付スルモノトス

第四十四條 條例第四十三條第五十九條第八十九條ニ依リ召集令狀ヲ返付シタルトキハ之ヲ領置シ召集令狀ノ達アリタルトキ之ヲ監視區長ニ送付ス可シ

第四十五條 召集ニ際シ失踪逃亡又ハ故ナク不應ノ者ハ町村長ニ於テ其族籍氏名等詳細シ速ニ所轄警察署警察分署巡查駐在所又ハ巡回ノ憲兵若クハ警察官吏ニ通報ス可シ

第五章 雜則

第四十六條 凡ソ陸軍召集ニ關スル書類ハ別ニ之ヲ格納シ他ノ書類ト混同ス可ラス

第四十七條 召集ノ定時演習及點ノ際豫備後備尉校下士兵員ノ集合スヘキ箇所左ノ如シ

一 近町尉校下士兵員 小倉城内

一 師團尉校下士兵員 熊本山崎練兵場

第四十八條 條例第三百三十九條ノ名簿点檢ハ當分点呼所ニ於テ檢閱ニ付町村長ハ最寄点呼所ニ提携ス可シ

第四十九條 本則尉校ニハ相當官兵員ニハ歸休兵及雜卒ヲ含有ス

第五十條 條例第五條第一項第二項ノ兵員ニハ輜重輸卒ヲ含有シ全第百六條ノ歸休兵及豫備後備兵員ニハ近町尉休兵及豫備後備兵員ヲ含有スルモノトス

第五十一條 條例第三十二條ノ汽船ノ便トハ其沿道ニアル出船場ヲ指シタルモノトス

第五十二條 條例第四十三條第五十九條第七十五條及第八十九條ノ事由書ハ時宜ニ依リ巡回ノ憲兵又ハ巡查ノ證認ニテモ苦シカラス尤モ此場合ニ於テハ公署ノ印ヲ要セサルモノトス

第五十三條 召集事務ノ準備及諸書類ノ整否監査トシテ主任官吏ヲ派遣スルコトアル可シ

第六章 附則

第五十四條 名簿及諸書類ニシテ改正ノ書式等ニ抵觸スルモノハ明治二十三年五月三十日迄ニ總テ改

正又ハ訂正スシ

第五十五條 本則第二章第四條ノ召集事務擔任者及第四章第二十九條ノ軍用旅舎ハ從前ノ選定又ハ配置ニ變更ナキトキハ附除以コ届出又ハ通牒スルニ及ハス

訓令第四百四十七號(廿三年五月一日) 警察署 警察分署 町村役場
陸軍定時演習召集アルトキハ本年(四月)訓令第三百三十九號陸軍召集事務細則第三章第二十條第四章第二十八條ニ準テ取扱フ可シ

訓令第二百十六號(廿三年八月八日)

郡役所 町村役場

陸軍豫備後備將校同相當官及下士兵卒並歸休兵他ニ寄留中召集ニ關スル取扱左ノ通定ム

第一項 陸軍豫備後備將校同相當官及下士兵卒並歸休兵ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應シ又ハ近衛集
合地ニ到ランコトヲ出願シ許可ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ其旨ヲ將校同相當官及下士ハ郡長ニ兵
卒並歸休兵ハ町村長ニ届出テシム可シ

第二項 將校同相當官及下士ノ召集令通報人住所氏名ハ本人ヨリ郡長ニ届出テシム可シ

第三項 令狀ハ召集令通報人ヨリ便宜ノ手續ヲ以テ本人ニ送致セシム可シ

第四項 將校同相當官及下士ニ係ルモノハ郡長兵卒並歸休兵ニ係ルモノハ町村長ニ於テ取扱フ可シ

訓令第二十九號(廿八年三月廿日)

郡役所 警察署 警察分署 町村役場

國民兵召集事務細則左ノ通改正ス
國民兵召集事務細則

第一條 郡長町村長ハ國民兵召集規則第一條第一種第二種毎ニ別紙様式ノ國民兵召集名簿ヲ備置クヘシ

郡長ハ國民兵召集規則第一條ノ種類及町村ニ分チタル國民兵召集人員表^{二十歳以下ヲ備置クヘシ}
前二項ノ名簿及人員表ハ毎年四月一日ノ現在員ヲ豫定シ三月一日迄ニ整頓スヘシ

第二條 陸軍召集事務細則中國國民兵召集規則及本則ニ矛盾セサルモノハ之ヲ準用ス

第三條 郡長ハ第一條ノ國民兵召集人員表整頓シタルトキハ三日以内ニ其高ヲ添ヘ報告シ且ツ召集ス
ヘキ人員召集地集合地及集合期日ヲ町村長ニ通達シタルトキハ配賦人員等ヲ町村別ニ詳記即日報告
シ又々集合地ニ於テ身置検査了リタルトキハ速ニ召集人員ヲ町村毎ニ種別シ應召不應召合格不合格
ノ員數ヲ記シ報告スヘシ

第四條 國民兵召集規則第一條第二種第三種ノ年齢計算ハ召集年ノ十二月ヲ以テス

第五條 郡長ハ第一條國民兵召集名簿ノ整頓ヲ期スル爲メ名簿整理ノ際郡役所ノ名簿ト町村役場ノ名
簿兵籍簿并其他關係ノ簿冊書類ニ勘合スヘシ

第六條 町村長ニ於テ附ルヘキ召集令傳達書用紙ハ不動文字ヲ記シ豫メ備置クヘシ

第七條 國民兵召集規則第二十二條ノ場合ニ於テハ適宜處置スヘシ

第八條 六週間現役滿期ノ者ハ國民兵召集規則第一條第四種ニ屬スルモノトシ調査スヘシ

第九條 退役准士官以上及元下士以下ノ者ニシテ豫メ國民軍編入ノ許可ヲ受ケタル者ハ國民兵召集規
則第一條第一種ニ屬スルモノトシ調査シ其人員ハ全規則第九條配賦人員及其率トスヘキ総員ニ加フ
ルモノトス

第十條 町村長ニ於テ國民兵召集名簿整頓後訂正記入ヲ爲シタルトキハ其都度郡長ニ報告スヘシ
附則

第十一條 第一條ノ名簿及人員表ハ明治二十八年ニ在テハ七月一日ノ現在員ヲ豫定シ四月二十日迄ニ整頓スヘシ

郡長ハ前項ノ名簿ヲ四月十五日迄ニ調製シ直ニ其寫ヲ官衙大隊區司令官ニ送付シ爾後整頓期日迄ノ異動ハ其都度同官ニ報告スヘシ

訓令第三十八號(廿八年四月十一日)

郡役所 町村役場

國民兵第一種ニ在ルモノハ來ル二十日迄ニ左ノ雛形ニ依リ票札ヲ調製シ各自ノ門戸ニ揭示セシムヘシ
自今則項ノ兵籍ニ入りタルモノアルトキハ其都度揭示セシムヘシ

長凡六寸

木 國民兵第一種
製 姓名 幅凡二寸

訓令第三百二十二號(二十年七月十二日)

郡役所 戶長役場

陸軍歸休兵充員名簿ハ明治二十年(四月)訓令第七十一號陸軍召集事務細則第九號書式ニ準シ別簿ニ調製スヘキ筈ノ處其人員寡少ナルトキハ第一充員名簿へ部分クテ以テ台冊トスルコトヲ得

訓令第二百二十二號(廿七年七月十日)

郡役所 警察署 町町役場

海軍豫備後備役下士卒臨時召集令取扱手續左ノ通定ム

海軍豫備後備役下士卒臨時召集令取扱手續

第一條 海軍豫備後備役下士卒臨時召集令以下單ニ第九條ノ海軍々用旅舎ハ陸軍召集軍用旅舎ヲ以テ之ヲ充テ其取扱方ハ陸軍召集事務細則第二十九條及第三十一條ニ準據スヘシ

第二條 令第十一條ノ臨時召集ニ關スル送文案左ノ如シ但郡長警察署長ノ分署所在地ニ於テモ此文案ニ準シ相定メ豫メ淨書シ置クヘシ

筆記連

號外

何郡役所
何警察署

海軍豫備後備役(後備役)下士卒召集セラル

(但明治 年 月 日以後ニ現役ヲ離レタル者ニ限ル)

明治 年 月 日 午前 時 分 發

宮崎縣知事氏名

電報送

カイグンヨビエキ(コウビエキ)カシソシヤウシフセラル(タハシ)何「數字」チン「何」ダツ「何」ニ
チイゴニゲンエキヲハナレタルモノニカギル)

明治 年 月 日

宮崎縣知事氏名

郡長又ハ警察署長死

第三條 郡長又ハ警察署長ニ於テ前條ノ達ヲ受以シタルトキハ即日受領ノ日時并部下ニ通達ヲ終ヘ
郡長ハ令狀發送)又ハ警部巡查派遣濟ノ日時ヲ詳記シ報告スヘシ

郡長又ハ警察署長ハ受領後二日以内ニ其執行シタル事務ノ顛末(時間ヲモ詳記スルヲ要ス)并下士卒應否ノ景況員數等ヲ報告スヘシ

第四條 郡長ハ令第十二條ニ依リ規定スル召集令狀配達ノ方法ハ即時其寫ヲ添ヘ届出ヘシ其變史シタルトキ亦同シ

第五條 令第十五條第十六條ニ依リ揭示スル警報ハ可成布片ニ大書シ(年月日ニ記入スル数字ヲ除ク)隊ヲ準備シ置ヘシ但特ニ召集員ヲ限ラレタルトキニ適用スヘキ爲メ各貳通認メ置ヘシ尤右ノ場合ニ用ユル警報ハ文案第二條ノ但書ニ依ルヘシ

附則

第六條 此手續第二條ノ達ハ宮崎北河那郡長宮崎警察署長ヘハ號外送ヲ用ヒ其他ハ電報(電報不通ノ達ヲ以)但電信局設置迄西諸縣郡長小林警察署長ヘハ都城郵便電信局ヨリ西臼杵郡長高千穂警察署長ヘハ延岡郵便電信局ヨリ別便配達トス

訓令第二十二號(二十二年二月二日)

明治十九年(一月)戊第壹號達ニ依リ差出シタル郡役所戸長役場所在地及里程表中變更アルトキハ其都度詳細取調届出ヘシ

戊第壹號(十九年一月四日)

郡役所 郡役所 戶長役場區域及里程別表雜形之通精密取調本月三十一日限當廳ヘ可差出此旨相達候事

訓令第百三十三號(廿七年八月三日)

郡役所

今般左記陸軍第七十九號ノ通陸軍士官適任證書付與規則定メラレ候條同則第五條ニ該當シ士官適任證書ヲ返還セシムヘキ事項ニ關シ陸軍官憲ヨリ調査ノ要求アルトキハ郡長ニ於テ其求メニ應スヘシ

陸軍第七十九號

陸軍士官適任證書付與規則別紙ノ通定メラル
但明治十四年送乙第千二百八十二號士官適任證書附與規則ヲ廢ス
明治二十七年七月十七日

陸軍大臣伯爵大山巖

(別紙)

陸軍士官適任證書付與規則

第一條 士官適任證書ハ各兵科特務曹長及曹長ニシテ豫備將校ノ任ニ堪ニヘキ材幹ヲ具有シ品行方正勤勞勉勵ノ者ニ付與ス

第二條 第一條ニ該當スルモノアルトキハ現役滿期前隊附ニ在テハ聯隊長聯隊長ヲ爲サ、ル諸隊ニ在テハ該隊長以下同シ隊外ニ在テハ聯隊長同等以上ノ長官考科表寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ適任證書付與ノ認可ヲ請フヘシ

第三條 士官適任證書ハ各所管ニ於テ雜形ノ如ク調製シ現役滿期ノ際聯隊長又ハ聯隊長同等以下ノ長官ヨリ本人ニ付與スヘシ

第四條 士官適任證書ヲ付與セシトキハ其人名書ニ考科表寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第五條 士官適任證書ヲ所持スル者ニシテ豫備將校ト爲ルヘキ品位ヲ傷フモノト認ムルトキ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ師團長又ハ屯田兵司令官其證書ノ返還ヲ命シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 士官適任證書ヲ所持スル者死亡シ又ハ同證書ヲ有スル曹長コシテ傷疾疾病等ニ依リ兵役ヲ免シタルモノアルトキハ師團長又ハ屯田共司令官ヨリ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

第七條 本規則ハ士官ノ戰時補充ニ欲員アル間之ヲ施行ス

訓令第三號(廿五年一月十二日)

郡役所

明治二十二年(十一月)訓令第二百六十六號海軍兵志願者取扱手續左ノ通改正ス

海軍兵志願者取扱手續

第一條 海軍志願兵徵募細則第二條ノ告知アリタルトキハ那長ハ海軍志願兵徵募規則第三條ノ年齢ニ適スル者ヲ調査出願セシメ左ノ書式ニヨリ海軍志願人名簿郡別ニ通テ製シ一通ハ五月二十五日迄ニ當廳ヘ差出シ一通ハ巡回ノ徵募區ニ差出スヘシ

第二條 志願人検査日割ノ通知アリタルトキハ検査所設置ノ那長ハ検査前日迄ニ検査所ニ充ツヘキ家屋ヲ選定シ検査ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第三條 検査所ニハ徵募官一行ノ人員ニ充ツヘキ椅子「テーブル」ノ外必ス左ノ物品ヲ用意シ置クヘシ

- 一身幹尺度 一個
- 一權衡 但ニ拾貫目迄斤量 全
- 一水呑コップ 但可成大 二個
- 一細引ノモノ 但堅牢 二筋
- 一手桶 伊柄杓 一個

一手洗桶 全

第四條 町村吏員ノ志願人ヲ引纏メ検査所ニ出頭スルトキハ其職印及戸籍簿ヲ携帯セシムヘシ

書式 用紙 半紙 界紙

官崎縣何軍海軍兵志願者人名簿

官崎縣那町(村)大字番戶大字番戶族職業 寄留者ハ原籍ヲモ併記スヘシ

何 某

以上右ニ準シ各兵種毎ニ區別シテ列記スヘシ

訓令第七十三號(廿七年五月一日)

郡役所 町村役場

歸休兵并豫備後備ノ軍籍ニアルモノハ來ル六月三十日限リ左ノ號形ニ依リ軍籍姓名ヲ記シ各自ノ門戸ニ揭示セシムヘシ

自今前項ノ軍籍ニ入りタルモノアルトキハ其都度揭示セシムヘシ

長六寸

木	歸休兵(豫備後)	備役
何兵上等兵	姓	名
(何等卒)		

將校并同相當官下士モ此書式ニ準シ記載セシムルヲ要ス

宮崎縣令第五十二號(廿六年九月廿五日)

明治二十三年(七月)閣令第五號軍人恩給法施行規則及明治二十五年(三月)閣令第三號明治二十四年法律第四號施行規則ニ依リ差出ス扶助料請求ニ關スル書類ハ總テ正副二通下附ノ本書ヲ出スモノハ寫一通差出スヘシ

訓令第四百四十八號(二十年八月廿七日)

海軍恩給令ニ據リ恩給並扶助料出願中本人族籍變換若クハ改氏名等異動アルトキハ直ニ届出ヘシ

戸長役場

訓令第五百四十四號(二十年九月七日)

陸軍恩給令ニ依リ恩給並扶助料賑恤金救助金等出願中本人族籍變換寄留替若クハ改氏名等異動アルトキハ直ニ届出ヘシ願書決裁後ニ係ル者ニアツテハ本人出願當時ノ管籍住所ノマ、ニテ發付セラル

戸長役場

告示第一百一號(明治二十六年五月十二日)

陸軍教導團入學志願者ニシテ願書差出シタル后志願取消ノ義願出ツル者ニハ爾後別段指令セサル旨該團長ヨリ通知アリタルヲ以テ願書許可セラレタル義ト心得ヘシ

訓令第五百四十四號(二十五年十二月五日)

陸軍將校生徒士官候補生志願者ノ多少ハ實ニ陸軍現役將校ノ補充ニ一關係有ス而シテ今其筋ニ於テ調本セラレタル別表即チ明治二十一年以降本年ニ至ル五ヶ年間ニ於ル該志願者ノ統計ヲ見ルニ本縣内ニ於ケル志願者ハ其數尤モ僅少ナリ蓋シ其然ル所以ノモノニハ種々ナル因由之レアルヘシト雖モ畢

郡役所 町付役場

竟スルニ維新以來本縣内ヨリ陸海軍ノ將校ニ出身シタル先輩ノ少キカタメ軍人タルモノ、名譽ト其優遇セラル、ノ實況トテ悉知セシ且ツ之ヲ誘掖提擡スル先輩少ナキニ由ルナルヘシ將父明年ヨリハ定員二百三十二名ノ外尙六十五名ヲ増募セラル、ノ豫定ナリト聞ク就テハ郡役所町村役場ニ於テハ最モ注意ヲ加ヘ今後一層壯年有爲ノ輩ヲ鼓舞作興トシテ軍事ニ服務スルノ念慮ヲ發揮セシムル機精々勵誘スヘシ

乙第六拾六號(十九年四月二十九日)

郡役所 戸長役場

豫備役後備兵役點呼施行ノ際其他戸長ハ必ス出場其他關係ノ戸長ハ事務ノ都合ニ依リ可成出場スヘシ但郡役所最寄ニ於テ施行ノ際ハ可成主任郡書記ヲ出場セシムヘシ
右相違ス

戸籍

訓令第八十號(二十年十月廿五日) 郡役所 戸長役場
明治十九年(十月)内務省訓令第二十號戸籍登記書式第一ノ十四行上欄ニ何年何月何日失踪トアルモ右
ハ何年何月何日失踪何年何月何日届出ト登記スル儀ト心得ヘシ

訓令第六十三號(廿九年六月五日) 郡役所 町村役場
従前戸籍取扱上ニ於テ失踪ニ因リ家督相續ヲ爲シタル場合其ノ前戸主ヲ廢戸主ト稱シ戸籍ニ登記シタ
ル向有之哉ニ候處石ハ失踪ニ因ル相續ニシテ廢戸主ニ屬スヘキモノニアラサルヲ以テ自今廢戸主ノ登
記ヲ爲スヘカラス

訓令第十六號(廿二年五月七日) 町村役場
町村區域名稱改定ニ係ル戸籍番號ノ義ハ從來ノ儘據置キ戸籍簿住所欄内ニ新町村名ヲ記入シ郡ノ變更
ニ係ルモノハ郡名ヲ訂正シ舊町村名ノ上ニ字ノ一字ヲ記入スヘシ但舊町村名ニ屬スル町村ノ文字ヲ存
スルト否トハ町村役場ノ便宜ニ任ス尤モ毎戸標札ハ本文ニ倣ヒ各自訂正セシムヘシ

訓令第三十八號(二十年三月三日) 郡役所 戸長役場
戸籍改製手續左ノ通之ヲ定ム

戸籍改製手續
第一條 戸籍改製ハ本年十二月ヲ期シ整理スヘシ(廿年訓令第二百一十一號ヲ以テ改製期限二十一年三

月三十一日迄延期)

- 第二條 戶長ハ戶籍改製ニ先チ現戶籍ヲ以テ實地戶數人別ニ引合セ調査スヘシ
- 第三條 前條ノ場ニ於テ漏籍者並除籍漏及絶家廢家又ハ戶籍面誤謬等發見セシトキハ速ニ編入除籍及訂正ノ手續ヲ履行スヘシ
- 第四條 前條ノ手續了了ラハ戶籍取扱手續第一條ニ據リ登記ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 戶籍登記書式ハ明治十九年(十月)內務省訓令第二十號ニ據ルモノトス
- 第六條 現戶籍面冒頭年月日ノ記入ナキモノハ其年月日ヲ各自戶主ヨリ届出サセ正當ト認ムルモノハ戶長ニ於テ記入スヘシ但左ノ件ハ此限ニアラス
 - 一 明治六年一月十日以前六十歳未滿ノ戶主退隱シ六十歳以上ノ者其跡ヲ繼キタル年月日記入ノコト
 - 一 明治六年一月十日以前徵兵適齡前ノ者死後ニアラサル嗣子成承祖系成年月日記入ノコト
 - 一 明治六年一月十日以前分家絶家再興廢家再興一戶新立年月日記入ノコト
 - 一 附籍戶主ニシテ明治六年一月十日以前附籍シタル年月日記入ノコト
- 第七條 戶籍ハ楷書ニテ記載スヘシ
- 第八條 現戶籍面既ニ除籍アルモノハ登記セサルモノトス
- 第九條 戶籍番號ハ一町村限トシ戸ヲ以テ之ヲ算ヘ壹番戶ヨリ順次編製スヘシ
- 第十條 戶番號ヲ附セサル建物ハ戶籍ニ登記ス可カラス
- 第十一條 戶番號ヲ附セサル建物左ノ如シ
 - 一 官有建物
 - 一 銀行會社學校病院
 - 一 神社寺院及附屬建物

- 一 神佛教務所説教所事務所等
- 一 倉庫其他人ノ居住ニ供セサル建物
- 一 一邸内ニ數棟ノ家屋ヲ所有スルモノハ其主タルモノヲ除ク外ノ家屋
- 第十二條 同居又ハ附屬者ハ本戶籍ノ次ニ別業ニ登記スヘシ但同居ト記スルニ及ハス
- 第十三條 同居又ハ附籍者登記ハ戶籍登記書式第一ニ準シ家族ノ附籍ニ係ルトキハ全入寄留簿登記書式第三ニ準シ其譯記入スヘシ
- 第十四條 借家居住ハ別ニ借家ト記スルニ及ハス
- 第十五條 戶籍簿表紙ハ堅牢ナルモノヲ用キ左ノ如ク記スヘシ但戶籍ヲ加除スルニ便ナラシムル様編綴スヘシ

明治何年何月改製

戶籍簿

何郡何町(村)

第十六條 戶籍簿調製了ラハ速ニ左ノ雜形ノ番號標ヲ每戶ニ掲ケ名標ハ各自ニ掲ケシムルモノトス

長六寸

宮崎縣何郡何町(村)何番戶

宮崎縣何郡何町(村)何番戶

長五寸

華(士)族平民
居住(寄留)(別居)(同居) 何 某

他府縣ノ者ナレハ族
ノ上ニ府縣名ヲ記
入スヘシ

第十七條 戶籍取扱手續第二十一條ニ記載アルモノ、外尙左ノ帳簿ヲ編製スヘシ

他町村出寄留簿

他町村入寄留簿

別居簿

第十八條 出入寄留者ノ從前ニ係ル分ハ明治十九年(十一月)内務省訓令第二十三號ニ據リ帳簿ヲ整頓スヘシ

第十九條 戶籍取扱手續第七條ニ據リ郡役所ニ於テ檢査了テハ表紙裏面ニ檢査ノ年月日ヲ記載シ郡役所印ヲ押捺スヘシ

訓令第二百十三號(廿二年七月卅日)

町村役場

東京府下へ入籍スルモノアルトキ町村長ヨリ東京市役所宛テ以テ東京府へ送籍狀ヲ送付スル向有之趣ニ候處七月一日ヨリ從前ノ通區長ヲシテ送入籍ノ事務取扱ハセ相成候ニ付日今送籍狀ハ當該區役所へ直ニ送付スヘシ

訓令第三號(廿九年一月十四日)

郡役所

町村役場

明治二十九年一月一日以降北海道へ轉住スル者ニ對シテハ全年以降管テ該道へ在籍セシコトノ有無ヲ調査シ送籍狀欄外へ登記方照會アリタルニ因リ送籍ノ際ハ左記ノ例ニ準シ記載スヘシ

記載例

一管テ以テ降ヲ云フ 明治二十九年 北海道ニ在籍セシコトナシ(戶籍ニ用ユル町) (村長ノ認印トス)

一何年何月何日 明治二十九年以降 マテ北海道何國何郡何村ニ在籍セシコトアリ(全上)

訓令第三百三十一號(廿四年四月卅日)

町村役場

送籍狀ヲ發送スルトキハ管内外ナ問ハス送籍者ノ中犯罪ニ據リ處刑ヲ受ケタルモノハ其刑名宣告年月日等別紙ニ認メ送籍狀ニ添付スヘキ筈ノ處尙左記ノ事項モ同様取調通報スヘシ

一身分限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノハ其領末
一種痘天然痘濟否ノ領末

訓令第二十六號(廿七年二月十一日)

郡役所 町村役場

町村長ハ其町村本籍人ノ刑罰(經罪以上ノ刑及賭ヲ受ケ及身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告)ヲ受ケタル者ノ取調簿(刑罰ニ付テハ其罪名、刑名、及裁判年月日、身代限、家資分散、破産ニ付テハ處分)又ハ宣告ノ年月日及債務ノ辨償ヲ終ヘ又ハ復權シタルモノハ其年月日トモ記載スルヲ準備キ送籍ヲ要スル届出アルトキハ右帳簿ニ記載アルモノハ該曆本記載ナキモノハ右事項ニ當ル行爲アリシコト無キ旨ノ通知書ヲ送附シ添ヘ送付スヘシ
前項ノ取調簿ハ本年四月限姓氏イロハ別ケニ調製シ一紙ニ二人ヲ記載セス且ツ他日用紙挿入ニ便ナラシムヘシ

訓令第八十四號(二十七年五月十日) 郡役所 町村役場
家資分散若クハ破産ノ決定確定シタルトキ又ハ復權許可ノ決定確定シタルトキハ其都度裁判所ヨリ家
資分散若クハ破産者ノ本籍市區町村長へ通知スヘキニ付本年(二月)訓令第二十六號ノ取調簿中當該
事項ハ其通知ニ據リ登載スル義ト心得ヘシ

訓令第三百三十二號(廿五年十月廿一日)

郡役所 町村役場

戸籍冒頭事項記載欄内ニ登記スル事項中他府縣ヨリ送籍ノモノニシテ本縣取扱ノ例ニ違フモノ例ハ明
治五年以前相續(何々入籍)又ハ相續ノ因由記載ナキノ類ハ戸主ヨリ年月日並相續ノ因由ヲ届出シメ町
村長ニ於テ登記方取計フヘシ但從來入籍ノモノニシテ本令ニ違フモノハ此際訂正スヘシ

訓令第五百五十六號(廿六年十一月廿四日)

郡役所 町村役場

明治十八年(二月)乙卯拾七號達戸長職務取扱手續ニ規定セル入籍報知書用紙ハ郵便葉書ヲ代用スルコ
トヲ得

訓令第三十號(廿六年三月八日)

町村役場

送籍ノ際其送籍狀ニ脱記誤謬等アルトキハ其儘返籍ノ向モ有之哉ノ趣ニ候得共多クハ本人引拂ノ後ニ
屬シ訂正方差支候場合有之且是等往復ニ日子ヲ費シ容易ニ入籍ノ遅ヒニ至ラサルトキハ人民ノ迷惑尠
カラサルニ付自今入籍ニ差支フル事實アルモノ、外ハ一先入籍方取計ヒタル上訂正ノ手續履行候様致
スヘシ

訓令第五十號(廿八年五月四日)

郡役所 町村役場

戸籍ノ送籍狀ヲ發スルニ當リ第一種第二種國民兵在役ノ者ハ其召喚名簿第三種第四種二十歳以下國
民兵在役ノ者ハ徵兵處分ノ事項調書ヲ添へ入籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ
他府縣ヨリ入籍ノモノニシテ前項ノ調書添付ナキモノハ入籍届出ト同時ニ國民兵役ニ關スル事項ヲ届
出シメ國民兵名簿及人員表ヲ整頓スヘシ

訓令第二十三號(十九年十一月廿五日)

戸長 役場

内務省令第十九號第五條但書ニ依リ本籍外ノ者ヨリ差出タル届書ハ左ノ通取扱フヘシ

一 寄留者ニ係ル届書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留届書ト合綴スヘシ但出産ニ於テハ別ニ入寄留届
ヲ爲サシムルニ及ハス

一 寄留者ニ非サル者ノ届書ハ總テ便宜編綴スヘシ

同令第六條第七條第八條及縣令甲第二十三號各條ノ入寄留届寄留者退去届寄留者復歸届及寄留者轉居
届書ハ類集編綴スヘシ

訓令第六十九號(廿九年六月十八日)

郡役所 町村役場

今般内務省訓令第四號ヲ以テ寄留ニ關スル届書取扱方規定ニ付テハ届書ノ送付ヲ受ケタル町村長ハ出
寄留入寄留又ハ退去ノ届ヲ怠ルモノナキヤ否ヤニ注意シ時宜ニ依リテハ本人又ハ地主等ヲ喚問シ
或ハ警察官ニ囑托シテ取調ヲ爲ス等專ラ整理ヲ目的トシテ嚴密施行スヘシ

宮崎縣令乙第八十五號(十九年十二月十七日)
那役所 戸長役場
官有ノ地所又ハ家屋廳下官舎ニ寄留セシモノアル時ハ其地所其家屋所在ノ戸長ヨリ内務省令第十九號并ニ縣令甲第二十三號ニ依リ届出ヘシ但町村共有ニ係ル地所家屋ニ寄留セシモノアル時ハ其地所其家屋ヲ管理スル郡戸長ヨリ同令ニ依リ届出ヘキ儀ト心得ヘシ

宮崎縣令甲第二十三號(十九年十一月十三日)

寄留者届出方左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス
第一條 他町村ヘ寄留シタルトキ自己ノ所有地所有家屋ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家屋ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘク若シ戸長府留外ニ係ルトキハ同時ニ本籍地戸長ニ届書ヲ發送スヘシ
第二條 第一條ノ寄留者寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地所有家屋ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家屋ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ
第三條 第一條寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
第四條 第一條寄留者ニシテ其町村内ニ轉居スルモノハ第一條第二條ノ手續ニ依リ十日以内ニ其地戸長ニ届出ツシヘシ

訓令第七號(二十年一月十一日)

戸長役場

陸軍校學生信條ニ關スル馬丁ハ普通官舎内ニ寄留スル者ト異ナルヲ以テ右馬丁ハ在屯營下士卒同様看做シ本籍地ニ於テハ借入又ハ解備ノ通知若クハ届書ヲ受領シタルトキハ戸籍取扱手續ニ依リ出寄留簿ヲ加除シ戸籍表編製ノ節ハ之ヲ第二人口出入表出寄留ニ算入スヘキ義ト心得ヘシ

訓令第二百十號(廿二年五月十一日)
町村役場
明治二十二年(二月)勅令第十二號ニヨリ赦免ヲ得タル者其證明書ヲ添復族ノ儀届出ルニ於テハ除族ノ爲メ別籍シタル者ハ復籍セシムヘシ

訓令第二百十七號(廿二年八月三日)

町村役場

明治十九年(九月)内務省令第十九號并同年十一月同省令第二十五號ノ違背者ニシテ自首又ハ告發ノ上處斷ヲ受ケタル者アルトキハ裁判所又ハ警察署等ノ通知書ヲ受ケタル上戸籍ニ登記スル儀ト心得ヘシ

訓令第六十二號(廿五年十二月十二日)

郡役所 町村役場

戸數入口ヲ詳カニスルハ政務上最重要ナルニ付毎年未調ニ於テ前年未調ニ對比シ著シキ(人口ハ百數ハ三十戸以上)増減アルトキハ左ノ書式ニ準シタル報告書ヲ調製シ戸口表ト共ニ町村長ハ郡長ニ郡長ハ當廳ニ報告スヘシ但明治二十五年(一月)訓令第十一號ヲ廢ス

書式

戸口増減理由報告書
一 何町(村)本籍人幾人ヲ前年未調幾人ニ對比スルニ若干人ノ増加(減少)ヲ見ルハ除籍者ニ於テ本年
中他府縣ヘ送籍セシモノ幾人、縣内(他郡及他町村)ヘ送籍セシモノ幾人、死亡者(死亡届洩者)幾人、失踪及再籍者除籍幾人、合計若干人減少セシモ加籍者ニ於テ本年中他府縣ヨリ入籍者幾人、縣内ヨリ入籍者幾人、無籍者就籍ノモノ幾人、生産者(生産届洩者)幾人合計若干人増加セシヲ以テ増減差引上本行ノ増加(減少)ヲ生ス

一 何町(村)現住戸數幾戸ヲ前年末調幾戸ニ對比スルニ若干戸ノ増加(減少)ヲ見ルハ本年中本籍者ニ於テ他府縣へ送籍セシモノ幾戸、縣内へ送籍セシモノ幾戸、絶家及廢家セシモノ幾戸、寄留者ニ於テ退去セシモノ幾戸、異炊ヨリ同炊トナリシモノ幾戸、合計若干戸ノ減少アルモ本籍者ニ於テ他府縣ヨリ入籍モシモノ幾戸、縣内ヨリ入籍モシモノ幾戸、分家又ハ別居セシモノ幾戸、寄留者ニ於テ一世帯ヲナスモノ他府縣ヨリ幾戸、縣内ヨリ幾戸、合計若干戸増加セシヲ以テ増減差引上本行ノ増加(減少)ヲ生ス

右ノ通相違無之候間此段及報告候也

明治 年 月 日

郡長(町村長)

備考

本書式ハ一例ヲ示シタルモノナレハ右ノ外ニ増減員トナルヘキ理由アルトキハ項目ヲ分テ詳記スルヲ要ス

乙卯貳拾七號(十六年八月廿三日)

郡役所 戸長役場

後見人職務權限ノ儀ニ付番外ヲ以テ左之通内務省ヨリ被達候條爲心得此旨相達候事

後見人職務權限ノ儀ニ付別紙ノ通太政官へ相伺御指令相成候條爲心得此旨相達候事

内務卿 山田 顯義

別紙

後見人職務權限ノ儀ニ付伺

後見人規則發布ノ義ハ目下急施ヲ要スル事項ニ付客年四月十三日上票シタル旨趣モ有之就テハ伺出ノ府縣へ追テ一般ノ法律制定相成マテ地方從來ノ慣習ニ依リ可取扱旨指令及ヒ來候候爾後後見職務ノ權限伺出ル府縣夥多有之抑後見人ハ當初親族ニ於テ撰任シタルモノナレトモ常ニ警察スヘキ方法モ無之ニ付規則御制定マテ不動產買賣讓渡實書入等ニ限リ其証書又ハ願書ニ親族連署ノ上ナラテハ戸長ニ於テ公証ヲ與ヘサル様相定メ其旨指令及ヒ度右ハ未タ成規モ無之此段相伺候也

内務卿 山田 顯義

明治十六年五月三十日

太政大臣三條實美殿

伺之趣聞届候事

乙第十二號(十七年一月廿五日)

郡役所 戸長役場

失踪逃亡瓦亡及絶家ノ財産ヲ戸長ニ於テ保管スルトキハ財産目錄ヲ作り郡長ニ差出候様可致旨内務省ヨリ達有之候條此旨相達候事

訓令第百十八號(廿一年七月廿一日)

郡役所 戸長役場

失踪又ハ死亡跡遺留財産ヲ其親族ニ於テ保管スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却若クハ交換等ヲ爲サントスルトキ不動產ハ郡長ノ認許ヲ受ケシムヘキ旨及指令候趣モ有之候處自今都テ所管裁判所ノ認可ヲ受ケシムヘシ

戸長役場

訓令第百八十八號(廿一年十二月十二日)

親族又ハ戸長ニ於テ保管スル失踪逃亡并死亡者ノ遺留財産處カニ付從前始審裁判所ノ認許ヲ經タルモ
ノハ自今始審裁判所所在地ヲ除ク外管轄治安裁判所ニ認許ヲ乞フコトヲ得ヘシ

乙第百二十二號(十八年八月十一日)

戸籍上年月日訂正ノ儀ハ當廳ニ可願出答ノ處收元ノ年號ニ係ルモノ
ハ戸長ニ於テ取調ノ上訂正方取計其人年齡可届出此旨相達候事
例ハ慶應四年ハ明治元年ト收元ノ
モノヲ慶應四年ト記載モルノ類

乙第百八十二號(十八年十二月廿九日)

華族ノ輩養子女縁組離縁復籍及貫屬替轉居等ノ節送元籍ノ手續ヲ了シ候ヘ、其戸長ヨリ郡長ニ届出郡
長ヨリ直チニ内省華族局ニ通牒致スヘシ爲心得此旨相達候事

郡役所 戸長役場

宮崎縣令第三十四號(廿六年五月廿一日)

海外旅券下附願手續

海外旅券下附願手續

第一條 海外旅券願書ハ明治十一年(二月)外務省第一號布達海外旅券規則第一條雜形ニ依リ町村長ノ
與書ヲ受テ甲號書式ノ證明願書ヲ添ヘ當廳ニ差出ス可シ但本人姓名ニハ片假名ヲ附スヘシ

第二條 旅券願書ハ本人戸主ナレハ戸主ト肩書シ非戸主ナルトキハ其戸主連署調印ス可シ
戸主ト雖モ未丁年者ナルトキハ其後見人或ハ親族氏名以上連署調印ス可シ

第三條 町村長ハ前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ渡航ノ目的出費ノ途等寫ト取調ノ上ハ都台ナシト認
ムルモノハ其事實ヲ詳記シ願書ヲ添ヘ郡長ヲ經テ上申スヘシ

郡長ハ書式ニ適否其他不都合ノ有無ヲ審察シ意見アルトキハ副申ノ上差出ス可シ

第四條 知事ニ於テ證明シタル願書ハ本人ニ下付セ直ニ願書ニ記載ノ官廳ニ送致ス可シ

第五條 旅券交付アリタルトキハ當廳ヨリ郡長ヲ經テ本人ニ下付スルニツキ乙號書式ノ受領書ニ手
料金五拾錢ノ登記印紙ヲ貼用消印ノ上差出シ之ト引替ニ旅券ヲ受領ス可シ登記印紙ノ消印ハ署名ノ
下ニ捺印スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケ消印ス可シ

第六條 郡長ニ於テ旅券ヲ下付シタルトキ受領書ハ即日當廳ニ差出ス可シ

第七條 旅券ヲ受領シタルモノハ行先ヲ詳記シ出發前本籍町村長ニ届出ツ可シ其歸朝シタルトキハ十
日以内ニ本籍町村長ニ届出テ旅券ハ最初受取リタル官廳ニ返納ス可シ

甲號書式

證明願

私儀何々ノ爲メ(渡航ノ目的ヲ)何處ニ罷越度候ニ付別紙旅券願書ニ御証明被成下度(尤モ旅券ハ何地ニ
於テ受取度候間添得御下附被下度)此段奉願候也

族籍職業

戸主(非戸主ナレハ戸主)

何

某 印

生年月日

明治 年 月 日

宮崎縣知事宛

備考 第六條第二項ノ場合ハ活版内ノ文字ヲ加フヘシ
乙號書式

登記
印紙 受領書

第何號(海外旅券ノ記載ノ番號ヲ記スヘシ)
一 海外旅券

壹葉

但何月何日付ヲ以テ何々ノ爲メ何國へ渡航ニ付下付願山何月何日付御下付ノ分
右受領候也

明治 年 月 日

族籍

何

某 印

願書ニ記載シタル官廳宛

訓令第四百十號(二十年七月十六日)

戸長 役場

海外へ渡航ノ者開港場等へ一時止宿中直ニ旅券願書提出ノ者モ有之趣ニ候處右ハ明治十一年(二月)外務省第壹號布達文中旅券願書式ニ依リ相當ノ順序ヲ經サルモノハ受理相成ラサルニ付心得違無之様篤ト其向へ諭示致シ置クヘシ

訓令第六十三號(廿一年四月廿八日)

戸長 役場

他府縣へ出稼雇人ヲシントスル者身元ヲ証明スル添書ヲ請求セントキハ原籍又ハ現住地戸長ニ於テ事

實相違ノ有無ヲ取調添書取計フヘシ

訓令第四十一號(二十二年三月十三日)

戸長 役場

家督相続ノ義ハ家名ト共ニ多クハ財産ノ相続ヲモ爲スヘキモノナルニ右相続ヨリ多少ノ時日ヲ經過シタル後ニ至リ其相続ノ登記ヲ請求スルニ際シ家名財産共ニ相続シタルヤ否ノ區別ヲク戸長ニ於テ證明ヲ與ヘ其爲メ登記請願人ハ徒ラニ時日ヲ費ス等ノ幾箇々有之趣ニ付爾來ハ該証明出願ノ時々戸長ニ於テ篤ク事實ヲ取調ヘ家名財産共ニ讓リ受ケタルヤ否ノ區別判明相立テ証明書附與スヘシ

社 寺

甲第四十號(十七年四月八日)

明治九年教部省第四號布達廢止候條目今寺院佛像他管持出開帳之儀ハ該寺住職擅家總代無擅家ノ寺院ハ信徒總代及本寺法類連署之上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願セシムヘシ尤寶物持出之義ハ不相成旨内務省ヨリ達有之候條此旨布達候事

乙第百四十二號(十七年八月廿三日)

本年第十九號布達ヲ以テ神佛教導職被廢候處神葬祭ノ儀ハ各教派ニテ是迄葬儀取扱ノ體當分従前ノ通可取扱儀ニ候條其旨諭示可致此旨相達候事

郡役所 戶長役場

甲第百三十一號(十七年九月十六日)

本年太政官第十九號布達ヲ以テ神佛教導職被廢各管長へ寺院住職任免ノ義委任相成候ニ付テハ自今任免ノ都度檀徒總代連署ノ上本人ヨリ當廳へ可届出此旨布達候事

甲第百五十四號(十七年十一月十日)

祠宇並寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財産ニ關スル諸願寺院ハ本寺ハ管長ノ添書ヲ要シ候條此旨布達候事

訓令第六十四號(廿四年三月十日)

郡役所 町村役場

神社寺院持添ノ田畑山林等ノ義ハ社寺永額上最モ重要ノモノニ付不得已之カ處分ヲ要スルトキハ知事
ハ願山ヲ許可ヲ受ク可キ筈ニ候處氏子或ハ檀徒等ノ協議ノミヲ以テ漫ニ賣却セシ向モ有之哉ノ趣ニテ
不都合ニ候條以後右等心得違ノモノ無之候取締致ス可シ但町村長ハ此際際ニ神官住及氏子檀徒總代ノ
モノハ示達シ置ク可シ

訓令第四十二號(廿四年六月十九日)

縣令第四十二號(廿四年六月十九日)
社寺官國幣社 總代人選舉及財産取扱方等左ノ通定ニ但明治十四年八月鹿兒島縣甲第百六十六號布達ハ廢
止ス

一社寺總代人ハ氏子檀家中モノハ信徒 相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上ヲ選舉シ町村役
場ハ屆出該社寺ニ關ル願出等ハ海テ連署ヲ以テ差出スヘシ但從前ノ總代人ハ此際一般ニ改選スヘシ
一總代人ハ滿三年毎ニ改選町村役場ハ屆出ヘシ尤期限中ト雖トモ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時
改選スヘシ但臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ケナシ
一社寺有收入財産ハ田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱 其社寺有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ附スルモ
ノトノ豫約毎社寺適宜相定メ平素混雜セサル様取調町村役場ハ屆出ヘシ但從來屆出ノ分別ニ變更ナ
キモノハ此際屆出ルニ及ハス

訓令第七十八號(廿四年七月卅一日)

本年(六月)縣令第四十二號ニ依リ社寺有收入財産區分取調ノ節ハ社寺總代人ヨリ該神官住職ニ協議ヲ
遂ケ區別セシメ候様取計フヘシ

郡役所 町村役場

訓令第七十九號(二十四年七月卅一日)
本年(六月)縣令第四十二號ニ依リ社寺總代人選舉及社寺有收入財産區分屆出ノ節ハ町村役場ニ於テ一
町村取經メ郡役所ヲ經テ其人名及財産ノ區別ノハ從來屆出ノ分 報告スヘシ但改選又ハ區別ヲ變更ス
ルトキハ事由ヲ詳記シ其時々報告スヘシ

郡役所 町村役場

甲第壹號(十八年一月九日)

社寺境内何木ノ儀ハ風致ニ關シ容易ニ伐採不相成筈ニ有之付テハ民有地ト雖モ不得止伐木ヲ要スル節
ハ當廳ヘ可願出此旨布達候事

訓令第二百號(廿四年九月十九日)

官國幣社境内ニ於テ風火水災及盜難等有之候際ハ即時被害ノ實況ヲ取調詳細報告スヘシ

官國幣社

訓令第二百二十七號(廿五年十月六日)

神社取經上必要ト認ムルモノハ左ノ雛形ノ制札ヲ建設スルコトヲ得

縣社以下神官

訓令第二百二十八號(廿五年十月六日)

縣社以下取經ノ爲制札建設ノ節ニ付今般訓令第二百二十七號ノ通神官(訓令候條此旨心得ヘシ

郡役所 町村役場

乙第百四十四號(十八年九月廿八日)

社寺所藏ノ古書畫古器物參看圖書寮官員臨時出張閱覽候儀モ可有之旨其筋ヨリ通知有之候條其節差支

戶長 役場

無之様部内社寺官國幣社（豫テ示達可致置此旨相違候事）

訓令第五號（廿九年一月十六日）

郡役所 町村役場

明治廿三年（四月）訓令第百三十三號ニ依リ進達ノ社寺寶物古器物古文書ノ加除ニ關スル件ハ其都度事由ヲ詳記シ神社ハ神職氏子（信徒）總代寺院ハ住職及檀徒總代人等運署管長ノ添書ヲ得テ願出シムベシ前項ノ物件水火盜難等ニテ散失ノ場合并ニ明治二十二年（十二月）訓令第百九十八號ニ依リ進達ノ社寺明細帳ノ異動ニ關シテハ前項ノ手續ニ依リ事由ヲ詳記シ届出シムヘシ但シ明細帳中祭神本尊社格社寺號由緒ノ條ニ於テ誤謬訂正ヲ要スル場合ハ當初誤謬ニ出シテ手續ヲ詳具シ尙之ニ關スル證左アレハ其證左ヲ添ヘ訂正ヲ出願セシメ町（村）長并ニ郡長ニ於テハ篤ト取調ノ上意見ヲ具シ差出スヘシ

宮崎縣令第八十四號（廿年十一月十八日）

社寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭祀法用ニ必要ナル部分公賣處分ヲ請タル場合ニ於テハ該處分ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ届出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿二ケ年間ノ猶豫ヲ與フヘシ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二ケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ削除ス

訓令第六十一號（廿年四月一日）

官國幣社

神職俸給規則左ノ通り之ヲ定ム

神職俸給規則

第一條 神職ハ年俸ヲ支給ス其額下表ノ如シ

第二條 年俸ハ十二ニ分チ毎月二十六日之ヲ支給ス
 第三條 新ニ職ニ補スルトキハ實際職務ニ就キタル日轉職ハ前職ノ事務ヲ了リタル翌日増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ新職ノ俸給日割ヲ以テ支給ス
 第四條 退職死亡ノトキハ毎月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以テ計算セス
 第五條 願濟休暇旅行及私事ノ故障ニ依リ職務ヲ執ラサルトキハ三十日以後病痾ニテ同上ノ者ハ九十日以後日割ヲ以テ俸給ヲ半減スルモノトス但賜暇休養及暑中休暇忌引ハ此限ニアラス
 第六條 日割計算ノ法ハ年俸十二分ノ一ヲ以テ其月ノ現日數ニ割合フモノトス

神職俸給表

社別	官	司	稱	宜	主	典
官幣大社	百貳拾圓	七拾圓	五拾圓			
官國小社	百圓	六拾圓	四拾圓			

訓令第百九十三號（廿年十一月十四日）

官國幣社

神職旅費規則左之通之ヲ定ム

神職旅費規則

第一條 旅費ハ別表ノ定ムル處ニ從ヒ旅車賃船賃馬賃ニ順路ノ路程ニヨリ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ海灣河湖等ニシテ海里ノ分明ナラサルモノハ通常ノ里程ニ應シ車馬賃ノ額ヲ以テ支給ス
 第二條 日當ハ陸路六里未滿旅車十哩未滿及漁船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セス但社務ノ都合ニ依リ

宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應シ之ヲ支給ス
 第三條 赴任ノ時ハ車馬賃旅費船賃ニ限リ本職相當額ノ二倍ヲ支給シ新ニ任用スル爲メ召喚スル
 モノハ出發地ヨリ到着地迄單ニ其新職相當ノ旅費ヲ支給ス
 第四條 旅行中私事ノ爲メ迂路ヲ經過スルトキハ順路ノ路程ニ依リ旅費ヲ支給ス此場合ニ於テハ日當
 ナ支給スル爲メ日數ヲ計算スルハ汽車旅行ハ一日二百哩詰汽船旅行ハ百海里詰陸路旅行ハ十二里詰
 一日ノ旅行ハ十二時間一時間ノ行程ハ一日里程ノ十二分ノ一トシ端里數ノ一時間以上ニ涉ルモノハ
 一日ニ精算スルモノトス

旅費額

職名	汽車賃	汽船賃	車馬賃	日當
一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	
金四錢	金五錢	金拾錢	金七拾錢	
金參錢	金四錢	金六錢	金四拾錢	

訓令第三十五號(廿二年三月一日)
 官國幣社務所
 自今官國幣社補宜主典出京ノ節ハ速ニ内務省へ届出ヘン其歸縣ノ節モ同亦但官司出京ノ節間ニハ届
 出サル向モ之アル趣今後必ス届出ヘン

訓令第三百三十五號(廿六年十月六日)
 官國幣社
 官國幣社ヨリ稟申之儀ハ明治二十年內務省訓令第十八號ノ旨モ有之候得共自今官司旅行ノ儀ハ其事故
 並日數地名等ヲ明記シ當廳ヲ經テ内務省へ稟請スヘシ但父母病氣危篤ニヨリ難關事情ノモノハ當廳ニ
 願出ヘシ

訓令第四百一十一號(廿四年五月十三日)

郡役所 町村役場

今般農商務省令第五號ヲ以テ社寺上地官林委託規則發布ニ付該規則ニ依リ官林ノ委託ヲ受ケタル神社
 ハ政府ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘキ筋ニ有之然ルニ神官ノ所爲ニシテ神社ノ爲メ作スモノト又神社
 ノ爲メ作スニアラス全ク神官自身ニ屬スルモノトノ區別アリ其神官自身ニ屬スル所爲ノ爲メ神社ニ損
 害ヲ與ヘタルトキハ神社ハ其神官ニ對シ賠償ヲ要求スル等之カ救濟權ヲ有スルハ勿論ニ候得共神官ハ
 神社ノ事務ヲ行フモノニ付ル所爲ニ就キ彼是責任ノ區分難立場合アルノミナラス假令其目的神社ノ爲
 ニスルニ在ルモ神官ノ專斷ニ依リ神社ノ損害ヲ惹起ス候有之ニ於テハ神社ノ盛衰ニ影響シ不都合
 ニ候條各神社ニ於テ該規則ニ依リ行フ所爲ニ付適宜神官以テ執行スル事項及豫メ氏子等關係人ノ協議
 ナ要スル事項ト神官ノ負フヘキ責務トヲ取定メ置カシメ精々不都合ヲ生セサル様取計フヘシ

訓令第四百十二號(廿四年五月十三日)

郡役所 町村役場

社寺上地官林委託規則ニ據リ委託ヲ受ケタル社寺ニシテ規約ヲ定メタルトキハ委託願書及規約寫ヲ添
 三日以内ニ神社ハ神官并氏子惣代人寺院ハ住職并檀徒惣代人等連署シ町村長與書ノ上届出シムヘシ

訓令第九十四號(廿四年九月十四日)

官國幣社

官國幣社神職奉務規則左之通相定ム

官國幣社神職奉務規則

- 第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗紀ニ從事シ國ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國體ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシテ以テ本務ヲ盡スベシ
- 第二條 官國幣社祭典ハ國家禮節ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スベシ
- 第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラザレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スヘカラス
- 第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコトヲ得但臨時祭ヲ行ハントストキハ當國及所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第五條 人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セズ悠久ノ保存ヲ要ス
- 第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ樣監護シ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スベシ
- 第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場合ハ官國幣社ト雖モ氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上當國ノ許可ヲ得ヘシ
- 第九條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

訓令第七十一號(廿四年七月十六日)

縣鄉村社神官奉務規則左ノ通定ム

縣鄉村社神官

縣鄉村社神官奉務規則

- 第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スベシ
- 第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得但臨時祭ヲ行ハントストキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セズ汚穢破損ニ至ラシムヘカラス
- 第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラテ如何ナル場合ト雖モ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス
- 第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スベシ
- 第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ止得必要素アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經當國ノ許可ヲ受クベシ
- 第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

訓令第三百三十六號(廿六年十月六日)

官國幣社

神社ハ祭典祝日等ニ付關シ可カラサル儀式モ有之且社頭管理上ニ就テモ亦夫々ノ要務有之神職ハ一切内外ノ社務ヲ添セ司ル管ニ付宮司ハ勿論禰宜主典ト雖モ官祭ヲ始メ月次祭典等謂ハレナク缺席不相成ノミナラス日々社頭又ハ社務所ニ於テ各其職務ニ從事スヘキモノ有之候條神職一同此趣旨ヲ体シ怠慢ノ所爲無之樣致スベシ

訓令第二百十五號(廿四年十月十三日)
縣鄉村社神官取締規約準則左ノ通定

郡役所 町村役場 縣鄉村社神官

神官取締規約準則

- 第一條 神官取締規約ハ縣下ヲ通シ一區畫トナシ各郡區北那珂ヲ分區トスヘシ
第二條 縣鄉村社ノ神官ハ渾テ規約ニ漏ルコトヲ得ス
第三條 規約ハ本年(七月)訓令第七十一號縣鄉村社神官奉務規則ニ基キ之ヲ定メ尙左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 廳下ニ取締所各郡ニ取締分所ヲ設置スルコト
 - 一 取締所及分所ニ役員ヲ置キ規約ニ關スル事務整理ノコト
 - 一 取締又分所ノ經費其他一切ノ費用收支ニ關スルコト
 - 一 前項ノ外規約ニ必要ナル事項
- 第四條 規約ハ縣廳ノ認可ヲ請クヘシ其變更スルトキ亦同シ

訓令第七十二號(廿四年七月十六日)

郡役所 町村役場

今般訓第七十一號ヲ以テ縣鄉村社神官奉務規則ヲ定メ候條此旨心得ヘシ

告示第五百五十八號(廿四年十二月十一日)

社寺ノ境内地ハ官民有地ニ不拘從來査定ノ區域ハ輒ク變更セザル候ト得ヘシ但特別ノ事故アリ事實不
得已分ハ該事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

訓令第四十五號(廿八年四月二十三日)

郡役所 町村役場

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内有地ニ準シ取扱フヘキ儀ト心得ヘシ

訓令第九十四號(廿七年五月十八日)

官國幣社神職 縣社以下神社神職

官幣社國幣社及ヒ縣社以下神社ノ大祭並公式ノ祭祀ハ左ノ通心得ヘシ

- 第一條 官幣社及ヒ國幣社ノ大祭ハ左ノ如シ
- 一 祈年祭
 - 二 新嘗祭
 - 三 例祭
 - 四 臨時奉幣式
 - 五 本殿遷座
- 第二條 官幣社及ヒ國幣社ノ公式ノ祭祀ハ左ノ如シ
- 一 元始祭
 - 二 紀元節
 - 三 大祓
 - 四 通拜式
 - 五 殿遷座
 - 六 神社ニ特別ノ由緒アル祭祀
- 第三條 縣社以下神社ノ大祭並公式ノ祭祀ハ官幣社及ヒ國幣社ニ準スヘシ

訓令第四百十三號(廿五年十一月十日)

郡役所 町村役場

縣社以下例祭ハ從來ノ定日ニ執行マキノ處近來氏子又ハ信徒等ニ於テ猥ニ其定日ヲ變更ノ尙有之哉ノ
趣相聞ヘ不都合ニ候條右等ノ所爲無之様注意スヘシ但不得已事情有之定日ヲ變更セントスルトキハ知
事ノ認可ヲ受クヘシ

訓令第八十二號(廿四年八月十三日)

町村役場

寺院法會ノ義自今出願ニ及ハズ其臨時ニ係ルモノハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出管外ニ係ルモノハ
従前ノ通出願候様住職ハ該方取計フマシ

訓令第四百七十七號(廿五年十一月十七日) 官祭招魂社及官軍墳墓所在地
明治二十三年(三月)訓令第七十八號官祭招魂社及官軍墳墓取扱手續左ノ通改定ス

官祭招魂社及官軍墳墓取扱手續

第一條 招魂社及墳墓ニ關スル事項ハ其所在地 東曰杵郡富高村大字日知屋 町村長之ヲ管理シ郡長之ヲ
監督スルモノトス 宇遠ヶ崎墳墓ハ細嶋町長

第二條 各社ニ受持神官一名各墳墓ニ監守人一名置ク

神官ハ招魂社費收支ノ取扱及社殿ノ守護祭典ノ執行境内ノ掃除等ヲ負擔セシム

監守人ハ墳墓費收支ノ取扱及墳墓ノ守護境内ノ掃除等ヲ負擔セシム

第三條 受持神官及監守人ハ郡長ノ具申ニ依リ知事之ヲ命免ス

第四條 郡長ハ受持神官及監守人ヲ推薦スルトキハ其社又ハ墳墓ニ可成縁故アリテ性行其他適當ト認
ムル者ヲ選定シ其族籍住所氏名及生年月日ヲ詳記シテ之ヲ具申ス可シ

第五條 受持神官ニハ社費ノ中ヨリ給料トシテ年額金七圓雜費 筆紙墨其トシテ同金五十錢及監守人ニ
ハ墳墓費ノ内ヨリ給料トシテ東曰杵郡富高村大字日知屋宇遠ヶ崎ハ年額金貳拾四圓西諸縣郡飯野村

大字坂元字板ノ元西曰杵郡高千穂村大字三田井字城ヶ平ハ同各金四圓宮崎郡大淀村大字大塚字無量
地ハ全金參圓其他ハ全各金貳圓并雜費同上トシテ全金五十錢ヲ支給ス但就職罷免又ハ死亡ノトキハ
日割ヲ以テ之ヲ支給ス若シ剩餘金ヲ生シタルトキハ營繕費ニ繰込ムモノトス

第六條 毎年度交付スヘキ社費ハ附録甲號表面墳墓費ハ全乙號表面ノ如シ

第七條 受持神官及監守人給料並雜費營繕費ハ毎年度四期ニ區分シ受持神官及監守人給料并雜費ハ六
月九月十二月三月ニ營繕費ハ四月七月十月一月ニ受持神官及監守人ニ金庫ヨリ送付セシメ會計主務

官ヨリ規定ノ領收證用紙ヲ送付スヘキニ依リ金員到達シタルトキハ該領收證用紙ニ年月日ヲ記入シ
署名捺印シテ金庫ニ交付セシム可シ但受持神官及守人更迭又ハ死亡ノ場合ニ於テハ前任者ノ給料給
料及雜費ハ其都度交付ス可シ

第八條 營繕費ハ大藏省預金局又ハ郵便爲替貯金管理所ヘ直ニ預ケ入テナサシム可シ預金又ハ貯金通
帳ハ郡役所ニ預ケ置キ入用ノ都度請取方申出サシム可シ

第九條 招魂社ノ祭祀料及神饌料ハ祭日ヨリ二十日以前ニ受持神官ヨリ町村長及郡長ヲ經テ請求セシ
ム可シ但送金ノ手續ハ第七條ニ全シ

第十條 招魂社ノ官祭ハ豫メ定メタル祭日ニ執行セシム可シ若シ已テ得サル事故アリテ當日執行シ難
キトキハ其理由ヲ具シ受持神官ヨリ町村長及郡長ヲ經テ伺出サシム可シ

第十一條 郡長ハ招魂祭ノ官祭執行後五日以内ニ祭典執行ノ形況在郷軍人參拜ノ人員等詳細報告ス可
シ

第十二條 營繕費ハ社殿墓碑及境内柵欄等改造修繕ノ費用ニ充ツルモノトス
前項ノ金員ハ第十三條ノ順序ヲ經タル後預ケ金引出ノ手續ヲナサシム可シ

第十三條 改造又ハ修繕ヲ要スル箇所アルトキハ受持神官又ハ監守人ヨリ仕様目論見帳 明治十八年乙
五號及繪圖面ヲ添ヘ町村長及郡長ヲ經テ伺出サシム可シ 地第三百五十

第十四條 金錢ノ出納ハ第一號書式ニ依リ社費又ハ墳墓費受拂簿ヲ設ケ明瞭記載セシメ町村長ハ其都
度之ニ檢印ス可シ但証書類ハ夫々編纂保存シ置キ他日檢査ノ用ニ供セシム可シ

第十五條 社費又ハ墳墓費ハ第二號書式ニ依リ報告書ヲ調査セシメ毎年度四月五日限り町村長連署ノ
上郡長ニ差出シ郡長ハ調査ノヒ當廳ニ差出ス可シ

第十六條 社費又ハ墳墓費ノ收支及社殿并墳墓ノ守護境内ノ掃除等ハ臨時吏員ヲ派遣シ檢査セシム

附 則

第十七條 第三條第四條ハ來ル明治二十六年一月一日ヨリ第五條第六條ハ全年四月一日ヨリ施行ス
第十八條 第三條ノ受持神官及監守人ハ來ル十二月十日迄ニ具申ス可シ
第十九條 現今勤務ノ受持神官及監守人來ル十二月三十一日限リ其資格消滅スルモノトス

訓令第二十八號(廿七年二月十五日)

官制階社神職 縣社以下神官

衆議院議員ノ選舉ニ際シ神官神職ハ自己享有ノ選權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論セス總テ政論ニ容喙
シ朋黨ニ加盟シ選舉ノ競爭ニ關與ス可ラス專心一意本務ニ從事スヘシ

訓令第七十三號(廿八年八月二十三日)

郡役所 町村役場

明治二十八年(八月)内務省令第十號 社縣社以下神社神職登用規則ニ依リ取扱手續左ノ通定ム

第一條 府社縣社以下神社神職登用規則以下單ニ規 第六條ニ依リ氏子 氏子ナキトキハ信 惣代ニ於テ候
則ト記ス 徒以下皆之ニ全シ

補考ヲ推薦スルトキハ其資格ニ依リ履歷書ニ依リ 別紙雛形 并左ノ書類ヲ添ヘシムヘシ但シ現ニ神職タルモ
ノニシテ資格ノ異ナラサルモノハ此限ニアラス

一規則第一條ニ該當ノモノハ及第證書

二規則第二條第三條ノ第一項ニ該當ノモノハ其神社ノ舊神官又ハ神社所在ノ町村ニ累代居住セシ者

三名以上ノ證明書及證據書類寫、其系統人名調書ニ町村長ノ證明シタルモノ

三規則第二條第三條ノ第二項ニ該當ノモノハ卒業證書第三項ニ該當ノモノハ學階證書寫ニ皇典講究

本分所ノ證明シタルモノ

四規則第二條第三條ノ第四項ニ該當ノモノハ任免ノ辭令書

五規則第四條ニ該當ノモノハ其辭令書

六本條第二項乃至第四項ニ當ルモノハ直接國稅ノ年額ヲ昭シタル書類ニ納稅地町村長ノ證明シタル
モノ

第二條 現ニ神職タルモノヲ候補者ニ推薦スルトキハ本務神社ニ係ル氏子惣代ノ意見書ヲ添付セシム
ヘシ

第三條 規則第五條ニ依リ氏子惣代ニ候補者ノ推薦ヲ命スルトキハ郡長及町村長ヲ經テ送達スルニ付
氏子惣代ハ規則第六條第七條ニ依リ候補者ヲ推薦シ前條ノ書類ヲ添ヘ町村長ニ差出サシムヘシ但推

薦書ニハ候補者ノ本籍、現住所、姓名、年齢及社格、社名、所在地名ヲ記シ希望ノ順序ニ依リ登記
セシムヘシ

第四條 町村長ハ第三條ノ書類ヲ受領シタルトキハ調査ノ上行狀ニ關シテハ意見ヲ具シ郡長ヲ經テ知

事ニ差出スヘシ

第五條 神職ヲ辭セントスルモノハ其事由ヲ記シタル願書ニ氏子惣代ノ意見書ヲ添ヘ町村長郡長ヲ經
テ知事ニ差出サシムヘシ

(別紙)(用紙美濃十三行罫紙)

履 歷 書

何 某 印

何^附華(士)族(平民) 舊何藩 幼名某

年號月日何國何郡何町(村)ニ於テ生

本籍何國何郡何町(村)大字何番戶

現住所何^附府何郡何町(村)大字何番戶

年號月日 修學・業務・任免・賞罰等 官衙校名等

備考。一 履歴ハ明治元年以後ノ分ニ限リ記載スヘシ、一 明治五年改曆以前ノ年號ニハ干支ヲ記載スヘシ
一 任免賞罰及修學證書等アルモノハ其全文ヲ記載シ其他ノ事故ハ要領ヲ記載スヘシ

告示第十八號(二十九年二月八日)

社司社掌試験格例及出願手續等左ノ通心得ヘシ

社司社掌試験格例及出願手續

第一條 社司社掌ノ試験ヲ受クルコトヲ得ヘキモノハ年齢滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサルセノタルヘシ

一 重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セズ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債權ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

第二條 社司ノ試験科目ハ左ノ加シ

古事記(口述筆答) 職原鈔(全上) 祝詞式(全上) 作文(詞祝体公文体)

現行神社法令(筆答) 算術(四則)

第三條 社掌ノ試験科目ハ左ノ如シ 古事記(口述筆答) 祝詞式(全上) 作文(祝詞体公文体) (現行神社法令(筆答) 算術(四則))

第四條 社司社掌ノ試験ヲ受ケント欲スル者ハ第一號書式ノ願書ニ町村長ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經由シテ告示ノ日限内ニ差出スヘシ

第五條 一人ニシテ同時ニ社司社掌ノ試験ヲ出願スルモノ社掌試験ニ合格セサルトキハ社司ノ試験ヲ行ハス

第六條 試験ノ評點ハ各科目十ヲ以テ定點トシ各科五點以上ヲ得クル者ヲ合格トス

第七條 試験ニ合格シタル者ニハ第二號書式ノ合格證書ヲ附與ス

第一號書式

(社司)(社掌)試験願

私儀(社司)(社掌)志願ニ付試験相受ケ度別紙履歴書相添ヘ此段奉願候也

年 月 日

住所(寄留者ハ寄留地トモ) 族籍職業

氏 名 印

知 事 宛

右出願ノ趣相違無之候也

年月日

履歷書

何那何町村長

氏

名

印

旅籍職業

氏

名

生年月

一本籍何府縣郡市町村番戸主何某幾男兄弟等

一寄留地何府縣郡市町村番戸(現今寄留者ニ限ル)

一何年月ヨリ何地某ニ就キ又ハ何地官公何學校ニ於テ何年月迄何學科ヲ修ム

一何年月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修メ何年月卒業其證書寫別紙ノ通

一何年月ヨリ何年月迄何地何神社祠官又ハ祠掌奉務

一何年月何地ニ於テ何々事由ニ依リ賞ヲ受ク其辭令書寫別紙ノ通

一重罪輕罪ヲ犯シタルコトナシ

一破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セス又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル等ノコト

ナシ

一其他學業職務賞罰ノ履歷ハ前項ニヨリ順次記載スヘシ

右之通相違無之候也

年月日

右

氏

名

印

第二號書式

合格證書

族籍

氏

名

生年月

右者(社司)(社掌)試験ニ合格シタルヲ以テ此證書ヲ附與ス

年月日

宮崎縣知事位勳爵

氏

名

印

番號

訓令第二十九號(二十九年三月三十一日)

郡役所 町役場

縣社以下神職候補者推薦書差出後補命前候補者死亡若クハ地租金貳圓未満ノ減少其他資格ヲ欠キタルトキハ町村長ハ事由ヲ詳記シ郡役所經由速ニ申報ス可シ

農工商

戊第百七號(十八年九月廿二日)

民事裁判上身分限財產處分ノキニ限リ郵便切手四枚以上連續セサル者ト雖モ驛遞本局若クハ同出張局兼攝郵便電信局ニ於テ買戻相成旨本年戊第三十號ヲ以テ相違置候處尙諸稅(戶數)不納ニシテ財產公賣場合モ右手續ニ準リ買戻相成候條爲心得此旨相違候事

郡役所

戊第三拾號(十八年四月二日)

民事裁判上身分限財產取附候郵便切手所持スルモノアリ該切手ヲ公賣財產ノ中ヘ加フヘキ爲メ郵便條例第三拾六條第三拾七條ニ依リ買戻シテ乞ヘントスルモ第三拾七條ニ在リテハ四枚以上連續シタル者ニ非ヤレハ其買戻シノ請求ヲナスヲ得サル成規ニ候處同後其枚數ノ多寡ヲ問ハス聯續セサル者ト雖モ身分限財產處分ノ時ニ限リ驛遞局若クハ同出張局ノ兼攝スル郵便局ニ於テ郵便條例第三拾七條ニ準據シ特別ヲ以テ買戻相成候爲心得此旨相違候事

郡役所

乙第百拾貳號(十八年七月二十五日)

官吏特派郵便局郵便物裝配人採用規則改正ニ付右裝配人志願者及ヒ其身元引受人ヨリ身元証明方申出候節ハ左ノ書式ニ倣ヒ篤ト調査ヲ遂ケ與書貼印可致此旨相違候事

戶長役場

訓令第百七號(二十年六月十七日)

虎列刺病流行ニ際シ該患者アル家并比隨交通遮斷ノ場合ニ於テ其向キハ宛タル郵便物ハ電報等右集

警察一般 戶長役場

配人ニ於テ配達方チ乞フトキハ故障ナク其求ニ應スヘシ

訓令第七十五號(二十八年九月四日)

郵便電信局ニ於テ傳染病ノ爲メ交通遮斷ノ家宅ニ郵便物及電報ヲ配達セントスルトキ出限ノ警察官若クハ檢疫官ニ其交付ヲ依託シタルトキハ職務執行上差支ナキ限リハ其依託ニ應ズヘシ

警察署 警察分署

甲第貳拾四號(十六年九月八日)

郵便物遞送ノ儀ハ速達ヲ要スルヲ以テ迫々人力車又ハ馬車ヲ以テ遞送相成候ニ付テハ郵便物ヲ積載スル車馬ハ他ノ人力車又ハ馬車荷車等途上ニ遭遇スルハ可成郵便車馬ハ道路ヲ讓リ郵便物遞送ノ妨ケヲ爲スヘカラス此旨布達候事

甲第百三拾八號(十八年十一月二十四日)

管下在來ノ各驛ヲ廢シ更ニ左ノ各驛ヲ置候條此旨布達候事

- 宮崎郡 宮崎驛 田野驛
- 北那珂郡 折生迫驛 廣瀬驛
- 南那珂郡 鉄肥驛
- 北諸縣郡 都城驛
- 西諸縣郡 小林驛
- 東諸縣郡 高岡驛
- 兒湯郡 高鍋驛 都農驛 美々津驛 小川驛

- 東臼杵郡 延岡驛 細島驛
- 西臼杵郡 三田井驛 桑弓野驛

乙第八拾六號(十八年六月三日)

道路修繕等ニ因リ郵便線路中往來止メ又ハ車馬止メ等ノ箇所ニシテ其通行ヲ得ラルヘキ限リハ郵便物遞送ノ脚夫又ハ其車馬ニ限リ通行爲致候候取計此旨相達候事

郡役所 戸長役場

訓令第九十八號(二十年五月二十七日)

郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ニ際シ郵便電信局郵便局ヨリ取調ヲ乞フキハ故障ナク其求ニ應スヘシ

戸長 役場

訓令第百十九號(二十五年九月十六日)

警察部 監獄署 郡役所 警察署
警察分署 監獄支署 尋常師範學校 尋常中學校

管内公用約束郵便規則左ノ通之ヲ定ム但明治十九年(五月)乙第七十五號全丁第五十號全坤第百三十號達全二十三年(三月)訓令第五十一號ハ廢止ス

管内公用約束郵便規則

第一條 左ニ記載スル公用郵便物ハ管内ノ往復ヲ限リ郵便切手ヲ貼付セサルモノトス

- 一 縣署
- 一 警察署
- 一 監獄署
- 一 郡役所

一 縣立學校
 一 右廳衙ニ屬スル憲衛
 但直稅署間稅署及全
 上分署ヲ除ク
 一 右廳衙ノ吏員

ノ間ニ往復シ及諸向ヘ發スルモノ

但收稅長直間稅署長全上分署長收入官吏收稅屬直間稅署全上分署ノ雇員ヲ除ク

第二條 前條ノ郵便物ト雖モ書留手數料及別配送料ハ郵便切手ヲ貼用シ配送証明ヲ要スルモノハ証明料ヲ納ムヘシ

第三條 公用約束郵便物ハ必ス壹個毎ニ其表面ニ公用ノ二字ヲ朱記スヘシ

第四條 公用約束郵便物ハ部署ヨリ發スルモノハ廳名課ヨリ發スルモノハ廳及部署名ト併記シ吏員ヨリ發スルモノハ其官比名ヲ記載シタルモノニ限ル

第五條 吏員出張巡回ノ節發送シタル公用約束郵便物ハ一ヶ月分ヲ翌日五日迄ニ一ヶ月内ニ歸廳(校)スルモノハ歸廳(校)後一週内ニ別紙甲號雛形ノ通取調其廳(校)ニ報告スヘシ

第六條 前二條ノ公用約束郵便物ハ別紙乙號雛形ノ通取調毎年一月十日限其廳(校)ヨリ本縣内務部ニ報告スヘシ

第七條 吏員在廳(校)ノ節ハ其廳(校)ノ往復主任又ハ宿直ヲ經由スルニアラサレハ公用約束郵便ヲ發スルヲ得ス

第八條 第三條第四條ノ手續ヲナサ、ルモノハ約束郵便ノ効ナキモノトス

第九條 明治二十五年以來出張巡回シタル吏員ノ發送ニ係ル公用約束郵便物ニシテ報告未済ノモノハ本年十月五日ニ本則第五條ニ據リ報告ノ手續ヲナスヘシ

甲號雛形

何地出張(巡回)中(某月分)約束郵便物數表		官 氏 名 印	
種 類	個 數	目 量	相 當 稅 額
			圓 錢

乙號雛形

自明治何年一月約束郵便物數表		官 廳 (校) 名	
至明治何年十二月	差立元廳(校)名	種 類	個 數
			目 量
			相 當 稅 額
			圓 錢

訓令第百二十三號(二十六年八月三十一日)

知事官房 内務部 警察部 監獄署 郡役所
 警察署 警察分署 監獄支署 縣立學校

第三種郵便物ヲ約束郵便ニテ發送シタルトキハ其時々直ニ通數量目ヲ内務部長ニ通報スヘシ但官吏出張ノ節差出シタル第三種約束郵便物モ本文同様通報スヘシ

告示第三百三十二號(二十七年九月十二日)

既設電信線沿道ニ於テ電信線路ニ接近シタル樹木ヲ伐採スルモノハ豫メ熊本郵便電信局若クハ該線路
擔任電信建築技手ニ直接又ハ線路看守工夫ヲ經テ届出立會ヲ乞ヒ然ル後伐採スヘシ

甲第貳拾七號(十七年三月十八日)

漁業ニ關スル諸願伺届ハ自今郡役所ヲ經由可差出此旨布達候事

宮崎縣令第十一號(二十年二月五日)

各郡沿海ニ於テ他管人民來航漁業ヲ爲スモノハ日數ノ長短ニ關セス其地漁業組合規約ニ遵ハスノハ漁
業ヲナサシムヲ得ス

宮崎縣令第四十四號(二十四年七月六日)

縣下北諸縣郡大淀川觀音瀨開鑿舟路並ニ其上下各五拾間ノ間ニ於テ魚類繁殖ノ爲メ自今漁業禁止ス

告示第二百四十四號(二十六年十月十一日)

改良漁船貸附規則左ノ通定ム

改良漁船貸附規則

第一條 改良漁船ハ一年以下ノ期限ヲ定メ管内漁業組合ニ貸附ス

第二條 改良漁船ヲ借用セントスルトキハ借用ノ期限使用ノ目的ヲ詳記シ縣廳ニ出願スヘシ

第三條 借用ノ許可ヲ受タルトキハ別紙雛形ニ依リ請書ヲ差出スヘシ

第四條 貸附ヲ受タルトキハ便宜ノ場處ニ碇繫場ヲ定メ縣廳ニ届出ツヘシ

第五條 借用期限中ハ時々係員ヲシテ検査セシム此場合ニ於テハ如何ナル事情アルモ拒ムコトヲ得ス

第六條 借受人返納ヲ終ヘサハ間ハ最モ深キ注意ヲ加ヘ自己ノ費用ヲ以テ船體船具ヲ保管シ且修繕ス

ヘシ
故意又ハ過失ニ依リ船體船具ヲ毀損シ又ハ失亡シタルトキハ借受人ノ費用ヲ以テ之ヲ原形ニ復セシ

メ若クハ縣廳ニ於テ定ムル代價ヲ辨償セシムヘシ

船體船具ヲ毀損シ又ハ失亡シタルトキハ其事情ヲ詳記シ三日以内ニ縣廳ニ報告スヘシ但漏水ヲ防キ

小破損ヲ修埋スルカ如キハ此限ニアラス

前項ノ期限内ニ報告ヲ爲サハルトキハ如何ナル理由アルモ其代價又ハ修繕費ヲ辨償セシム

第七條 借用中ハ毎月末左ノ事項ヲ詳記シ縣廳ニ報告スヘシ

一 出漁ノ日數及漁夫ノ員數

一 出漁ノ場所

一 捕獲物ノ種類數量及價格但借用人ニ於テ捕獲物ヲ製造シタルトキハ其狀況

一 使用シタル漁具

一 使用上ノ便否利害

一 出漁中ノ記事

一 前項ノ外必要ト認ムル事項

第八條 船體船具ハ漁業ノ外使用スヘカラス又他人ニ轉貸スルヲ得ス

第九條 借用期限ノ終リタルトキハ北那珂郡青島村折生泊港ニ回漕シ返納ノ手續ヲナスヘシ

第十條 故ナク使用セスシテ一ヶ月ヲ過キ若クハ本則ニ違背シタルトキハ借用期限内ト雖返納セシム

ルコトアルヘシ

印紙 改良漁船拜借受書

一船名 青島丸

長サ何尺幅何尺船艫并ニ樽ノ間ノ内ニ置甲板空氣室構造

一附屬品左ノ如シ

一甕并ニ水桶

一帆三種棹三本

一蛇 一挺

一棹 七挺

一網類各種

但何々何程何々何程

一何々

一何々

右何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ拜借致候ニ付テハ明治二十六年十月廿九日告示第二百四十四號改良漁船貸附規則ヲ遵守可致若シ組合ニ於テ負擔ノ義務ヲ盡ス能ハサルトキハ保證人ニ於テ負擔可致候依テ保證人連署證書差出候也

年 月 日

何都某漁業組合頭取

何

某 印

何都何町(村)

保證人 何 某 印

縣知事宛

宮崎縣令第七號(二十七年二月廿二日)

漁業取締規則左ノ通り定メ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス但既ニ漁業鑑札ヲ受ケタル者ハ本則ニ由リ願出ツルニ及ハス

明治十九年(六月)甲第五十號布達同二十年(十月)縣令第七十八號同縣令第八十八號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

漁業取締規則

第一條 本則ニ於テ漁業ト稱スルハ水産動物ヲ採捕スルヲ云フ

第二條 漁業ヲ營マントスル者ハ所轄郡役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 漁場ノ區域ハ從來ノ慣行ニ依ル

第四條 左ニ掲クルモノヲ以テ漁業ヲ爲スヲ許サス

一 爆發物 二 毒性ノ物質 三 潜水器

但漁業上弊害ナシト認ムルモノハ出願ニ由リ特ニ許可スルコトアルヘシ

第五條 許可ヲ受ケタル營業ト雖モ後日ニ至リ水産ノ蕃殖上必要ナル事實ノ生スルトキハ之ヲ制限シ

又ハ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第六條 鮪大敷網ヲ設置セントスルモノハ別紙鑑形ニ準シ詳細ノ圖面ヲ添ヘ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

前項設置ノ場所既設大敷網前面ノ魚道凡ソ直徑三十町以内ノ距離ニアリト認ムルトキハ之ヲ許可セ

ス但既設者ノハ諸ヲ得タルモノハ此限ニアラス
 鮎大敷網前面魚道三十町ノ距離以内ニ於テ鮎刺網鮎曳網ヲ使用スヘカラス但本則發布以前ニ於テ其
 營業鑑札ヲ受ケタル者ハ此限ニアラス
 第七條 河川及溝渠ニ於テ毎年一月一日ヨリ五月三十一日マテ鮎鰻ノ魚兒ヲ捕獲スルコトヲ禁ス但
 學術研究ノ爲メ又ハ營業ノ目的ヲ以テ飼育養成スル者ハ特ニ許可スルコトアルヘシ
 第八條 漁業ヲ制限シ又ハ禁止スルトキハ其場所及ヒ期限ハ二月已前ニ之ヲ公示スヘシ
 第九條 漁業ヲ管ム者ハ組合ヲ設ケ規約ヲ結ビ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ加除更正スルトキ亦同シ
 組合ハ縣下ヲ通シテ一組合トナシ支部ヲ便宜ノ場所ニ設クヘシ但河川漁業ハ土地ノ状況ニヨリ組合
 支部ヲ設ケサルモ妨ナシ
 營業者ハ必ス組合ニ加入スヘシ但組合支部ノ設置ナキ所ハ此限ニアラス
 第十條 組合并支部ノ規約ニ掲グル條項ハ左ノ數項トス
 一 組合事務所ノ位置 二 組合支部ノ區域及事務所ノ位置 三 組合ノ目的 四 役員ノ
 撰舉法權限及報酬 五 會議ニ關スル規程 六 加入者及退去者ニ關スル規程 七 違
 約者處分方法 八 費用ノ徵收及賦課ノ方法 九 漁期漁具漁法漁場採藻場ニ關スル事項
 十 水産物ノ製法販賣等ノ改良ニ關スル事項 十一 漁附林ニ關スル事項 十二 以上ニ列記
 スル外組合ニ於テ必要ト認ムル事項
 第十一條 本則第二條第四條第六條第一項第三項第七條第九條第三項ニ違犯シタルモノ第五條ノ制限
 停止若クハ禁止ニ從ハス及ヒ第八條ニ據リ公示シタル場所ニ於テ漁業ヲ爲シタルモノハ二日以上五
 日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

告示第二十一號(二十七年二月廿二日)
 漁業取締規則第二條漁業願ハ左ノ書式雛形ニ由ルヘシ
 (書式)

何漁業(採藻)願
 一 何業 網漁ハ一投網待堰網ヲ
 除ク)其張數ヲ記入ス
 右今般何郡何町何沖(川)ニ於テ漁業(採藻)致度候ニ付御許可相成度別紙圖面相添ヘ此段願上候也

何郡何町 大字何何番戶(同居)(寄留)身分
 何郡何町 大字何何番戶(同居)(寄留)身分
 宮崎縣漁業組合役員
 氏 名 印

郡長宛

一 數名ニテ漁船漁具ヲ共用セントスル者ハ連名出願スルモ妨ナシ待堰及錠漁業ノ願書ニハ漁業始終ノ
 月日捕獲魚種及其築造ノ計否ヲ受ケシ旨ヲモ適宜記入スヘシ
 一 營業願ニハ漁業組合規約ニ規定セル役員ニ於テ右漁業ノ故障有無ヲ取調ヘ故障ナキ者ハ連印シ故障
 アル者ハ理由ヲ副申スヘシ

訓令第五十三號(二十七年三月廿七日)

漁業採藻業免許鑑札ハ左ノ雛形ニ依リ調製スヘシ

漁業(採藻)免許鑑札雛形

郡役所

何縣何國何郡何村(寄留)
何ノ某

何業免許鑑札

年月日

郡役所印

用紙 素質ノ堅緻ナルモノ
鑑札寸法 縦四寸 横三寸
輪廓内 縦三寸 横貳寸壹分

宮崎縣令第二十二號(二十七年三月廿四日)

漁業者ニ於テ漁業取締規則ニ依リ郡役所へ免許鑑札ノ交付ヲ願出ツルトキハ所轄町村役場ヲ經由スヘシ

漁業免許鑑札ヲ受ケタルモノニ就テハ地方稅營業規則第二條第四條第五條第九條第十一條第十三條第十五條第十六條ヲ適用ス

前項ニ違背シタルモノハ地方稅營業規則第九條第十六條ニ當ル場合ノ外該規則第十七條又ハ第十八條ノ例ニ依リ處罰ス

郡役所 町村役場

訓令第百十二號(二十七年六月十六日)

漁業組合支部ノ設置ナキ町村ニ於ケル河川漁業圖書ハ關係町村長其故障ノ有無ヲ取調ヘ故障ナキ者ハ檢印シ故障アル者ハ理由ヲ副申スヘシ

訓令第五十八號(二十七年四月十七日)

漁業取締規則ニ依リ漁業組合役員設置マテノ間漁業採藻獎勵ニハ漁業組合支部區域内ノ各町村其利益ヲ副申スヘシ

郡役所 町村役場

宮崎縣令第六十七號(二十五年十一月十六日)

種牡牛馬取締規則

- 明治二十二年(十一月)縣令第七十三號種牡牛馬取締規則左ノ通り改正ス
- 第一條 種牡牛馬ハ毎年一回檢査ヲ受ケ其証ヲ得ルニ非シハ種用ニ供スルヲ得ス
 - 第二條 檢査合格ノ種牡馬ハ前蹄ニ牛ハ角ニ「タ」ノ烙印ヲ捺捺シ檢査証ヲ下附ス
 - 第三條 種用ニ供セントスル牡牛馬ハ別紙書式ニ依リ其種類年齢寸尺毛色産地等ヲ詳記毎年八月三十一日マテ地元町村役場及郡役所ヲ經テ出願スヘシ
 - 第四條 檢査ノ期日及場所ハ毎年告示ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第五條 檢査期日外ト雖本縣内務部第二課ニ牽附ケ檢査ヲ出願スルモノハ檢査ノ上檢査証ヲ下附スルニトアルヘシ但牡馬ハ毎年六月三十日迄ヲ限ル
 - 第六條 檢査証ヲ受ケタル種牡牛馬ニシテ毎年告示ノ期日ニ檢査場ニ牽附ケ受檢セサルモノ及ビ檢査済ノモノト雖爾後管理ノ宜シキヲ失シ種畜ニ適セスト認ムルモノハ其檢査証ハ無効トシ之ヲ告示スヘシ
 - 第七條 無効ニ屬シタル檢査証ハ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ返納スヘシ
 - 第八條 種牡牛馬ハ左ノ各項ニ適合スルモノニ限ル但血統ノ善良ナルモノハ一項二項ノ年齢ヲ超ユルモ檢査ノ上特許スルコトアルヘシ

- 一 牛ハ滿二歲以上滿十歲以下 二 馬ハ滿三歲以上滿十六歲以下 三 牛ハ身幹四尺二寸以上但三歲以下ハ四尺一寸以上 四 馬ハ身幹四尺六寸以上但四歲以下ハ四尺五寸以上 五 四季共放牧ノ牛馬ハ三項四項ノ身幹ヨリ各一寸ヲ減ズ 六 強壯ニシテ骨格善良ナルモノ
- 七 惡癖ナキモノ 八 遺傳病ナキモノ
- 第七條 種牡牛馬ヲ豢養スルモノ交尾ノ爲メ巡回スルトキハ必ス検査証ヲ携帯スベシ
- 検査証ノ檢閲ヲ要求スルモノアルトキハ之ヲ拒ムヲ得ス
- 第八條 交接病其他傳染性諸病又ハ遺傳病アルノ牝牛馬ニハ交尾セシムヘカラス
- 第九條 本縣内ニ於テ種牡牛馬ヲ賣買セシトキハ三日以内ニ双方連署ヲ以テ検査証ヲ添ヘ書換テ願出ヘシ
- 第十條 他管下ヘ賣渡シタルモノ及ビ斃死セシモノハ三十日以内ニ検査証ヲ添ヘ其旨願出ヘシ
- 第十一條 検査証ヲ毀損紛失シ又ハ水火盜難ニ罹リタルトキハ其事由ヲ具シ検査証ノ再渡ヲ願出ヘシ
- 第十二條 改名及ビ轉居セシトキハ検査証ノ書換ヲ願出ヘシ
- 第十三條 第一條第五條第二項第七條第十條ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓五十錢以下ノ料科ニ處ス

告示第十四號(廿六年一月廿五日)
種畜貸附規則左ノ通り相定ム

種畜貸附規則

- 第一條 種畜ノ貸附ヲ請フ者ハ其目的ヲ記シタル願書ヲ縣廳ニ差出スヘシ
但種馬ハ畜産組合設置ノ郡ニ限リ之ヲ貸附ス此場合ニ於テハ組長本條ノ手續ヲ爲スモノトス

- 第二條 種畜ヲ借用スル者ハ第一號雜形ニ依リ誓約書ヲ差出スヘシ
- 第三條 貸付年限ハ牡馬ニテ年牡牛三ヶ年牝牛四ヶ年トス
但引續貸附ヲ受ケントスルモノアルトキハ時宜ニ依リ延期スルコトアルヘシ
- 第四條 前條引續貸附ヲ受ケントスルモノハ期限六十日前マテニ其旨願出ヘシ
- 第五條 種畜借受ニ係ル費用及貸附中ノ諸費ハ總テ借主ノ自辨トシ其食量ハ左ノ標準ニ據リ與フヘシ
但一日分

麥	又	ハ	穀	甘	藪	乾草又(青草ナラハ藪ハ四貫目)	鹽	水	寢	葉
三	升	二	升	三	升	二	貫	目	五	勺
適	宜	二	貫	目	五	勺	適	宜	二	貫
目										

- 第六條 貸附ノ種畜ハ懇切ニ取扱ヒ毎日二回梳拭法ヲ行フヘシ
- 第七條 貸附ノ種畜ハ毎日適宜運動ヲ爲サシメ決シテ荷ヲ負ハシムル等ノ事アルヘカラス但特ニ許可ヲ與ヘタルモノハ此限ニアラス
- 第八條 貸附ノ種畜ヲシテ交尾セシムル牝畜ハ左ノ各項ニ適當スルモノニ限ル
一 骨格善良ニシテ健康ナルモノ 二 惡癖及遺傳病交接病ナキモノ 三 馬ハ滿三歲以上ノモノ 四 牛ハ滿二歲以上ノモノ 五 馬ハ丈四尺五寸以上ノモノ 六 牛ハ丈四尺以上ノモノ
- 第九條 貸附ノ種牡牛馬交尾ノ頭數並ニ交尾期ハ種畜ノ状態ニ依ルト雖モ左ノ各項ニ據ルモノトス
一 滿二才牡牛ノ交尾度數ハ一日一回ヲ超ユヘカラス 二 滿三歲ヨリ全八歲マテノ牡牛交尾ノ度數ハ一日二回ヲ超ユヘカラス 三 滿九才以上ノ牡牛ハ順次交尾ノ度數ヲ減スヘシ 四 馬ノ交尾期ハ二月ヨリ五月マテ四ヶ月間トス 五 滿三才牡馬ノ交尾度數ハ隔日一回トス

六 滿四才牡馬ノ交尾度數ハ一日一回トス 七 滿五才ヨリ滿八才マテノ牡馬交尾度數ハ一日二回トス 八 滿九才以上ノ牡馬ハ順次交尾ノ度數ヲ減スヘシ

第十條 仔畜ノ離乳ハ滿十二月ヲ經タル後トス

第十一條 貸附ノ牝牛ヨリ生産スル犢ハ初産ヨリ交互(第一産ハ之ヲ納メ第二産ハ借主之ヲ領シ第三産ハ之ヲ納ムル)ク交互輪次ニ受領スルヲ云フ)之ヲ納ムヘシ

第十二條 前條犢牛ハ十二月以上經過ノ後ヲ納ムルモノトス但此場合ニ於テハ六十日以前ニ其旨届出ヘシ

第十三條 期限内貸附ノ種畜ヲ返納セントスルハ六十日以前ニ縣廳ニ届出ヘシ

第十四條 貸附ノ牝牛分娩セハ其都度第二號雛形ニ依リ届出ヘシ

第十五條 貸附ノ種牡ヲ交尾セシメテ出生セシ仔畜ハ毎年十二月限リ第三號雛形ニ依リ届出ヘシ

第十六條 疾病ノ徴候アルハ速ニ治療ノ手續ヲナシ其都度届出ヘシ但シ治療費ハ借主ノ自辨トス

第十七條 傳染病流行ノ際ハ種畜ノ管理ニ注意シ決シテ流行地方等ヘ牽引スヘカラス

第十八條 畜養ヲ粗略ニシ又ハ交尾度數ヲ超過スル等總テ本則ニ違背スルト認ムルハ期限内ト雖モ引上クルヲアルヘシ

第十九條 貸附ノ種畜失跡シ若クハ畜養交尾等ノ不注意ヨリ斃死セント認ムルハ借主ヨリ縣廳ニ於テ定ムル所ノ相當代價ヲ辨償セシムヘシ

但シ本文相當代價ハ縣廳ニ於テ其ノ時々定ムルモノトス

第二十條 貸附ノ種畜盜難ニ逢ヒシ時ハ直ニ其旨最寄警察官ニ届出ヘシ但シ此場合ニ於テハ縣廳ニ急報スヘシ

第二十一條 貸附ノ種畜ヲ他人ニ托シテ飼養セシムルヲ得ス

第二十二條 借用中斃死シタルハ其埋没費ハ借主ノ自辨トス

第二十三條 種畜斃死シタルハ第四號雛形ニ依リ其状況ヲ詳記シ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ届出ヘシ

第二十四條 貸附スヘキ種畜アルハ豫メ廣告スヘシ

第二十五條 種畜貸附願ハ多岐ナルハ地方ノ状況等ヲ審査シ貸附スルモノトス

附 則

第二十六條 従前ノ種牛貸附規則ニ據リ貸附中ノモノハ其證據置キ此規則ニ據ラシム

宮崎縣令第六十九號(二十五年十一月十七日)

牛疫流行ノ各府縣ヨリ當縣管内ニ牛羊豚ヲ牽入ルコトヲ停止ス違フモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス但本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

宮崎縣令第二十九號(二十六年四月十五日)

獸類傳染病豫防規則

第一條 獸類傳染病ヲ發生シタルトキハ其所有者又ハ管理者ニ於テ獸類傳染病豫防心得及本則ニ從ヒ豫防法並ニ消毒法ヲ嚴重ニ施行スヘシ

但所有者又ハ管理者貧困ニシテ其費用ヲ支辨シ能ハサルハ町村役場ヲ以テ支辨スヘシ

第二條 獸類傳染病ノ届ヲ受ケタルトキハ町村役場ハ隣町村役場郡役所ハ隣郡役所ニ直ニ通知スヘシ

第三條 前條ノ通知ヲ得タル郡役所並ニ町村役場ハ直ニ其旨揭示シ豫防ニ注意スヘシ

第四條 獸類傳染病流行地方ニ於テハ左ノ諸項ヲ施行スヘシ

一 水源地方ニ於テ傳染病發生シタルトハ有病中ハ勿論撲滅後ト雖モ三週間ヲ經サレハ孰レノ目的ニ於テモ其河水ハ家畜飼育上ニ使用スヘカラス

二 傳染病流行地方ニ在テハ畜舎内ニハ猥リニ他ノ人畜ノ出入スルヲ禁スヘシ

三 畜舎ハ空氣ノ流通ヲ善クシ汚穢其他不潔物ハ盡ク消毒シテ除去スヘシ

四 家畜骨粉肥料ハ畜舎内ニ貯藏スヘカラス

五 畜舎内ニハ時々石灰乳若クハ石炭酸水(貳拾五倍)等ヲ撒布スヘシ

六 家畜ノ骨及家畜骨粉肥料ヲ運搬スルニハ牛馬ヲ使用スヘカラス

七 秣糞ハ可成煮沸シテ與フヘシ

第五條 病畜ト全舎ニ飼養セシ健畜ハ病毒潛伏ノ恐アルヲ以テ他人ノ畜舎ニ托シ或ハ他舎ノ健畜ト混養スヘカラス

第六條 死体ノ鼻孔肛門陰腔等ノ諸孔ニハ格魯爾石灰又ハ石灰ヲ充分填充シ厚キ紙又蕤ヲ以テ嚴重ニ被包シ埋沒又ハ燒棄スヘシ殊ニ運搬ノ途中ハ血液粘液等ノ地上ニ遺棄等ナキ機器重ニ注意スヘシ

第七條 埋沒地ハ可成人畜交通セサル一定ノ場所ヲ撰ヒ警察官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 第五條第六條ニ違背セシモノハ二日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但獵類傳染病豫防規則ニ明文アルモノハ此限ニ非ラス

乙第九拾八號(十八年六月卅日)

軍馬輸送ノ途中發病等ノ節取扱方左ノ通被定候條此旨相違候事

第一項 軍馬輸送ノ途中ニ於テ馬匹疾病若クハ傷痕ヲ生シ歩行ニ堪ヘ難クシテ其反縮ヨリ治療日數ヲ

郡役所 戶長役場

豫定シ其地戶長戶長アラサル地ハ區長以下倣之ニ預ケ方ヲ協議スルトキハ戶長ハ之ヲ確實ナル者ニ預ケ預定期日ニ至レハ(期日内ト雖トモ全快スルトキハ直ニ出發セシム)馬夫ヲ雇ヒ直ニ鎮臺ニ送致セシムルコトヲ保シ取極ニ左式ノ受書ヲ出ス可シ

但馬匹預ケ中ハ飼料并ニ手當トシテ一日金參拾五錢以内ヲ給シ其出發後ハ馬匹旅籠料金參拾錢雜賃金九錢其他馬夫料及ヒ旅費トシテ一日金七十錢以内里程六里乃至八里詰トスヲ以テ鎮臺到着ノ日迄之ヲ給シ歸路ハ別ニ給スルコトナシ

受書式

軍馬預リ受書

- 一馬 名
- 一寸 尺
- 一毛 色
- 一年 齡

右何症ニ罹リ當町(村)ニ於テ何週間治療ヲ加ヘ全快ノ見込ニ依リ御預ケ相成候ニ付テハ快氣ノ上何鎮臺ニ差立方取計可申右相違無之候也

年 號 月 日

何 鎮 臺

官 姓 名 殿

府(縣)郡(區)町(村)戶長戶長アラサル地ハ區長

姓 名 印

第二項 前條ノ馬匹豫定期日ニ至リ尙ホ歩行ニ堪ヘ難キトキハ戶長ハ更ニ治療期日ヲ豫定シ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ其旨鎮臺ニ申出可シ又出發後途中ニ於テ再ヒ發病歩行ニ難キトキハ馬夫ヨリ其地戶長ニ

申出シメ其地戸長ハ速ニ獸醫ヲテ治療ヲ加ヘシメ其旨電報ヲ以テ鎮臺ニ申出指揮ヲ受ク可シ
 但其治療滞在中ハ馬匹旅籠料及ヒ雜費ノ外向ホ馬夫給料手當トシテ一日金四拾錢ヲ給ス可シ
 第三項 馬匹ノ病症到底癒疾ニ歸ス可キ者ト獸醫診斷シ確實ナルトキハ取縮出後後ハ其地戸長ヨリ電
 報ヲ以テ之ヲ鎮臺ニ具申シ賣却又ハ撲殺ノ處分ヲ請フ可シ若シ急症ニシテ斃死セシトキハ獸醫ヲシ
 テ其病因ヲ診斷セシメ賣却又ハ埋没シ其事由ヲ鎮臺ニ具申ス可シ但斃死セシ馬匹ハ成ル可ク之ヲ賣
 却シ其代價ニ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ上納ス可シ若シ傳染病コト賣却ス可カラザル者又ハ其他ノ事故ニ
 テ買取者ナキトキハ一頭ニ付金三圓以內ヲ以テ埋没又ハ燒棄ス可シ
 第四項 病馬ノ診察料藥費并ニ馬匹預ケ中及ヒ出役後ノ費用ハ其治療ノ日數ト旅行ノ里程ニ應ジ取縮
 ヲリ豫シメ之ヲ其地戸長ニ交付スルヲ以テ戸長ハ後日決算ヲ爲シ之ニ現證ヲ書添ヘ鎮臺ニ送呈シ其
 費用ニ關スル證書類ニハ總テ戸長之ニ捺印ス可シ又取縮等途中ニ於テ已ムテ得サル事故ヲ生シ軍馬
 宿泊指定表ノ通行行スル能ハス爲メニ戸長ノ證印ヲ請フトキハ戸長ハ事實取縮ノ上該表ノ裏面ニ其
 事由ヲ記シ之ニ捺印ス可シ

告示第二十五號(二十六年二月四日)

明治二十五年(十一月)縣令第六十七號種牡牛馬取縮規則第四條ニ依リ檢査出願スルモノ、願書受付時
 間ノ當分ノ内止午十二時限リト定ム

訓令第四百四十四號(二十六年十月廿三日)

警察署 警察分署

和歌山縣ニ於テハ牛疫豫防ノ爲メ該疫流行地以外ヨリ同縣ニ輸入スル牛山羊豚及其生皮肉ハ其出所
 地ヲ證明スル爲メ所轄警察署ノ證明書ヲ要スル趣ニ付其下付ヲ請フ者ニハ之ヲ附與スヘシ

宮崎縣令第六十一號(二十七年十一月八日)
 本年農商務省令第八號ニ基キ農事講習所(養蠶製茶等ノ傳)ヲ設立セント欲スルモノハ別紙準則ニ據ル
 一 普通農事

(別紙)

農事講習所準則

第一條 農事所ニ於テ教授スル學科及實習ノ科目ハ左ノ如シ但地方ノ情況ニ依リ加除スルコトヲ得

一 普通農事

第一年

植物生理論 土壤論 土地改良論 肥料論 普通作物目 實 習

第二年

害 蟲 論 家 畜 論 農家經濟論 實 習

實習科目

肥料製造法 苗床法 撰種法 病蟲害驅除法 種子貯藏法 土性鑑定法

簡易排水法 接木法

一 蠶 業

繭桑生理論 養蠶法 殺蛹法 貯繭法 蠶種製造法 全鑑定及檢査法

一 茶 業

桑樹栽培法 病蟲害驅除法

製茶法 精製法 茶樹栽培法

第二條 農事講習所ノ開設ハ左ノ期限ニ準據スヘシ

一 普通農事 一ケ年間一ケ月以上トシ二ケ年ヲ以テ得業期限トス

一 蠶業 一ケ年間三ケ月ヲ以テ得業期限トス

一 茶業 一ケ年間四ケ月以内トシ二ケ年ヲ以テ得業期限トス

第三條 農事講習生ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

一 普通農事 年齡滿十六才以上ノ男子ニシテ普通ノ教育ヲ受ケタルモノ

現在農事ニ従事スルモノ

一 蠶業 年齡滿十五才以上ノ男女子ニシテ普通ノ教育ヲ受タルモノ

一ケ年以上蠶業ニ従事セシモノ

一 茶業 年齡滿十八才以上ノ男子ニシテ身體強壯ナルモノ

一ケ年以上茶業ニ従事セシモノ

第四條 農事講習所ハ二十名以上ノ生徒ヲ養成スルモノトス

第五條 農事講習所ハ地方産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ其授業ハ實業者ノ解得シ易ク且可成簡易速成ヲ期スヘシ

第六條 農事講習所ハ實習ヲ重ンテ學理ハ之ヲ實地ニ應用教授スルヲ圖ルヘシ

第七條 農事講習所ヲ設立セントスルモノハ左ノ各項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一 講習所規則

一 經費ノ豫算及其收入區別

一 名稱及位置

一 關係郡町村或ハ組合ノ區域(生徒募集教師巡回或ハ經費負担等ノ區域)

一 講習所開設ノ年月日及日數

一 建物ノ圖面及坪數并實習地反別

一 教員ノ履歷及教師ノ擔任科目又ハ其事業

一 生徒募集ノ豫定員數

一 蠶業ニ就テハ掃立又ハ製造ノ見込數量

一 試驗地又ハ模範地ヲ置クトキハ其目的方法

第八條 前條ノ認可ヲ經テ設立シタルトキハ左記第二ハ毎月末若クハ學期末其他ハ其都度届出ヘシ

一 開閉ノ時期

一 生徒ノ現員

一 養蠶ハ各齡ノ景況

一 教師着發又ハ身上ノ異動

一 卒業生ノ人員(男女又ハ種別アルトキハ之ヲ別記スヘシ)

一 製蠶又ハ收穫高

一 每期收支ノ精算

第九條 前條各項ノ外實習講授等ニ關スル臨時ノ景況其他病蟲害天災等アリタルトキハ其時々報告スヘシ

第十條 講習所ハ成ヘク通學其他ニ便宜ノ地及同業者多數原料(桑葉茶芽又漁獲ノ類)豊富ニシテ事業實習ニ支障ナク且改良上必要ナル土地ニ設置スヘシ

第十一條 講習所ハ家庭田圃器械等之ヲ常設スルト一時仮用スルトハ地方ノ便宜タルヘシト雖モ講習上必要ナル事物ハ凡テ具備スルヲ要ス

第十二條 獸醫蹄鐵畜産水産等ノ講習所ヲ設置スルトキハ本則ニ準シ第一條第二條第三條ノ各項ハ更ニ伺出ヘシ

宮崎縣令第三十二號二十年五月十九日

明治十九年(八月)農商務省令第九號蠶種検査規則取扱手續左ノ通之ヲ定ム

蠶種検査規則取扱手續

第一條 蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスルモノハ其組合事務所及戸長役場郡役所ヲ經由縣廳ニ

依二條 (刪除)

願出蠶種製造鑑札又ハ蠶種販賣鑑札ヲ受クヘシ

第三條 水火盜難其他ノ事故ニ依リ蠶種製造鑑札及蠶種販賣鑑札ヲ毀失スルモノハ再度鑑札下渡方其

組合事務所及戸長役場郡役所ヲ經由縣廳ニ願出スヘシ

第四條 蠶種販賣鑑札ハ販賣用ノ爲外出スルトキハ携帯スヘシ

第五條 春蠶種ノ検査ハ毎年十月一日ヨリ施行スルモノトス但検査ノ箇所并検査日割ハ期日前ニ告示スヘシ

第六條 蠶種製造人ハ第五條便宜ノ地ニ於テ検査ヲ受クヘシ

第七條 一枚ノ蠶種ヲ截斷シテ販賣セントスルモノハ豫メ其裏面ニ截斷スヘキ區劃ノ線ヲ附シ検査所ニ差出スヘシ

第八條 夏蠶種秋蠶種ノ検査期日ハ毎年左ノ如シ

夏 蠶 五月二十日ヨリ六月二十日迄

五月一日ヨリ十一月四日迄

五月二十日ヨリ六月二十日迄

七月十日ヨリ八月十日迄

十月一日ヨリ十一月四日迄

秋 蠶

視察中微粒子ヲ目撃セル回数	百分中ノ歩合	原種	製糸用
一	二	使用ニ適スルモノ	使用ニ適スルモノ
二	四		
三	六		
四	八		
五	〇		
六	二		
七	四		
八	六		
九	八		
十	一〇		

第九條 春蠶ノ検査場所並ニ夏蠶種秋蠶種ノ検査地名並ニ場所ハ検査期前ニ告示スルモノトス

第十條 蠶種製造人ハ検査期初日ヨリ三日以内ニ其検査ヲ受クヘキ場所ニ蠶種ヲ差出スヘシ

第十一條 原種ハ顯微鏡的ノ検査ヲナシ左表ニ據リ微粒子病毒ノ歩合ヲ定ム

病毒ノ歩合ヲ定ムルニハ觀察中微粒子ヲ目撃セル數ニテ乘シ以テ百分中ノ歩合トス

第十二條 製糸用種ハ同種類中ニ於テ病毒多シト認ムルモノヨリ順次検査ヲナシ病毒百分ノ十五以内

ノモノヲ抽出スルニ至リ止ム

第十三條 蠶種検査規則第二條ニ據リ検査シタル検査證印及ヒ廢棄證印ハ左ノ如シ

原種用検査證印

圓形 經壹寸 文字(宮崎縣檢査所原種檢査ノ證)

製糸用種檢査證印

楕圓形 縱壹寸八分 文字(宮崎縣檢査所製糸用檢査ノ證)

廢棄證印

長方形 縱壹寸 文字(廢棄ノ證)

告示第五十三號(二十年一月十八日)

明治十九年(八月)農商務省令第九號蠶種檢査規則第七條蠶種掃立枚數并製造額等屆出書左式ノ通之ヲ定ム

蠶種掃立枚數并製造額

一春(夏)(秋)蠶種	掃立枚數	原種用	普通製	何枚
右ノ通ニ候也	製造(豫算)額	普通製	何枚	何枚
	製絲用	普通製	何枚	何枚

年 號 月 日

宮崎縣日向國何郡何町何番戶

何村何番戶

何郡何村何番戶

何郡何村何番戶

前書ノ通相違無之候也

宮崎縣知事何某殿

某 印

宮崎縣令第十八號(二十六年三月十八日)

蠶糸業取締規則左ノ通之ヲ定メ明治二十六年三月二十一日ヨリ施行ス但明治十九年一月甲第五號布達蠶糸業組合準則ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

蠶糸業取締規則

第一章 總 則

第一條 此規則ニ於テ蠶糸業者ト稱スルハ左ノ各項ニ該當スルモノヲ云フ

一 蠶ヲ養フモノ

一 蠶種及生絲ヲ製造スルモノ

一 蠶種ヲ仲買スルモノ

一 蠶ヲ買收シ若クハ繭生絲及屑物ヲ仲買シ其他何等ノ名稱ニ拘ハラズ凡ソ賣買ノ周旋紹介ヲナシ口錢又ハ手數料ヲ收受スルモノ

第二條 蠶種ヲ製造スルニ異種類混淆ハ勿論餘付糊付等ヲナス可ラス又左ニ掲クル繭ヲ以其原料ニ供ス可ラス

一 同功繭 一 屑繭 一 病繭ノ成繭 一 他人ノ成繭

第三條 蠶絲業者ハ蠶繭生絲及ヒ蠶種ヲ精良ニシ賣買ヲ精確ナラシムルク目的ヲ以テ組合ヲ設クヘシ

但新ニ蠶絲業ニ從事スルモノハ其地ノ組合ニ加入スヘシ

第四條 組合ノ區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

宮崎北那珂二郡ハ大淀川ヲ以テ南北二部ニ分チ川北及川南ノ二組合トス

南那珂郡ハ南北二部ニ分チ二組合トス

〔北部ハ鉄肥北郷東郷酒谷油津南郷細出櫻原鵜戸吾田十ヶ村
南部ハ福島大東北方本城都井市木ノ六ヶ村
北諸縣西諸縣東諸縣兒湯ノ四郡ハ各一組合トス
東曰梓西曰杵ノ二郡ヲ合シテ一組合トス〕

第五條 組合ノ名稱ハ何郡若クハ何郡何部蠶絲業組合ト稱スヘシ
第六條 組合ハ其地區内便宜ノ場所ニ於テ事務所ヲ設ケ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱フヘシ
第七條 縣内便宜ノ場所ニ組合取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ
第八條 組合事務所及取締所ハ毎年一月三十一日限り其前年度ニ於ケル業務ノ實況ヲ本縣ニ報告スヘシ

第二章 組合員

第九條 組合員ハ組合事務及及組合事務所ノ經費ヲ負擔スヘシ
組合員ハ組合取締所及及組合事務所ノ經費ヲ負擔スヘシ
但費用負擔ノ副合及ヒ徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス
第十條 組合員ハ其証トシテ縣廳ノ檢印アル組合ノ証票ヲ所有スヘシ
第十一條 組合取締所ハ製絲用蠶種ノ檢査法ヲ設ケ之ヲ檢査スヘシ
第十二條 組合ハ生絲ノ檢査法ヲ設ケ之ヲ檢査スヘシ
生絲ハ組合檢査済ノ証アルニアラサレハ賣買スルヲ得ス但自家用ノ製絲ハ本文ノ限ニアラス
第十三條 各組合事務所ニハ組長及ヒ委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員中ヨリ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互撰スヘシ但撰任及改撰ノ都度本縣ニ届出ツヘシ
第十四條 組長ハ部内蠶絲ノ業務ヲ監査シ其發達ヲ謀ルヘシ

第三章 役員

第十五條 組合取締所ハ頭取及事務員ヲ置キ頭取ハ組合總會議ニ於テ撰定シ事務員ハ頭取之ヲ撰任スヘシ但撰任改撰ノ都度本縣ニ届出ツヘシ
第十六條 頭取ハ取締所ノ事務及ヒ規定ヲ以テ定メタル一切ノ事務ヲ取扱フヘシ

第四章 會議

第十七條 會議ヲ分テ組合總會議及ヒ組合會議トス
第十八條 組合總會議ノ議員ハ各組長及ヒ各組合ヨリ撰出ノ議員ヲ以テ組合會議ノ議員ハ部内組合員中ヨリ組織ス
第十九條 組合總會議ハ組合取締所ニ於テ組合會議ハ組合事務所ニ於テ毎年定時又ハ臨時ニ之ヲ開クモノトス
第二十條 會議ハ左ノ各項ヲ議定スルモノトス
一 規約ノ更追加除 一 經費收支決算 一 役員ノ撰舉又ハ改選
第二十一條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ互撰スヘシ
第二十二條 會議ノ開閉及期日ハ本縣ニ届出ツヘシ
第二十三條 會議ハ議員半數以上出席セサレハ當日ノ議事ヲ開クヲ得ス
但議員半數以上ノ欠席三日以上ニ涉ルトキハ議事ヲ開クコト得
第二十四條 議事ハ出席員過半數ニ依リ決ス可否全數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル
第五章 規約
第二十五條 各組合ノ規約ハ其部内組合中ヨリ委員ヲ撰ヒ左ノ事項ニ準シ之ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
一 組合ノ區畫及ヒ事務所ノ位置

- 一 組合員ノ証票
 - 一 組合員撰定ニ關スル事
 - 一 粗悪品及ヒ不正品取締ニ關スル事
 - 一 組合員入退取扱ニ關スル事
 - 一 違約者處分ニ關スル事
 - 一 蠶種製造ニ關スル事
 - 一 桑樹栽培ニ關スル事
 - 一 組合會議ニ關スル規程ノ事
 - 一 生絲製及造販賣ニ關スル事
 - 一 蠶種検査ニ關スル事
 - 一 生絲検査ニ關スル事
 - 一 經費ノ徴收法
 - 一 其他組合ノ情况ニ依リ必要ナル條件
- 第二十六條 取締所ノ規約ハ左ノ事項ニ依リ組合總會議ニ於テ之ヲ議定スヘシ
- 一 組合取締所位置
 - 一 蠶絲ノ業務ヲ發達シ販路ヲ擴張スル方法
 - 一 組合總會議ニ各組合ヨリ議員出會ノ員數ニ關スル事
 - 一 違約者處分ニ關スル事
 - 一 蠶種及ヒ生糸ノ取締ニ關スル事
 - 一 生絲及蠶種検査法ヲ設クル事

- 一 生糸ノ製造ヲ一定ニスルノ標準ス立ツル事
- 一 飼育ノ蠶種ヲ一定ニスルノ標準ヲ立ツル事
- 一 經費ノ賦課徴收法

第六章 附則

第二十七條 証票ハ自己備人又ハ代理人ノ外貸與携帶セシムルヲ得ス
但備人又ハ代理人ニ証票ヲ携帶セシメタルトキハ其趣ヲ組合事務所ニ届出ツヘシ

第二十八條 組合事務所及ヒ組合取締所ハ縣廳ノ監督ヲ受クルモノトス

第二十九條 蠶絲業組合ニ關スル諸願用書等ハ都テ取締事務所ヲ經由スヘシ

第七章 罰則

第三十條 本則第二條第三條但書第九條第十條第十一條第二項第二十六條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

宮崎縣令第十號(二十九年三月一日)

明治二十六年(三月)宮崎縣令第十八號蠶絲業取締規則第十一條ノ夏秋蠶種ニシテ超年セサルモノ及第十二條ノ生絲ハ當分ノ内検査ヲ施行セス但明治二十六年(四月)宮崎縣令第二十五號ハ廢止ス

宮崎縣令第四十九號(二十六年九月二日)

框製春蠶種原種用種ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ毎年九月十日ヨリ検査ヲ施行ス
検査ヲ受クルモノニシテ親蛾ヲ所持スルモノハ親蛾ト産卵區ニ符合ヲ爲シ九月十日ヨリ十月五日マテニ検査所ニ差出スヘシ

検査ノ上蛾又ハ卵ニ病毒ナキモノハ産卵區ノ表面産卵ノ間ニ甲號印ヲ捺シ病毒アルモノハ乙號印ヲ捺シ表面ニハ明治二十年(五月)官崎縣令第三十二號蠶種検査取扱手續第十三條ノ証印ヲ捺ス但シ検査所ハ當分ノ内本縣勸業物品陳列場樓上トス

甲號検査証印 朱文 原種用 圓形徑三分

乙號廢棄証印 墨文 廢棄 長方形 巾二分

官崎縣令第三十八號(二十九年六月十二日)

害蟲驅除豫防法施行規則左ノ通り定ム

本令ハ即日ヨリ施行ス

害蟲驅除豫防法施行規則

- 第一條 此規則ニ於テ害蟲ト稱スルモノハ螟蟲(方言オイムシ)椿象(方言フー)浮塵子(方言ヤバエ)地蠶(豚蟲、方言ホウショウウ)ノ四種トス
- 第二條 第一條ノ害蟲驅除豫防ハ別紙方法ニ依リ施行ヘシ
- 第三條 害蟲田圃ニ發生シタルトキ若クハ發生ノ虞アルトキハ其ノ作人ハ口頭或ハ書面ヲ以テ直ニ町村長ニ報告スヘシ
- 第四條 害蟲發生シタルトキ若クハ發生ノ虞アルトキハ町村長ハ直ニ實地ニ臨檢シ豫ノ期限ヲ定メ作人ヲシテ驅除豫防ニ着手セシメ速ニ知事郡長ニ報告スヘシ

第五條 第四條ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ町村長ハ害蟲驅除豫防法第三條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六條 害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若クハ害蟲出畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ町村長ハ町村長ヲ以テ驅除豫防ヲ行フヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ町村長ハ速ニ知事郡長及近接町村長ニ報告スヘシ

第八條 第六條ノ場合ニ於テ夫役ヲ要スルトキハ町村長ハ害蟲驅除豫防法第五條ニ依リ町村ノ全部又ハ一箇ノ田畑作人及所有者ニ賦課スヘシ

第九條 町村長ハ驅除豫防ノ爲メ必要ト認ムルトキ若クハ郡長ヨリ又ハ知事ノ命シタル出張官或ヨリ特ニ指揮スル場合ニ於テハ町村長ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物葉幕蒔雜草ヲ拔棄若クハ燒棄スヘシ

本條ニ於テ夫役ヲ要スルトキハ第八條ノ規定ヲ適用ス

第十條 第一條掲記以外ノ害蟲又ハ他ノ動物ニシテ農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ第三條ノ手續ニ依ルヘシ

第十一條 第三條ノ報告ヲ怠ル者ハ五錢以上壹圓五十錢以下ノ科料又ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第四條ノ場合ニ於テ町村長ノ命令ニ従ハサルモノハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

(別紙)

害蟲驅除豫防方法

螟 蟲

苗代田ト本田移植後トナ問ハス左ノ方法ニ據ルヘシ

一 蟻ヲ捕フルコト

一 點火誘殺及網捕等ノ方法ヲ行フヘシ

一 卵ヲ捕フルコト

一 稻葉ニ付キタル卵ヲ捕リ燒キ棄ツヘシ

一 仔蟲及蛹ヲ捕ルコト

一 第一仔蟲ノ喰入り又ハ蛹ノ付キタル莖又ハ葉(白穂枯莖)ヲ採リ燒キ棄ツヘシ

一 第二受害ノ莖シキモノハ稻刈取リ後其ノ穂ヲ燒キ棄テ或ハ刈株ヲ土中根際ノ處ヨリ切り取リ其株ヲ

集メテ燒キ棄ツヘシ

椿 象

一 成蟲ヲ捕フルコト

一 網ニテ捕リ又ハ田面ニ水ヲ充シ潮流セシムル等ノ方法ニ據ルヘシ

浮 塵 子

一 成蟲ヲ捕フルコト

一 點火誘殺、網捕及油液ニテ潮流セシムル等ノ方法ニ據ルヘシ

地 蠶 (豚 蟲)

一 仔蟲ヘ左ノ方法ニ據リ捕フヘシ

一 一圃上ニ孔ヲ穿チ又ハ小溝ヲ設ケ墜落シタルモノヲ撲殺スヘシ

一 一莖葉ニ匍ヒ上リタル物ヲ動搖シ地ニ落チタルモノヲ撲殺スヘシ

一 灌溉至便ノ地ハ水ヲ流シ潮流セシムヘシ

訓令第六十六號(二十九年六月十二日)

害蟲驅除豫防法施行ニ關スル報告等ノ手續左ノ通り定ム

害蟲驅除豫防法施行ニ關スル報告等ノ手續

第一條 郡長ハ官制縣令第三十八號害蟲驅除豫防法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第五條第七條ノ報

告ヲ受ケタルトキハ吏員ヲ實地ニ派遣シ驅除豫防ノ執行ヲ監督セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ速ニ知事ニ報告スヘシ

第二條 町村長ハ規則第八條第九條ヲ執行シタルトキハ速ニ知事郡長ニ報告スヘシ

第三條 町村長ニ於テ規則第十條ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ知事郡長ニ報告スヘシ

第四條 害蟲ノ驅除豫防ヲ行タルトキハ町村長ハ其ノ都度左ノ事項ヲ知事郡長ニ報告スヘシ

但規則第四條第五條ノ場合ニハ被害見積反別ノ報告ヲ缺クコトヲ得

一 害蟲ノ種類名稱(方言) 二 町村大字小字名 三 被害農作物ノ種類及被害見積反別 四 被害

ノ狀況 五 驅除豫防ノ實況

第五條 毎年度ニ於テ町村費ヲ以テ施行シタル害虫驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月

十日限り所轄郡長ヲ經テ知事ニ報告スヘシ

害虫驅除豫防報告様式(各害虫ニ付區分スヘシ)

害 蟲 名

郡 町 村 名

被害町村

全上農作物ノ種類

全上見積反別

此平年收穫高

被害ニ付見積反別

驅除豫防ニ關スル費用

全上夫役ノ數

地方補助額

明治二十五年(三月)農商務省令第六號鑛業條例施行細則第七條ノ届書ヲ受理シタルトキ其届書ノ郵便發送ニ係ルモノハ明治二十五年(五月)訓令第八十九號ニ依リ調査シタル意見書ニ該郵便封皮ヲ添ヘシ

訓令第二百二十二號(二十五年九月廿日)

郡役所 町村役場

福岡鑛山監督署鹿兒島支署吏員ヨリ鑛山試掘採掘地實地調査ノ爲メ郡吏又ハ町村吏員ノ立會ヲ要求サレタルトキハ其要求ニ應スヘシ

宮崎縣令第四十四號(二十六年七月十九日)

他人ノ採掘セル鑛石ヲ買入レ製煉スル者又ハ砂鑛ヲ製煉スルモノハ左ノ條項ヲ遵守スヘシ
一新ニ從事スルモノハ町村役場那役所ヲ經由シ製煉所ノ位置製煉人ノ住所族籍氏名ヲ詳記届出ツヘシ
廢業其他異動ヲ生シタルトキモ亦前項ニ依ルヘシ
一製煉人ハ左ノ雛形ニ依リ一箇年ノ工程ヲ取調翌年二月十五日限報告スヘシ但鑛業條例ニ掲クル鑛業人ト雖トモ本項ニ準シ報告スヘシ

縣令第十五號(二十七年三月十一日)

明治二十五年農商務省令第六號鑛業條例施行細則第七條ノ届書ヲ差出シタルモノニシテ本年三月以降許可若クハ無効ノ通知ヲ得又ハ却下セラレタルモノハ其書類例達ヨリ七日以内ニ其旨鑛山所在地那役所ヲ經由届出ツヘシ但出願書類ニ異動ヲ生シタルトキハ届書ニ該寫書ヲ添付スヘシ

訓令百第三十四號(二十七年八月三日)

郡役所 町村役場

試掘願・採掘願・砂鑛採取願書ニ對スル取調ヲ命ケタルトキハ町村役場ニ於テハ書類到着當日ヨリ五日以内ニ其事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否向キ砂鑛採取願ニ付テハ出願地所有者ノ住所氏名ヲ取調ヘ意見書ヲ添ヘ郡役所ニ送達シ郡吏ハ七日以内ニ該調査ヲ遂ケ意見ヲ上申スヘシ

宮崎縣令第二十七號(二十一年四月廿一日)

森林被害防禦ノ爲メ毎年十一月一日ヨリ四月三十日マテノ間ニ於テ森林ニ傍ラタル道路ニ炬火及ヒ裸燈ヲ點スルコトヲ禁ス

甲第四十八號(十九年六月廿三日)

博覽會共進會其他之ニ類以テ開設セントスルモノハ該會規則書相添縣廳ヘ届出其二郡以上合併シテ開設スルモノハ願出認可ヲ受クヘシ
右布達ス

訓令第六十八號(二十六年十二月十二日)

郡役所 町村役場

銀行又ハ貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス一定ノ場所設テ銀行又ハ貯蓄銀行事業ノ全部若クハ其一部ヲ營ムトキハ其場所ヲ支店ト見做シ銀行條例施行細則ニ依リ其手續ヲ爲サシムヘシ
貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ置クトキハ契約書ヲ添ヘ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

宮崎縣令第八十三號(二十六年十二月廿八日)
農業組合ヲ設クル時ハ必ス當廳ノ認可ヲ受クヘシ

宮崎縣令第三十九號(二十六年六月廿六日)

商法第五十九條株式會社發起認可申請書並ニ商法施行條例第十條既設株式會社定款認可申請書ハ郡役所ヲ經由差出スヘシ

訓令第百十三號(二十七年六月十九日)

郡 役 所

自今銀行事業營ム會社ヨリ差出ス資本増減ノ認可申請書ニハ資本増減ノ理由及ヒ其拂込拂戻ノ期日方法等總會ノ決議案ヲ具シタル參考書ヲ添付セシムヘシ但各人ハ申請書ニ増減ノ理由ヲ記載セシムヘシ

宮崎縣令第四十六號(二十七年七月十日)

合名會社合資會社ニシテ登記ヲ受ケタルトキハ直ニ其事項及ヒ年月日ヲ届出ツヘシ但既ニ登記ヲ受ケタルモノハ此際本文ニ依リ届出ツヘシ

訓令第百六十八號(二十七年十二月十三日)

郡 役 所

一 船舶海員ニ關スル事業 一 水陸運輸事業 一 電氣事業
右ニ記載セル事業ヲ營ム株式會社并ニ該會社發起人ヨリ商法及ヒ其附屬ノ法律命令ニ依リ主務省ニ提出スル諸文書ニシテ從來農商務大臣宛差出シタルモノハ自今農商務遞信兩大臣宛トシテ郡役所經由本廳へ進達セシムヘシ

宮崎縣令第七十號(二十七年十二月廿六日)

農工商ニ關スル諸組合ニシテ當廳ノ認可ヲ經タルモノハ左記ノ事項届出ヘシ但本令發布以前ニ認可ヲ經タルモノハ來ル明治廿八年一月三十一日迄ニ該手續ヲ爲スヘシ

一 會長又ハ組長ノ氏名 其都度

一 經費ノ豫算及精算 全

一 組合人員 十二月卅一日現在

一 組合事業一ヶ年成績 翌年一月卅一日限但糖業組合ハ翌年二月末日限

訓令第七十號(二十七年十二月廿五日)

郡 役 所 町 村 役 場

明治二十六年(十二月)宮崎縣令第八十三號ニヨリ認可ヲ受クベキ農業組合規約標準左ノ通り相定ム

農業組合規約標準

第一章 名 稱

第一條 組合ハ何郡何町(村)農業組合ト稱ス

第二章 區 域

第二條 本組合ハ之ヲ分ツテ何小組合トス其區域左ノ如シ

一 大字何 第一小組合

一 大字何 第二小組合

一 何々 何々

第三章 位 置

第三條 本組合事務所ハ何郡何町(村)大字何番戸ニ置ク

第四章 目的及方法

第四條 本組合ハ農業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第五條 第四條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事項ヲ舉行ス

一 米麥作其他村内ニ必要農作物ノ改良ニ關スル事

一 農業ニ關スル諸施設(農談會、農事試驗、競學會、品評會ノ類)開設ノ事

一 肥料種苗其他共同購入ニ關スル事 一 農産物共同販賣ニ關スル事

一 虫害豫防及驅除ニ關スル事 一 農具肥料ノ改良及其普及ヲ計ル事

一 家畜家禽ノ改良蕃殖ニ關スル事 一 井手池池井ニ水路ノ保存其他ニ關スル事

一 排水ニ關スル事 一 山林株場ノ保護及取締ニ關スル事 一 勸勉貯蓄ニ關スル事

一 其他必要ノ事項

第六條 第五條ニ關スル實行ノ方法ハ會議ニ於テ之ヲ議定スルモノトス

第五章 役員

第七條 本組合役員ノ左

組長 一名 小組長 何名 委員 何名

第八條 組長ハ組合會議小組長ハ小組合會議ニ於テ撰舉ス

第九條 委員ハ小組合毎ニ若干名ヲ組合員ヨリ撰舉ス

第十條 組長ハ組合ヲ統理シ小組長ハ組長ノ指揮ヲ受ケ小組合ノ事務ヲ調理ス

第十一條 本組合ニ幹事書記ヲ置クトキハ組長之ヲ特撰スルモノトス

第六章 會議

第十二條 會議ヲ分ツテ組合會小組合會ノ二類トス

第十三條 組合及小組合ノ會議ハ通常會及臨時會ノ二種ニ分ツ

第十四條 組合會ハ委員小組合會ハ組合員ヲ以テ其議員トス

第十五條 通常會ハ毎年二回開設シ臨時會ハ急ヲ要スル場合ニ之ヲ開ク

第十六條 會議ノ議長ハ組合會ニアツテハ組長小組合會ニアツテハ小組長ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 組合會ノ議定事項左ノ如シ

一 着手スヘキ事業方法順序 一 經費賦課徵收方法及決算報告 一 前年中事業成績報告

一 其他必要ノ事項

第七章 入會及退會

第十八條 組合ニ加入スルモノハ組長ニ申出規約書ニ署名調印スルモノトス

第十九條 組合ヲ退去セントスルモノハ其理由ヲ組長ニ申出除名ヲ乞フモノトス

第八章 違約者處分

第二十條 本規約第何條何條ニ違背シタルモノハ何々

第九章 雜則

第二十一條 本組合ノ規約ノ更正加除ハ會議ノ評決ニヨルモノトス

第二十二條 會議ノ評決ニシテ重大ノ事件ハ縣廳ノ認可ヲ得テ履行スルモノトス

宮崎縣令第二十四號(二十八年八月二十日)

蠶絲業組合漁業組合及防治十七年甲第百七十八號全業組合準則ニ基ク組合ノ經費收支決算ハ爾以本廳ノ認可ヲ受クヘシ

甲第七十八號(十七年十二月十八日)

同業者組合ヲ結ビ規約ヲ定メ營業上福利ヲ増進シ溢利ノ弊ヲ矯正スルヲ圖ルモノハ同後左ノ準則ニ基キ出願スヘシ此旨達候事
同業組合準則

第一條 農工商ノ業ニ從事スルモノニテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスルモノ組合ヲ設ケントスルトキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り戶長及郡役所ヲ經由縣廳ヘ願出認可ヲ請フヘシ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲スヘシ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルキハ其理由ヲ詳細書面ニ認メ戶長及郡役所ヲ經由縣廳ヘ差出シ認定ヲ請フヘシ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事業及費用決算表ヲ毎年縣廳ニ差出スヘシ

第七條 規約ヲ改正スルキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 分立又ハ合併スルキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フヘシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルキハ更ニ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

但其聯合ニ關シハ開會地管轄屬ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

訓令第七號(二十九年二月一日)

郡 役 所

近來日向紙ノ名聲大ニ回復シ價格亦頗ニ昂進セシ趣キ此好機ニ乘シ粗製濫造等ノ弊害起ラザル様明治十七年農商務省達第三十七號同業組合準則ニ基キ左記ノ項目ニ從ヒ組合ヲ設ケ規約ヲ結ビ認可ヲ乞フニシムル様至急取計フヘシ

一組合ハ可成一郡内當業者ヲ以テ一組合トナスヘシ但地理ノ便否ニ據リ二個以上ニ分立シ又ハ組合員僅少ナルモノハ隣郡ニ合併セシムヘシ

一各組合ニ於ケル製紙ノ檢査及商標ハ可成各郡ヲ通シテ一定セシムル様協議方取計ヘシ

縣令第三號(二十一年一月廿六日)

市場規則左ノ通之ヲ定ム但市場ハ當分ノ内明治二十年(十月)告示第八十五號ニ定ムル準市街地ニ於テ各一ヶ所ニ限ル其他ハ開設スルヲ得ス

市場規則

第一條 此規則ニ稱スル市場トハ生魚干魚鹽魚類及鳥獸類並蔬菜菓物等ヲ混同又ハ分類シテ販賣スル市場ヲ云フ

第二條 市場ヲ開設スルモノハ此規則ヲ遵守スヘシ

第三條 市場ヲ開設セントスルトキハ五名以上ノ組合ヲ設ケ申合規約ヲ作り市場開設ヲ出願スヘシ

但規約ヲ更正加除スルトキハ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 市場開設ノ許可ヲ得タルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第五條 規約中ニハ左ノ各項ヲ具記スヘシ

一 覽者或ハ買者ヨリ手数料金ヲ徴收スル方法

一 役員撰擧ノ方法

一 市場開閉ノ時間

一 市場維持并取締ノ方法

一 市場ニ於テ販賣ノ方法

一 違約者處分ノ方法

一 右各項ノ外必要ノ事項

第六條 市場開設願書ニハ左ノ各項ヲ添付スヘシ

一 市場ノ位置

一 市場開設ノ資本金額

一 市場實測圖面

但圖面中ニハ市場ノ建物執數敷地坪數等ヲ具記スヘシ

一 汗穢水ヲ排出スル溝渠ノ構造方

一 近傍人民ノ市場開設諸否

第七條 市場開設ノ許可ヲ得市場ヲ建設シタルトキハ所轄警察官ノ検査ヲ請フヘシ

但構造不充分ニシテ衛生上ノ妨害ト認ムルトキハ警察官ニ於テ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 市場閉場ノトキハ清潔ニ洒掃スヘシ但閉場中ト雖トモ不潔ナキ様注意スヘシ

第九條 市場ノ役員ハ勿論組合員ハ物品ヲ送附シタル荷主又ハ商人ニ對シ租課ノ取扱ヲナス可ラス

第十條 市場開設ノ許可ヲ得役員ヲ選舉タルトキハ其住所氏名ヲ所轄警察署又ハ分署及縣廳第一

農商課ヘ届出ヘシ

但役員ヲ變更シタルトキモ亦同シ

第十一條 市場立合人員ハ二月月々縣廳第一節農商課ヘ届出ヘシ

第十二條 許可ヲ得シテ市場ヲ開設シタルモノ及第八條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

戊第六十七號(十七年五月十四日)

郡 役 所

廣島縣下造船所ニ於テ免稅船ヲ新規造船シ其定際場他所縣下ニ定ムル者ハ爾來左ノ書式ノ販航証書全縣ヨリ下附ノ答ニ候條當縣下ノ者ニシテ右証書携帶歸港候節ハ烙印濟該証書引揚ケ消却ノ上其官可届出此旨相達候事

第何號

販 航 証

何府縣何國何郡何町何番地

一何船長何國
 但定繫場何府縣何國河那何町何港
 右ハ當縣下何國何郡何村ニ於テ新規造船候處規則第十條ニ適スルモノニ付鑑札ヲ付與セス飯航差許
 スモノ也

明治 年 月 日

廣 島 縣

訓令第五十八號(二十九年六月三日)
 海岸望樓前ヲ通過スル軍艦及ヒ西洋形商船ハ鑑船名符字信號旗ヲ掲揚スヘキ義ハ去ル二十七年八月四
 日海軍省告示第九號ノ通ニ有之候處近來往々右告不テ履行セサルノミナラス甚シキニ至リテハ望樓ヨ
 リ信號スルモノ之レニ應セサルモノアリ内外國艦船ノ區別スラ識別スルヲ得ス不都合ノ至リニ付目今一
 層嚴守注意スル様其ノ筋ヨリ通知有之候條西洋形商船各所有者ヘ其旨篤示スヘシ

郡 役 所

訓令第六十二號(二十二年六月二十二日)
 諸船舶測度手續左ノ通之ヲ定ム(廿三年十一月十二日) 訓令第三百二十二號實施ノ日ヨリ廢止)
 一 日本形回漕船ノ測度ヲ願ハルモノアルトキハ明治十七年四月布告第拾號全布達第拾號ニ依リ測度ス
 一 測度ヲ終リタルトキハ船名 噸數石數及定繫場名 船主ノ族籍氏名ヲ收稅部出張所ニ通知スヘシ
 一 西洋形登簿船ハ測度ノ都度其測度表ト共ニ免狀下附願書ヲ本縣ヘ進達シ不登簿船ハ明治十六年十
 月農商務省第十三號達ノ雛形ニ依リ報告スヘシ

郡 役 所

訓令第二百四十八號(二十二年九月廿七日)
 五拾石以上日本形回漕船(舟漁船)員數左ノ様式ニ據リ毎年六月分ハ其年七月二十日十二月分ハ翌年一
 月二十限リ當廳第一部ヘ報告スヘシ

收稅部出張所

訓令第三百二十二號(二十三年十二月廿七日)
 船籍取扱規程左ノ通定メ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但明治二十二年六月訓令第六十二號ハ本
 則實施ノ日ヨリ廢止ス

船籍取扱規程

郡 役 所 町 村 役 場 浦 役 場

第一條 町村役場又ハ浦役場ニ於テ船籍書証及假證書ノ交付、書替、訂正又ハ返納屆書願書ヲ受附ケ
 タルトキハ與書ノ上之ヲ所轄郡役所ニ送達シ郡役所ハ之ヲ縣廳ニ進達スヘシ
 第二條 町村役場又ハ浦役場ニ於テ船籍編入ノ願書ヲ受附ケタルトキハ船籍施行細則第二條ノ手續ヲ
 ナシ測度願書ヲ添ヘ其積量ノ測度ヲ郡役所ニ申請スヘシ
 第三條 郡役所ニ於テ第二條ノ申請ヲ受附タルトキハ船籍施行細則第三條ノ手續ヲ履行シ船籍証書ヲ
 要セサル船舶ハ其測度証書ノ寫ヲ其間稅分署ニ送附スヘシ
 第四條 測度シタル船舶ニシテ船籍証書ヲ受有スヘキモノナルトキハ船籍證書下附願書ト共ニ件名書
 并測度表ヲ本縣ニ進達スヘシ
 第五條 郡役所ニ於テ船籍施行細則第七條ニ依リ船舶ノ測度ヲナシタルトキハ假船籍證書下附願書ト
 共ニ件名書並測度表ヲ本縣ニ進達スヘシ
 第六條 船籍港外ニ於テ船籍證書ヲ要セサル船舶(五十石ノ未満船舶)ヲ製造シタルモノアルトキハ其
 郡役所ニ於テ之ヲ測度シ測度證書本船籍所在ノ郡役所ニ送附シ同時ニ其寫ヲ其地間稅分署ニ送附

スヘシ但其船籍ノ本縣管外ヘ係ルモノハ船舶所有者ノ住所氏名船名并石數噸數等ヲ間稅分署ニ通知スヘシ

第七條 前條ノ證書ヲ受ケタル郡役所ヘ之ヲ船籍所在ノ町村役場又ハ浦役場ニ送附シ同時ニ其寫ヲ其地間稅分署ニ送附スヘシ

第八條 郡役所ニ於テ船籍施行細則第十三條ニ依リ船籍證書ノ書替願出テ受附タルトキハ其積量ノ變換ニ係ルモノハ本規程第三條ノ手續ヲナシ測度表ト共ニ該願出ヲ本縣ニ進達ヘシ

第九條 船籍規則ニ依リ町村役場又ハ浦役場ニ於テ調製スヘキ船籍臺帳西洋形日本形トモ件名書ニ記載スル事項ヲ盡登錄スヘシ

郡役所 町村役場

訓令第七十一號(二十五年十二月二十九日)
明治二十三年(十二月)訓令第三百二十二號船籍取扱規程船籍規則實施ノ期日迄之ヲ實施セス

告示第七十八號(二十九年五月九日)
登簿噸數一百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若クハ外國ヨリ買入タルモノアルトキハ海上運輸ニ係ル調査上必要ノ諸件ニ關シ海軍軍令部ニ於テ該船舶ニ臨檢シ調査ヲ遂クヘキ旨海軍大臣ヨリ達シアリタルニ付該船所有者ハ豫テ此旨心得ヘシ但シ既ニ該調査ヲ了リタル船舶ト雖爾後其構造ヲ變更シタル等ノ場合ニ於テハ更ニ臨檢調査セラルヘシ

郡役所

訓令第一號(二十九年一月十一日)
從來商船ハ何々丸ト命名スルヲ常トシ自カラ軍艦トノ區別ヲナスノ便宜アリシ處近來商船ニ在テモ丸

字ヲ付モサルモノ有之中ニハ軍艦ト同名ノモノヲ出シ斯クテハ今後軍艦商船ノ益々増加スルニ從ヒ種々ノ錯誤ヲ生スルノ恐レナシトモ付爾後商船ニハ船籍編入出願ノ際丸字ヲ付セサルモノアリタルトキハ丸字ヲ付スベキ變換示スヘシ

宮崎縣令第四十六號(二十六年八月二日)

度量衡取締規則左ノ通定

度量衡取締規則

第一條 度量衡器ノ製作者修葺者及販賣者ハ營業ニ關スル帳簿ヲ調製シ其製作修葺販賣シタル器物ノ種類員數及價格修葺料等其他必要ト認ムル事項ヲ記入シ置キ臨檢官吏ノ閱覽ニ供スヘシ

第二條 取締吏員ハ度量衡器營業者及使用者ノ營業所其他必要ト認ムル場所ニ臨檢シ度量衡器ノ調査ヲ爲スコトアルヘシ

第三條 取締吏員ハ前條臨檢ニ際シ差狂若クハ毀損アリト認メタル度量衡器ハ檢定ヲ受クルコトヲ命ズヘシ但後來使用ノ目的ナキモノハ此限ニアラス

第四條 使用者ニシテ度量衡器ニ狂差ヲ生シタル疑アルモノハ速ニ其檢定ヲ請求スヘシ

第五條 度量衡器營業者ハ第一號様式ニ依リ標札ヲ調製シ營業所ノ戶外見易キ場所ニ掲出スヘシ

第六條 度量衡器ノ製作及修葺ニ用ユル原器ハ可成濕氣少ク溫度ノ劇變火災及塵埃ヲ避クヘキ場所ヲ撰ミ堅平ナル臺ヲ据ヘ其上ニ平置シテ保管スヘシ

第七條 明治二十四年(八月)農商務省令第十一號度量衡法施行規則第四十四條ノ屆書ニハ桿秤ノ物質、記號、年號、番號、使用者ノ住所氏名及器物ノ差狂アル廉ヲ詳記シ之ヲ其使用者ノ居住町村長ヘ届出ヘシ

第八條 製作者ハ第二號書式ニ依リ製作額販賣額并ニ賣上代價ヲ記入シ毎年七月及一月二回前半季分ヲ報告スヘシ

第九條 修復者ハ第三號書式ニ依リ修復額并修復料ヲ記入シ毎年七月及一月二回前半季分ヲ報告スヘシ

第十條 販賣者ハ第四號書式ニ依リ買入品ノ額并ニ其代價仕入先ノ住所姓名總販賣額及總代價ヲ記入シ毎年七月及一月二回前半季分ヲ報告スヘシ

第十一條 一條度量衡器營業者ニシテ桿秤ノ取締及錘跡ノ金屬ニアラサルモノ、修復ヲ爲シタル時ハ第三號書式ニ準シ製表シ報告スヘシ

第十二條 本則第一條ニ違背シ又ハ第三條ノ命ヲ受ケ尙檢定ヲ乞ハサルモノハ二日以上五目以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓九十五錢以下ノ罰金ニ處ス

訓令第百十五號(二十六年八月二日) 郡役所 町村役場

本年(一月)訓令第七號度量衡器ノ取締及檢定事務補助手續ヲ廢シ度量衡取締規則施行規程左ノ通定ム

度量衡取締規則施行規程

第一條 町村長ハ其町村内ニ於ケル度量衡器ノ販賣ヲ行ヒ及其檢定ニ關スル事務ヲ補助スヘシ

第二條 町村長ハ其町村内ニ於ケル度量衡器營業及使用者取締ノ爲メ毎年一回以上普ク臨檢シ尙ホ常ニ視察ヲ怠ラスシテ必要ト認ムルトキハ臨機檢査スヘシ其取調ヲ要スル概略左ノ如シ

製作場修復場ニ臨檢シタル時

一、設計書記載ノ事項ニ違フコトナキヤ否

二、製作修復ニ充ツル材料ハ精良ノモノナルヤ否

三、營業帳簿ハ整頓シ居ルヤ否

四、原器保管法ハ規則第六條ニ適合スルヤ否

販賣場ニ臨檢シタル時

一、設計書記載ノ事項ニ違フコトナキヤ否

二、營業帳簿ハ整頓シ居ルヤ否

三、度量衡器ニ證印若クハ證書アルヤ否

四、度量衡器ニ差狂ナキヤ否

營業ノ目的ニ使用スル場所ニ臨檢シタル時

一、度量衡器ニ證印若クハ證書アルヤ否

二、度量器

イ)一端若クハ両端磨滅シ又ハ狂撓シタルモノナキヤ否

ロ)疊尺ノ接續部ニ緩ミヲ生シ狂差ヲ生シタルモノナキヤ否

ハ)目盛全長ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否

三、量器

イ)槽類其他容量ヲ減スベキモノ、附着シタルモノナキヤ否

ロ)缺損其他構造ニ變状ヲ來シタルモノナキヤ否

ハ)全量ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否

ニ)斗概ノ狂撓シ又ハ側面ニ凹凸ヲ生シタルモノナキヤ否

ホ)穀量ニ使用スル量器ハ適當ノ斗概ヲ備フルヤ否

四、衡器

(イ) 分銅又ハ鏝ノ重量ニ増減ヲ生シタルモノナキヤ否
 (ロ) 桿又ハ指針ノ狂擾シタルモノナキヤ否
 (ハ) 取緒及ヒ鏝糸ハ正當ノモノナルヤ否
 (ニ) 目盛秤量ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否
 五、度量衡器ニアラスシテ其名稱ヲ用キ使用スルモノナキヤ否
 第三條 前條ノ臨檢ヲナシタルトキハ其概況ヲ一週間以内ニ當廳ヘ報告スベシ
 臨檢ニ際シ差狂若クハ毀損アリト認メタル度量衡器ハ速ニ檢定ヲ受ケシムヘシ
 第四條 町村長ニ於テ規則第六條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ臨檢シ果シテ差狂アリタルトキハ其器
 ノ修復ヲ命ジ若クハ檢定ヲ受ケシムヘシ
 前項ノ場合ニハ其都度事實ヲ具シ報告スベシ
 第五條 度量衡器ノ取締ニ關シ主任官吏ノ臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ速ニ之ヲ請求スヘシ
 第六條 町村長ハ當廳ヨリ交付シタル度量衡取締ノ証票ヲ保管シ臨檢ノ時ハ之ヲ携帶シ若シ紛失毀損
 シタルトキハ其事由ヲ具シ再渡ヲ請求スヘシ
 第七條 町村長ハ度量衡ニ關シ犯罪アルヲ認知シタルトキハ之ヲ告發スヘシ此場合ニハ速ニ當廳ヘ報
 告スルヲ要ス
 第八條 度量衡特設檢定所ノ設置並ニ檢定期日ノ告示アリタルトキハ其期日內ニ營業ノ目的ニ使用ス
 ル度量衡器ハ遺漏ナク其檢定ヲ受ケシムヘシ
 第九條 度量衡特設檢定所ヲ設置シ又ハ度量衡法施行規則第四條ノ請求ヲ許可シ主任官吏ヲシテ出張
 檢定ヲ爲サンムルトキハ町村長ハ其需ニ應ジ之ヲ準備ヲ爲スヘシ
 第十條 町村長ハ左ノ様式ニ依リ度量衡器營業者名簿ヲ調製シ置キ異動アル毎ニ之ヲ訂正スヘシ

度量衡器ノ種別	製作修復販賣種別	名許狀 番 下付年月日 號	營業者住所	營業者氏名

告示第十號(二十六年一月十八日)
 明治二十四年(八月)農商務省令第十一號度量衡法施行規則第十一條第二項度量衡常置檢定所ハ當分ノ
 内縣廳構内查測候所跡ヲ以テ之ヲ充ツ

告示第十一號(二十六年二月十八日)
 度量衡取締主任並ニ取締ノ携帶スヘキ証票左ノ通
 豎三寸 幅二寸

(表)
 割第何號 縣
 度量衡取締主任之證
 印

(裏)
 年 月 日

(表)

印	割第何號 縣
印	何那何町村段量衡取締之證

(裏)

年	月	日
---	---	---

宮崎縣令第十號(二十七年三月一日)
 明治二十一年(四月)宮崎縣令第二十六號山野火入取締規則左ノ通改正ス

山野火入取締規則

第一條 茅野秣場燒畑等肥鏡及除害ノ爲メ山野ニ火入ヲサントスルトキハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 火入期日

一箇所限地目反別及字番號

一四至境界ヲ見ルヘキ實地畧圖

官林線内并ニ官有地ニシテ茅秣等刈取及放牧ノ許可ヲ受ケタル土地ニ於テ火入ノ舊慣アルモノモ前項ノ手續ニ據ルヘシ

第二條 火入ノ期日ハ其火入ヲ爲サントスル山野連互シテ期日異同ノ爲メ他ニ延燒ノ虞アリト思慮シ

若クハ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ變更伸縮セシムルコトアルヘシ

第三條 火入ノ許可ヲ得タルトキハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野并木敷等ニ接シタル境界

ニ坊火線ヲ設ケ少クトモ火入期日五日以内其隣地所有者(官林ナルトキハ大小)ニ報告シ及所在巡查駐在所へ届出ツヘシ

第四條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈取リ落葉并塵芥ヲ除去シ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設ケナ

スヘシ但道路溪谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第五條 日出前日没後及風勢穩カナラサルトキハ火入ニ着手スヘカラス

第六條 火入ノ期日間ハ非常ニ備フヘキ相當人員ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ル迄其場ヲ退カンシヘ

カラス

第七條 火入ノ許可ヲ受ケタルモノト雖トモ警察官大小林區署員町村ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メ

又ハ風勢穩カナラスシテ他ニ延燒ノ虞アリト思慮スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

第八條 第七條及其他ノ事故ニヨリ火入ノ期日ヲ變更シタルトキハ少クトモ三日以前其ニ第四條ノ手

續チナシ其旨警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

第九條 左記ノ各項ニ該當スルモノハ駐在巡查ニ届出指揮ヲ得テ火入ヲ爲スコトヲ得

一官林線内並官有地内ニ孕マレ又ハ接續シタル耕地宅地及耕地宅地等ノ爲メ貸下ノ許可ヲ得タル箇

所ニシテ舊慣アルモノノ除害除野火除ノタメ其周圍八間以内柴草燒拂ヲナストキ

一茅野秣等ニ孕マレ或ハ接續シタル民林又ハ部分木林ニシテ舊慣アルモノノ野火除ノ爲メ八間以内燒

拂ヲナストキ

第十條 本則第一條第三條第五條第六條第八條ニ違背シ若クハ第七條ノ命令ニ從ハサルモノハ二日以

上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條 本則第九條ノ手續ヲ爲サル、モノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾五錢以上壹圓

以下ノ科料ニ處ス

訓令三十一號(二十七年三月一日)

警察署 警察分署

山野火入取締規則改正ニ付山野ニ火入ヲサントテ願出ツルモノアルハ左ノ手續ニヨリ取扱フヘシ

一 火入ヲ爲サント欲スル山野ノ實況ヲ審査シ障害ノ有無並從來火入ノ實驗習慣等ヲ調査シテ之ヲ許
否スヘシ

一 四至境界ニ防火線ヲ要シ又ハ防火線ノ設アルモ不充分ナリト認ムルトキハ其位置職員等ヲ懇篤指
示スヘシ

一 火入ヲサント欲スル山野ノ官林ニ關係アルトキハ大小林区署ヘ前以テ商議ヲ遂クヘシ

戊第三十三號(十六年十月五日)

郡役所

天變地異ハ凡テ氣象ニ關係スルモノニテ電氣雷雪霜風雨旱澍地震噴火光物隕石海嘯等臨時與兆ノ
現象有之節ハ時機ニ依リ内務省氣象部ヨリ直チニ各郡役所ヘ問合候儀モ可有之旨地理局長ヨリ照會越
候條石等之節ハ速ニ應答候様可致其旨豫テ相達候事

訓令第三十七號(二十一年三月廿三日)

郡役所

近來縣下北諸縣郡内嶽村霧島山噴火シ近傍ノ地方ハ時々震動セル趣キ此ノ如キ類ハ氣象觀測上必要ニ
付爾後強弱ニ拘ハラス地震ヲ感シタルトキハ明治十八年(四月)戊第三十一號達ニ基キ其都度内務省地
理局中央氣象臺ヘ報告スヘシ

告示第六十一號(二十六年三月十六日)

本年三月十八日ヨリ本縣廳火ノ見格上ニ暴風警報信號標ヲ設置シ暴風ノ警報アル毎ニ赤球トスルノ虞
アルヲ并ニ赤圓錐トシ暴風起ラントシ天氣特ニ示ス 并ニ赤圓錐ニ險惡ノ虞アルヲ示ス 但當分ノ内夜間ノ信號標ハ掲ケス

告示第二百四十九號(二十六年十月廿三日)

縣下東曰杵郡細嶋港ニ警報信號標ヲ設置シ明治二十六年十一月一日ヨリ暴風ノ虞アル毎ニ左ノ通信號
ヲ掲示ス

一 暴風起ラントスルノ虞アルトキハ晝間ハ赤球夜間ハ紅燈壹個ヲ掲ク
一 暴風起ラントシ天氣特ニ險惡ノ虞アルトキハ晝間ハ赤圓錐夜間ハ紅燈二列ヲ掲ク

告示第二百五十三號(廿七年十一月二十一日)

縣下南那珂郡油津港ニ暴風警報信號標ヲ設置シ明治二十八年一月一日ヨリ暴風雨ノ虞アル毎ニ左ノ信
號ヲ掲揚ス

一 海上不穩ノ虞アリ沿海ヲ警戒ス(球ヲ揚ク)
一 海上暴風ノ虞アリ沿海ヲ警戒ス(圓錐ヲ揚ク)
一 風雨ノ虞アリ海陸ヲ警戒ス(球ヲ掲ク)
一 暴風雨ノ虞アリ海陸ヲ警戒ス(圓錐ヲ掲ク)
一 夜間球ニ代フルニ紅燈一個ヲ圓錐ニ代フルニ紅燈二個ヲ以テス

訓令第七號(二十七年六月二日)

郡役所 町村役場

氣象觀測所ニ於テハ左ノ規定ニ依リ氣象ヲ觀測シ毎月々報ヲ調製シ翌月五日限リ宮崎地方測候所ニ報

告スヘシ

氣象觀測規程

第一條 氣象觀測所ニ於テ觀測スヘキ事項左ノ如シ

- 一 温度
- 二 雨雪量
- 三 風向
- 四 風力
- 五 天氣
- 六 各種ノ現象

第二條 觀測時ハ毎日標準時午前十時トス

但シ天氣及ビ各種ノ現象ハ一日中ノ氣象ヲ觀測スルモノトス

第三條 觀測ハ正確ニシテ缺漏ナキヲ要ス若シ已ムテ得サルノ事故アリ缺測シタルハ氣象表ニ缺測

ノ二字ヲ記シ決シテ自己ノ揣摩憶測ヲ以テ其缺ヲ補フベカラス

第四條 寒暖計ハ大氣ノ温度ヲ正確ニ示スヘキ裝置ヲ爲スヲ要スルガ故ニ四方開豁ニシテ大氣ノ流通

宜シキ場所ヲ撰フヘシ

寒暖計ハ板簾ヲ以テ三方ヲ圍ミタル箱ノ中央ニ懸ケ之レヲ北向キノ外壁高サ凡ソ一米二ノ處ニ取附

クヘシ

第五條 温度ハ小數一位迄ヲ測リ器械附屬ノ證狀ニ照シ誤差ヲ更正スヘシ

第六條 雨量計ハ四方開豁ニシテ樹木家屋等ノ障礙物ニ遠サカリタル場所ヲ撰ミ据付クヘシ

地ニ穴ヲ穿チ板ニテ圍ヒ其内ニ滴水器ヲ容レ其狹頸ニ漏斗ヲ挿ミ上縁ヲシテ水準ヲシメ且地面ヲ距

ルユト凡ソ〇、二米ノ高サニ在ラシムヘシ周邊ニハ芝草ヲ植エ以テ雨溜ノ地面ニ落タルモノ、飛散

シテ漏斗内ニ入ルヲ防クヘシ

第七條 雨量計ノ觀測ハ先ツ漏斗ヲ取除ケ然ル後滴水器ノ雨水ヲ量水器内ニ注入シテ其量ヲ測ルヘシ

若シ數度測リタルトキハ其總數(廿四)ヲ記載スルモノトス

冬時降雪ノ際ノ器内ニ堆積シタルトキハ器械ヲ室内ニ入レ徐々ニ之ヲ温メテ雪ヲ融解セシメタル後

滴水器ノ水量ヲ測ルヘシ

第八條 午前十時ニ測リタル雨雪量ハ前日ノ雨雪量トナスヘシ

第九條 積雪ノ觀測ハ平坦ニシテ且ツ可成風ノ爲メニ雪ヲ吸集メ或ハ吹散ラサル、變ナキ場所ヲ撰ビ

柱ヲ垂直ニ立テ地面ヲ零トシテ上ノ方ヘシ

積雪ハ初雪以後毎日地上積雪ノ増減ヲ調査スルモノトス

第十條 風信器ハ喬木或ハ高樓等風ヲ遮ギルモノナキ場所ニ据付クヘシ

第十一條 風向ハ左ノ八種ニ區別ス

- 北
- 北東
- 東
- 南東
- 南
- 南西
- 西
- 北西

第十二條 風力ハ推測ヲ以テ左ノ七種ニ區別ス

- 風力名稱
 - 〇 無風
 - 一 軟風
 - 二 和風
- 說明
- 烟全ク上昇シ或ハ殆ント直
 - 上シ又樹葉動カサルモノ
 - 人ヲシテ風ノ感覺ヲ起サシムルモノ
 - 樹葉ヲ動カスモノ

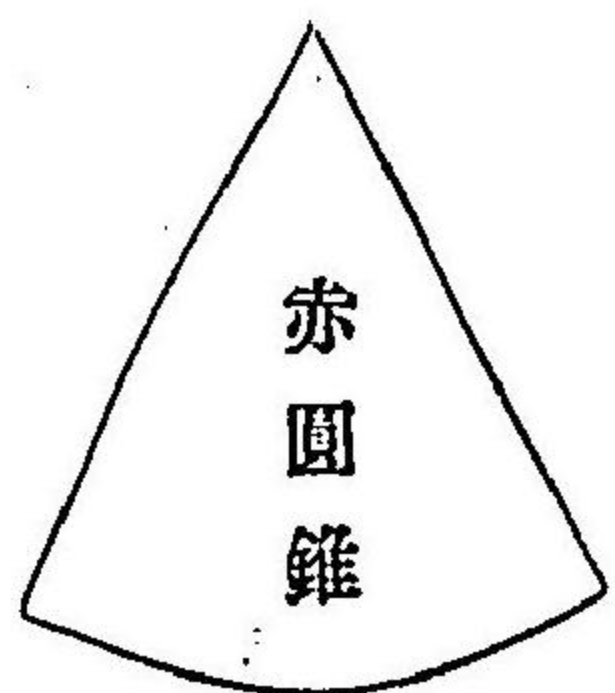
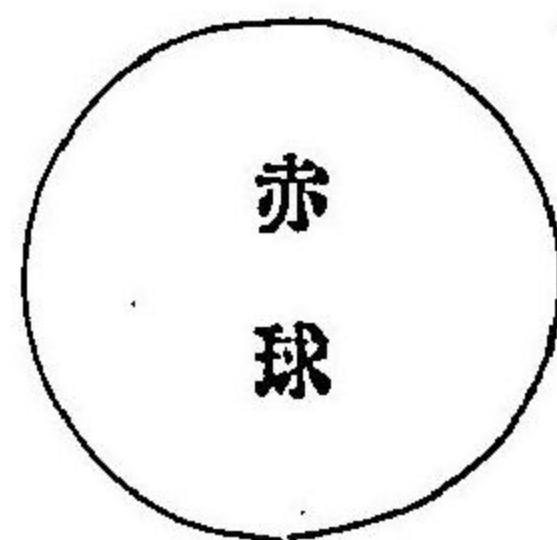
- 三 疾風 小枝ヲ動かカスモノ
- 四 強風 勁枝ヲ動かカスモノ
- 五 烈風 大樹ノ幹ヲ動かカスモノ
- 六 颶風 樹ヲ抜キ家ヲ發クモノ
- 第十三條 氣天ハ快晴晴天曇天ノ三種トナシ一日中雲量ノ多少ニヨリ定ム
 滿天一點ノ雲ナキヲ零トシ滿天雲ヲ布クヲ十トスルノ割合ヲ以テ左ノ如ク區別ス
 快晴 雲量二以下(但ニヲ算入セス)
 晴天 三乃至七
- 曇天 雲量八以上(但八ヲ算入ス)
- 第十四條 雨、雪、雹、霰、電雷、霧、暴風、霜、地震各種ノ現象ハ月報記事欄内ニ其始終時刻等詳記スヘシ
- 第十五條 左ノ各項ハ特ニ必要ニ付臨時報告スヘシ
 暴風、洪水、地震、電雷、雹、海嘯等ノ景況及ヒ被害ノ模様
 大空ノ變色、太陽ノ變色、灰石ヲ降ラン火山破裂地盤陥落、地破レ等異常ノ現象
 霜及ヒ雪ノ初終期
 植物及ヒ動物ノ季節
- 第十六條 氣象觀測者ハ月報ニ署名スヘシ

告示第七十九號(二十七年六月二日)
 左ノ八個所ニ氣象觀測所ヲ設置シ來ル七月一日ヨリ開始ス
 伏肥 氣象觀測所 南那珂郡役所構内

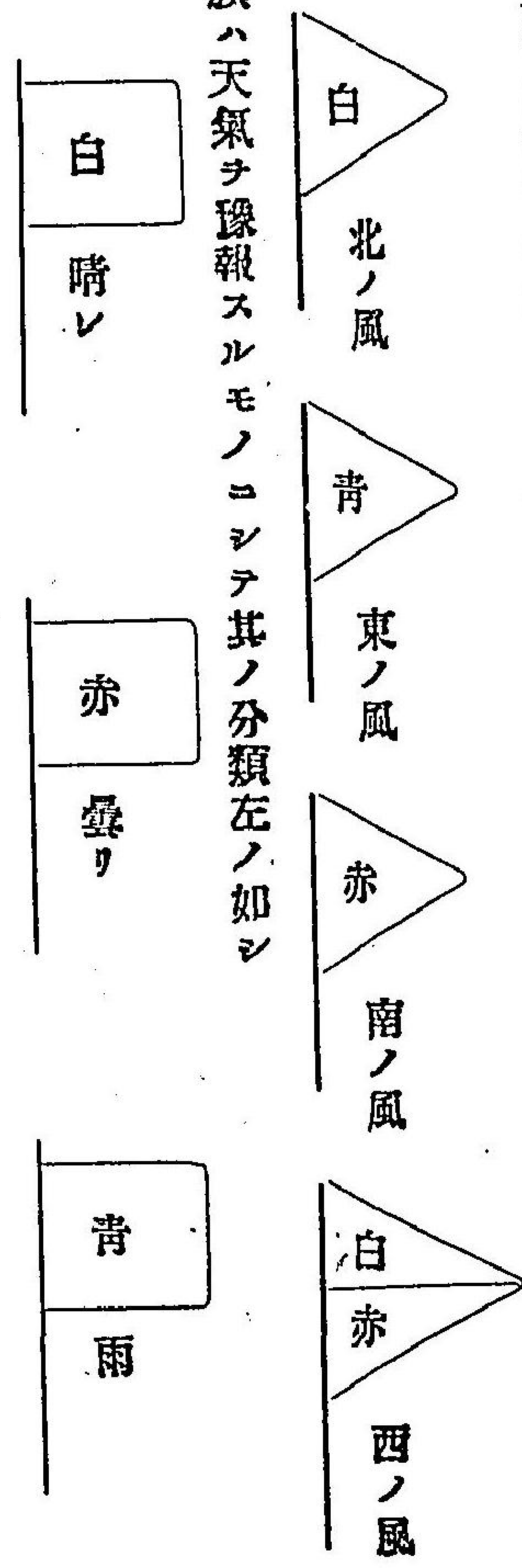
都城氣象觀測所 北諸縣郡役所構内
 小林氣象觀測所 西諸縣郡役所構内
 高岡氣象觀測所 東諸縣郡役所構内
 高鍋氣象觀測所 兒湯郡役所構内
 延岡氣象觀測所 東臼杵郡役所構内
 神門氣象觀測所 東臼杵郡南郷村役場構内
 三田井氣象觀測所 西臼杵郡役所構内

告示第九十八號(二十九年六月十二日)
 宮崎地方測候所内ニ氣象信號標ヲ建設シ本月十五日ヨリ左記標式ニ據リ施行ス

- 氣象信號標式
- 一 氣象信號標ヲ分チテ二種トス
- 豫報信號標
- 一 豫報信號標ハ中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受ケタルトキ掲揚シ解報ヲ受ケタルトキ卸下スルモノトス
 但本所門前ニ警報ノ全文ヲ掲示ス
- 一 警報信號標ハ赤球又ハ赤圓錐トス



- 一赤球ハ海上不穩又ハ陸ニ風雨ノ虞アルヲ示シ赤圓錐ハ暴風雨ノ虞アルヲ示ス
- 一豫報信號標ハ地方天氣豫報ヲ揭示ス
- 一豫報信號標ハ三角旗方旗ノ二類トス
- 一三角旗ハ風向ヲ豫報スルモノニシテ其ノ分類左ノ如シ



一方旗ハ天氣ヲ豫報スルモノニシテ其ノ分類左ノ如シ

一區々メ風ハ信號標掲ケス

一「晴」但多少ノ雨「ハ」方旗二個ヲ連掲ス

但雨旗ヲ下トス

一「曇」但多少ノ雨「ハ」方旗二個ヲ連掲ス

但雨旗ヲ下トス

一「霽」但多少ノ雨「ハ」方旗二個ヲ連掲ス

但雨旗ヲ下トス

一「霽」但多少ノ雨「ハ」方旗二個ヲ連掲ス

但雨旗ヲ下トス

告第百九十六號(十八年十一月十日)

北海道移住民ノ義ハ着後直ニ開墾ニ着手スヘキニ付テハ移住民惣代ニ於テ土地撰定ノ上豫備地拜借ノ

義出願致來候處間々目的ノ不充分ナルヨリ申立ノ通り履行セス爲メニ數百萬坪ノ土地ヲ豫備シ各自開墾致サ、ルノミナラス却テ他ノ開墾特許者ノ妨ケヲ爲スモノ少ナカラス候趣就テハ爾今以後該地移住ノ義出願候者ハ本縣ニ於テ添書下附可致尤モ右添書帶無之者ハ其筋ニ於テ一切開墾相成ラサル義ニ候條爲心得此旨告示候事

甲第七拾號(十八年五月十三日)

私築燈明臺新設及改築等處分ノ義工部省ニ於テ左ノ通被定候條此旨布達候事

- 一私築燈標ヲ願出ルモノハ西洋式ノ外一切許可不致候事
- 一新設并改築セント欲スルモノハ其工事着手前燈臺局ヘ届出其構造及建築ノ仕様等一切該局ノ指揮ヲ受クヘキ事
- 一新設并改築トモ其工事落成點火ノ節ハ當省ニ於テ内外國一般ヘ公告可致ニ付前以テ届出ヘキ事

但本文落成後點火及保護等ノ法則ハ燈臺局示教書中ニ關スル條項ヲ遵奉シ併テ該局ノ監督ヲ受クヘキ事

乙第七十二號(十八年五月十四日)

今般諸標 燈臺燈竿 統計表調成候ニ付工部省以轉外ノ諸標ハ總テ左ノ諸標統計表調査差出方心得替ニ據

該地浦役場ニテ調査シ所轄郡役所經由可差出此旨相達候事

諸標 燈臺燈竿 統計表調査差出方心得替

郡役所

第一條 燈臺又ハ燈竿浮標標等ノ建設落成ノモノハ其都度一度限リ第一號第二號表ノ如ク直チニ調

郡役所 北道 西道 東道 諸標 西

浦役場 日杵 四郡 役 除ク

查シ通常紙ニ認メ差出マモノトス而シテ其年十二月三十一日ニ至リ更ニ第二條ノ手續ヲナスヘシ
第二條 第三號第四號表ハ毎年十二月三十一日調査シ通常界ニ認メ翌年一月十五日限リ差出モノトス

戊第十四號(十八年二月二十日)

明治十七年十月一日ヨリ商標條例施行相成候ニ付テハ登録商標見本觀覽所左之ケ所ニ相定候條其役所
ニ於テ登録商標見本衆共之觀覽ニ供シ候様可取斗此旨相違候事但登録商標見本ハ追而業務課ヨリ送附
スヘシ

登録商標觀覽所ケ所

- 一 縣農業務課
- 一 北諸縣郡役所
- 一 東日杵郡役所

告示第八十二號(二十年九月二十九日)

明治十八年(九月)告示第百七十二號達登録商標觀覽所左ノ通改定ス

- 一 縣農業務課
- 一 北諸縣郡役所
- 一 東日杵郡役所

告示第四十號(二十一年七月十日)

獸醫假開業出願規則左ノ通之ヲ定ム
但出願期日ハ試驗施行ノ都度之ヲ告示ス

獸醫假開業免許出願規則

第一條 獸醫ニ乏シキ地ニシテ假開業獸醫配置ノ必要アルトキハ開業年限ヲ滿ニケテ年ト定メ其人員及
擔當區域ヲ限リ告示ス此場合ニ於テ其免狀ヲ得ントスルモノハ第一號書式ニ依ヒ郡役所ヲ經由シテ
試驗願出スヘシ但試驗ノ課程ハ其都度告示ス

第二條 試驗ニ及第セシモノハ第二號書式ニ依ヒ免狀下付願三通ヲ差出スヘシ

第三條 地勢ノ不便ニ據リ地區ノ變更又ハ合併ヲ需ムルトキハ擔當獸醫連署ヲ以テ願出ツヘシ

假開業試驗願

郡町番戶族籍

何ノ誰

何月何ヶ月

私儀獸醫假開業免許受仕度候間御試驗被成下度此段奉願候也

右

年 號 月 日

右戶長

何ノ誰

知事氏名宛

第二號書式(用紙美濃紙)

假開業免狀御下付願

郡町番戶族籍

何ノ誰

私儀何那何(町村)ニ於テ歐密開業仕度候間假開業免狀御下付被成下度履歷書相添へ此段奉願候也
何年何ヶ月

年 號 月 日

農商務大臣宛

右
何ノ誰
何ノ誰
右戸長

訓令第二百十七號(二十四年十月十五日) 郡役所 警察署 警察分署 町村役場

明治十九年(九月)農商務省令第十一號歐密傳染病豫防規則ニ依リ歐密ノ備入ヲ必要トスル場合ニ於テハ町村並ハ所轄警察官ト協議ヲ遂ケ一ヶ月金參拾圓以内ノ割合ヲ以テ備入日數ヲ豫定シ其傳染病ノ狀況並歐密ノ備入ヲ必要トスル理由書ヲ添へ郡役所ヲ經由上申スヘシ若シ至急ヲ要スル場合ニ於テハ一周間以内ヲ目的トシ備入ヲナシタル後直ニ備入豫定ノ日數給科類傳染病ノ狀況並歐密ノ備入ヲ必要トセシ理由等ヲ詳細取調郡役所ヲ經由上申スヘシ

告示第八號(二十四年二月九日)

蹄鉄工開業免許出願規則左ノ通之ヲ定ム

蹄鉄工開業免許出願規則

第一條 蹄鉄工ニ乏シキ地ニシテ假開業蹄鉄工配置ノ必要アルトキハ開業年限ヲ滿ニケ年ト定メ其人員及擔當區域ヲ限リ告示ス此場合ニ於テ其免狀ヲ得ントスルモノハ第一號書式ニ倣ヒ郡役所ヲ經由シテ試驗願ハツヘシ但試驗ノ課程ハ其都度告示ス

第二條 試驗ニ及第セシモノハ第二號書式ニ倣ヒ免狀下付願ニ通テ差出スヘシ
第三條 地勢ノ不便ニ據リ地區ノ交換又ハ合併ヲ需ムルトキハ其擔當蹄鉄工運署を以テ願出ツヘシ
第一號書式 蹄鉄工假開業試驗願

郡町大字番戶族籍

何ノ誰
何年何ヶ月

私儀蹄鉄工假開業免許相受度候間御試驗被成下度履歷書相添此段奉願候也
右

年 號 月 日

右 町長

何ノ誰
何ノ誰
何ノ誰

第二號書式 知事氏名宛
蹄鉄工假開業免狀下付願

郡町大字番戶族籍

何ノ誰

私儀何那(町村)ニ於テ蹄鉄工開業仕度候間假開業免狀御下付被成下度此段奉願候也
右

年 號 月 日

右 町 長

何 ノ 誰 印

何 ノ 誰 印

農商務大臣宛

訓令第十六號(二十七年六月十九日)

農商務統計規程ノ通定

農商務統計規程

第一條 郡長ハ毎年左ノ定期報告ヲナスヘシ

一本縣報告例中農工商ニ關スル諸表 每表規定ノ報告期

一米作開花ノ景況

一同成熟景況

一麥作成熟ノ景況

一蠶兒掃立ヨリ三齡迄ノ景況 毎年五月二十日限

一茶葉ノ景況 毎年六月十日限

一糖業ノ景況 毎翌年一月十五日限

一葉煙草ノ景況 毎年八月十五日限(夏煙草)

一麻ノ景況 全十一月十五日限(秋煙草)

一雜草ノ景況 毎年九月十五日限

第二條 町村長ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ臨時報告ヲナスヘシ但諸災害ノ報告ニハ被害ノ月日所在地

其ノ面積數量被害見積價格及其原因等取調フヘシ

一病蟲害

一風雨水旱霜雹ノ害

一森林ノ火災

一漁業者ノ遭難

一其他各種ノ災害及産業上著シキ影響ヲ生スヘキ事件ノ發生シタル場合

第三條 各郡ニ統計調査委員ヲ設ケ郡役所及町村役場統計事務ノ補助ヲナサシム

第四條 農商務統計調査委員ノ事務左ノ如シ

一統計材料蒐集ヲ補助スル事

一蒐集調査セシ統計ノ適宜ナルヤ否ノ協議ニ參與スル事

一統計調査ニ關シ意見アル時ハ知事又ハ農商務省統計主任ヘ之ヲ開申スル事

告示第三百三十五號(廿八年十二月十日)

宮崎縣勸業物品陳列場規則左ノ通改ム

宮崎縣勸業物品陳列場規則

總 則

第一條 本場ハ勸業上模範又ハ參考トナルヘキ品種ヲ蒐集陳列シ旁ヲ圖書雜誌類ヲ備ヘ衆庶ノ縦覽を

許ス

第二條 本場ニ看護人二名ヲ置キ晝夜看護ノ任ニ當ラシム

第三條 出品物ヲ本場出品ト委託出品トノ二種ニ區別ス

第四條 本場ノ開閉時間左ノ如シ
每日午前五月一日ヨリ九月三十日迄ハ八時之ヲ開キ午後五月一日ヨリ九月三十日迄ハ五時
閉シ但月曜日ハ休場
十月一日ヨリ四月三十日迄ハ九時
十月一日ヨリ四月三十日迄ハ四時

第五條 陳列品ヲ左ノ部類ニ分ツ

第一部 農産

第二部 工業

第三部 山林

第四部 水産

第五部 礦業及冶金術

第六部 機械

第六條 陳列品ニハ總テ其品名産地代價耕作者若クハ製作者及出品人ノ住所氏名ヲ記シタル標札ヲ貼付ス

出品人心得

第七條 耕作若クハ製造上參考トナルヘキ有益ノ物品ト認メタルモノハ何地ノ製産タルヲ問ハズ委託

出品ヲ許ス

第八條 前條ニヨリ出品セントスル者ハ其品名産地代價農作者又ハ製造者及自己ノ住所氏名ヲ詳記シ

内務部ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條 前條ノ出品物ニシテ陳列上特別ノ保護又ハ費用ヲ要スルモノハ出品人ノ自辨タルヘシ

第十條 前條出品物ハ本場ニ於テ相當保護ヲナスト雖盜火風震等ノ如キ止テ得サル場合ニ生スル處ノ

損害ハ本場ニ責ニ任セス

第十一條 委託出品物ニシテ變質或ハ破損シタル時ハ日時ヲ定メ請取方ヲ出品人ニ通知スヘシ其期限
内ニ請取方ヲ申出サルモノハ之ヲ棄却スヘシ

參觀人心得

第十二條 參觀人ハ都テ看護人ノ指揮ニフヘシ

第十三條 參觀人ハ安リニ陳列品ニ手ヲ觸ルコトヲ許サス

第十四條 陳列品ニ就キ親ク接手セントスルモノハ看護人ノ承諾ヲ受クヘシ但一見ノ後ハ直ニ之ヲ返

附スヘシ

第十五條 圖書ノ閲覧ヲ望ム者ハ備置ノ帳簿ニ就キ看護人ニ請求スヘシ

第十六條 陳列品及圖書等場外ヘ携出スルヲ許サス

第十七條 陳列家内ニ於テハ喫烟ヲ禁ス

第十八條 參觀人ハ木履草履等ノ穢入場スルモ妨ケナシ

第十九條 瘋癩又ハ醉客ト見認ムルトキハ入場ヲ許サス

國庫會計

甲第百二十號(十七年八月十九日)
他ノ戸長擔當内ニ土地ヲ所有シ其擔當内及接近ノ町村ニ居住セサルモノハ豫テ其戸長擔當町村内又ハ接近ノ町村内ニ代理人ヲ定メ其土地所在ノ戸長役場へ届出置納租方等渾テ差支ナキ様致スヘシ此旨布達候事但土地所在ノ戸長擔當内及接近ノ町村ニ居住ノモノト雖モ旅行不在等ノ節納租方等ニ差支ニルモノハ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

戸長 役場

乙第百四拾一號(十七年八月廿一日)
納租等代理人定方之儀今般甲第百二十號布達候ニ付テハ管外ニ居住ノモノハ其役場ヨリ通達速ニ代理人ヲ定メサセ川申且ツ戸長擔當外接近ノ町村ヲ除ク外ト雖モ納租等ニ便利ノ町村ハ代理人ヲ定メ置カルモ妨ケ無之候條納租ニ差支サル様注意可致此旨相達候事

郡役所 戸長役場

乙第百九號(十八年一月卅一日)
地租ニ關スル帳簿様式別冊ノ通被相定候條郡役所ニ關ル分ハ本年十二月戸長役場ニ係スル分ハ來ル十九年三月マテノ内ニ調成シ整頓ノ上ハ其旨可届出此旨相達候事

宮崎縣令第百四十號(二十九年六月二十三日)
土地ニ關スル願届手續別冊ノ通定メ本年七月一日ヨリ施行ス但シ本令ニ抵觸スル從前ノ命令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
(別冊) 土地ニ關スル願届手續

第一條 地目ヲ變換シタルトキハ第一號式ニ據リ其時々之ヲ届出併セテ地價ノ修正ヲ願出ヘシ
第二條 地類ヲ變換シタルトキハ第二號式ニ據リ其時々之ヲ届出ヘシ
前項ノ變換地ハ其届出ノ年ヨリ六年目ニ至リタルトキハ其年一月三十一日以内ニ第三號式ニ據リ地價ノ修正ヲ願出ヘシ
第三條 開墾ヲ爲サントスルトキハ第四號式又ハ第五號式ニ據リ其時々之ヲ届出ヘシ其孕在地開墾ニシテ素地々價ナキモノハ併セテ地價ノ設定ヲ願出ヘシ
第四條 十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ第六號式ニ據リ其時々歛下年期ノ付與ヲ願出ヘシ
第五條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸シタルトキハ其土地引渡ノ達ヲ受領シタル日ヨリ十五日以内ニ第七號式又ハ第八號式ニ據リ素地地價ノ設定及歛下年期ノ付與又ハ新開墾租年期ノ付與ヲ願出ヘシ
第六條 耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ第九號式又ハ第十號式ニ據リ其時々地價ノ据置年期ヲ願出ルコトヲ得
第七條 第四條第五條ノ土地ニシテ其事業成功ニ至ラサルモノハ年期限滿限ノ翌年一月三十一日以内ニ第十一號乃至第十三號式ニ據リ繼年期ノ付與ヲ願出ヘシ
第八條 第三條ノ土地ニシテ其届出ノ年ヨリ十年目ニ至リタルトキハ其ノ年一月三十一日以内ニ第十四條乃至第七條ノ土地ニシテ其事業成功シタルトキハ年期限滿限ノ翌年一月三十一日以内ニ第十四號乃至第二十號式ニ據リ地價ノ設定又ハ修正ヲ願出ヘシ
第九條 第三條ノ据置年期又ハ第四條ノ歛下年期中若クハ年期限滿ニ至リ開墾ヲ廢止シタルトキハ其時々又ハ年期限滿限ノ翌年一月三十一日以内ニ第二十一號式ニ據リ届出ツヘシ

第十條 荒地成ハ第二十二號式ニ據リ其時々免租年期ノ付與ヲ願出ヘシ
前項ノ荒地ニシテ免租年期限ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ年期限滿限ノ翌年一月三十一日以内ニ第二十三號式ニ據リ繼年期ノ付與ヲ願出スヘシ
第十一條 荒地免租年期中再ヒ天災ニ罹リタルトキハ第二十四號式ニ據リ再荒免租年期ノ付與ヲ願出スルコトヲ得
第十二條 荒地免租年期限ニ至リ其ノ地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ第二十五號式ニ據リ年期限滿限ノ翌年一月三十一日以内低價年期ノ付與ヲ願出ヘシ
第十三條 荒地免租年期限又ハ繼年期限若クハ低價年期限ニ至リ其地ノ實況原形ニ復シタルトキハ年期限滿限ノ翌年一月三十一日以内ニ第二十六號乃至第二十八號式ニ據リ地價ノ復舊又ハ地價ノ設定ヲ願出ツヘシ
第十四條 荒地免租年期限又ハ繼年期限ニ至リ其地ノ實況原形ニ復セス他ノ地目ニ變シタルトキハ第二十九號式ニ據リ地價ノ設定ヲ願出ヘシ其願出期限ハ前條ニ全シ
第十五條 低價年期限ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キトキハ第三十號式ニ據リ地價ノ更定ヲ願出ヘシ其願出期限ハ第十三條ニ全シ
第十六條 荒地免租繼年期限ニ至リ川海湖ニ歸シタルトキハ第三十一號式ニ據リ之ヲ届出ヘシ其届出期限ハ第十三條ニ全シ
第十七條 拂下地及ハ下渡地ハ其許可ノ指令又ハ達ヲ受領シタル日ヨリ十五日以内免租地ヲ有租地ト爲セシモノハ其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十五日以内ニ第三十二號式又ハ第三十三號式ニ據リ地價ノ設定ヲ願出ヘシ
第十八條 畦畔ヲ廢除シ又ハ設置シタルトキハ第三十四號式又ハ第三十五號式ニ據リ其時々地價ノ更定

第一條 地圖ハ字限圖ヲ訂正ス

第二條 地圖ノ訂正ハ土地ニ關スル願届書添付ノ圖面ニヨリ之ヲ爲スヘシ

第三條 地圖ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ訂正ス

一 分裂合併地ハ届出ノ時々

一 地目變換地類變換ハ實地檢査ヲ了シタル年

一 開墾地ハ地價修正ノ年

一 拂下地 開拓地共ニハ地價設定ノ年及開拓明地價修正ノ年

一 新開地ハ免租年期許可ノ年及年期明地價設定ノ年

一 据置地ハ年期明地價修正ノ年

一 荒地ハ免租年期付與ノ年

一 低價地ハ低價年期付與ノ年

一 有租地成ハ地價設定ノ年

一 免租地成官有地成ハ免租租處分ノ年

第四條 地圖訂正ノ方法左ノ如シ

一 分裂地ハ元地番等級地目ニ紙片ヲ貼シ境界線ヲ相當ノ位置ニ畫シ更ニ新設地ニ各地番等級地目ヲ記載スヘシ

一 併合地ハ其ノ合併地ノ境界線及元地番等級地目ニ紙片ヲ貼シ更ニ合併地相當ノ位置ニ地番等級地目ヲ記載スヘシ

一 地目變換地地類變換地開墾地ハ元等級地目ニ紙片ヲ貼シ更ニ等級地目ヲ記載スヘシ但部分開墾ハ第一項ノ例ニヨル

一 拂下地ハ元地目ニ紙片ヲ貼シ更ニ等級地目ヲ記載スヘシ其ノ開拓ニ係ルモノ年期明ノトキ訂正方

ハ第三項ノ例ニ部分開拓ニ係ルモノハ第一項ノ例ニヨル

一 新開地ハ圖面上相當ノ位置ニ新タニ區畫ヲ設ケ之レニ地番ヲ付記シ且新開地ト記載スヘシ

其ノ年期明ニ係ルトキハ第三項ノ例ニヨル

一 据置地中區畫變更ハ第二項ノ例ニ依ル

一 全上形状變更ハ元等級ニ紙片ヲ貼シ更ニ等級ヲ記載スヘシ

一 全上地目變換ハ第三項ノ例ニヨル

一 荒地ハ相當ノ位置ニ付箋ヲ爲シ之レニ荒地ト記載ス部分荒地成ノトキハ内荒地ト記載ス但地價復舊ノトキ付箋ハ之レヲ剝除スヘシ

一 低價地ハ荒地ノ付箋ヲ剝除シ更ニ付箋ヲナシ之レニ低價地ト記載スヘシ

一 有租地成ハ第四項ノ例ニヨル

一 免租地成官有地ハ元等級地目ニ紙片ヲ貼シ更ニ免租地及官有地ノ地目ヲ記載スヘシ

第五條 地圖ノ誤線ハ紙片ヲ貼シ之レヲ訂正シ脱落線ハ相當ノ位置ニ之レヲ畫スヘシ

第六條 地面ノ一部又ハ全部ニ涉ルノ誤謬アリテ地主若クハ町村ヨリ其ノ更正ヲ請求スルトキハ實地檢査ノ結果ニヨリ訂正又ハ修補スヘシ

訓令第六十五號(二十九年六月十日)

土地臺帳整理手續左記ノ通定

土地臺帳整理手續

第一條 土地臺帳ノ整理ハ土地ニ關スル願届書ニヨリ整理スルモノトス

收 稅 署

第二條 分裂地々番ノ付記方ハ元地々番ニ「第一」ノ二字ヲ追記シ次葉掲記ノ分ニ對シテハ其ノ地相當ノ地番ヲ記載スヘシ

第三條 合併ハ其ノ初番ヲ帶ル土地ニ合併シ其ノ地番ニ合併セラレタル土地ノ地番ヲ並記シ其ノ下ニ「合併」ノ二字ヲ記載スヘシ

合併地等級ヲ異ニスルトキハ其ノ等級記載方ハ前項地番記載ノ例ニ同シ

第四條 小地目ハ本地目左脇ノ上部ニ記載スヘシ

第五條 地目變換地地類變換地ハ其ノ變換地目ヲ元地目ノ左脇ニ朱記スヘシ

第六條 異動地ノ登記ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

一 地目變換地ハ地價據置年滿限ノ翌年一月中

一 左ニ掲クルモノハ地價ノ修正ヲ許可シタルトキ

地類變換地 開墾地年期明事業成功 開拓地年期明事業成功 耕地區畫變更年期明事業成功 耕地形狀變更(地目變換)年期明事業成功

一 左ニ掲クルモノハ地價ノ設定ヲ許可シタルトキ

素地々價ナキ孕在地開墾 新開地年期明事業成功 改租以前ノ荒地起返 荒地他ノ地目ニ起返

柳下地(開拓地トモ)下渡地 有租地成

一 左ニ掲クルモノハ地價ノ復舊ヲ許可シタルトキ

荒地起返 低價年期明

一 左ニ掲クルモノハ其ノ年期ヲ許可シタルトキ

開墾地歛下年期ノ付與 新開地免租年期ノ付與 耕地區畫變更地價據置年期ノ付與 耕地形狀變

更(地目變換)地價據置年期ノ付與 開拓地歛下繼年期ノ付與 荒地免租年期ノ付與 低價年期ノ付與

一 左ニ掲クルモノハ屆書ノ處分ヲ了シタルトキ

開墾 開墾廢止 土地分裂 土地合併 荒地川海湖成

一 免租地成ハ地價據置ノ處ハ了シタルトキ

一 反別ノ増減ハ其ノ増減ヲ許可シタルトキ但哇啤廢止ハ廢止ノ翌年一月中

第七條 總テ沿革ハ其ノ異動ヲ生シタル元地ノ下ノ沿革欄ニ之ヲ記載シ其ノ次葉若クハ次葉ニ異動ニ係ル反別地價地租等ヲ掲記スルモノトス

第八條 開墾地部分成功ニシテ其ノ殘地ヲ次欄ニ掲記スルトキ其ノ殘地繼年期ニ係ルトキハ同時ニ其ノ事項ヲモ沿革欄ニ掲記スヘシ

第九條 一 地中幾回モ部分荒地トナリタルモノハ其ノ荒地トナリタル毎ニ本地目ノ反別ヨリ荒地成反別ヲ扣除シ其ノ生地ヲ次欄ニ掲記スヘシ但本條ノ場合ニ於テハ前欄記載ノ沿革ニシテ未ダ除却スヘカヲサルモノハ更ニ之ヲ本地沿革欄内ニ移記スヘシ

第十條 沿革記載方ハ左ノ例式ニ據ルヘシ但本條規定ノ外異例ニ涉ルモノハ此例式ヲ準用記載スヘシ

地目變換	何年地目變換 何モヨリ修正額徵租ニ付次欄ニ掲記ス
地類變換	何年地類變換 年月日許可地價修正ニ付次欄ニ掲記ス
全部ノ例	何年開墾目録田 年月日許可地價修正ニ付次欄ニ掲記ス
	何年反別若干開墾目録田 年月日許可地價修正ニ付本番ニ第二ヲ付シ次葉ニ掲記ス
閉部分ノ例	年月日許可地價修正ニ付本番ニ第二ヲ付シ次葉ニ掲記ス

年 月 日
知事宛

何那町(村)大字
地主 何 某 印

宮崎縣令第三十四號
地租條例第三條ノ有租地(雜種地)ヲ民有ノ火葬場又ハ駱牛馬捨場ト爲スノ許可ヲ得タルトキハ地目變換又ハ地類變換ノ手續ヲ爲スヘシ但明治二十四年(十月)縣令第六十四號ハ廢止ス

訓令第十九號(二十五年一月廿九日)
直稅分署 收入官吏
納稅代人ヲ置キタル土地所有者ニ對シ國稅滯納處分ヲナストキハ其納稅代人ハ督促令狀ヲ發シ若シ定期ノ日限内ニ完納サヤ、ルモノハ直チニ納稅本人ニ就キ財產差押ノ處分ヲナスヘシ

訓令第六十號(二十六年十二月四日)
收 稅 署
民有地中反別地價地租及年期其他名面書換誤謬訂正等ニ關スル諸願屆ニシテ左ニ掲クルモノ、外ハ自今收稅署限リ取扱フヘシ

一開墾十五年以上ノ缺下年期ヲ要スルモノ及繼年期但官有地拂下ニ係ル繼年期モ亦全シ
一官有ノ水面ヲ埋立民有ヘ歸セシモノ、免租年期ヲ要スルモノ及繼年期
一耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ地價据置年期
一潮水浸入ノ免租年期

訓令第四號(二十七年一月五日)
收 稅 署
民有地地種變換ニ關スル事務ハ其收稅署限取扱フヘシ

訓令第九十七號(二十七年五月廿二日)
町 村 役 場
民有地中貳人以上共同持ハ各自ノ歩合左ノ様式ニ據リ共有地歩合屆ヲ發シ來ル七月十五日限爾後異動ニ係ルモノハ其時々所轄收稅署ヘ差出スヘシ
共有地歩合屆 (用紙半紙)

何那町村大字
字番
一 地目段別
 內 內書地 地目段別
 外 外書地 地目段別
 內
 權利歩合何程(何分ノ一)
 全 何程(全上) 全上 何 某 分
 全 何程(全上) 全上 何 某 分
 全 何程(全上) 全上 何 某 分
右之通及御届候也
年 月 日 何 某 印

知事宛

又ハ地主惣代

何 某 印

訓令第六十號(二十八年六月廿九日)

收 税 署

本年大藏省訓令第二三號ヲ以テ地目誤謬訂正ノ際租額ニ増減ヲ生スルモノ追徴還付ノ取扱方更正セラレ候ニ付テハ右ニ關スル彙帳及ヒ現計書ノ整理方ハ左ノ通取扱フヘシ

一 地租改正若クハ地押調査其他賦租セシモノニシテ地目誤謬アルコトヲ發見シ之カ訂正處分ヲ了シタルトキハ其時々新舊地目限リ誤謬訂正調理簿ヘ記入シ之ヲ年計シテ土地彙帳集計簿ヘ移記スヘシ

一 既往ニ屬スル地租ハ元租額ニ對スル訂正差額ヲ既往地租調理簿ヘ記入シ摘要欄内ヘ其事由ヲ掲載スヘシ

一 地租第一期若クハ第三期調定後地目更正セシトキハ地租調定元簿摘要欄内ヘ(科目訂正)ト記入シ調定額欄内ヘ増ハ墨書減ハ朱書シ其事各地内ヘ何々(地目)ヨリ組替増若クハ何々(組替減)ト記入スヘシ

但科目ノ訂正ニ係ルモノハ之ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

一 誤謬租額ニ對スル訂正差額ニシテ收入科目ハ同一ナルモ甲者ハ増乙者ハ減トナル場合ハ増ト減トノ差引ヲ爲サズ増ノ一方ニ依リ調定スヘシ尤壹人ニシテ増ト減トアルトキハ其差額ヲ調定シ該仕譯書ヲ徵稅令書ヲ添付スヘシ

一 賦課現計書ハ既往ニ關セス發見年度ニ於テ誤謬訂正ノ項ヘ編入整理シ該備欄者内ヘ誤謬租額ニ對スル訂正差額ヲ記載シ既往ヘ溯リ賦課若クハ超過額現計書ト對照ヲ便ナラシムヘシ

宮崎縣令第三十七號(二十九年六月四日)

公立學校及鄉村社ノ移轉ニヨリ其ノ用地ノ使用ヲ廢止シタルトキ又ハ墳墓地用懸水路溜池堤塘井溝鐵道用地禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ノ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ廢止ノ日ヨリ十日以内ニ左記様式ニ依リ地租組替願書ヲ調製シ所轄收稅署ニ差出スヘシ

免租地使用廢止地租組替願

郡	町(村)	大字	字	地番	地目	反別	使用年月日	廢止年月日	事	故

右免租地使用廢止候ニ付民有第一種地ニ組替相願候也

年 月 日

地主 何 某 印

備 考

事故欄内記載方ハ例ヘ「學校地ナルトキハ年月日新校位置指定又ハ許可ニ付廢止ニ屬ス」「禁伐林ナルトキハ年月日解除許可ニ付廢止ニ屬ス」「用懸水路ナルトキハ年月日水路設定替ニ付廢止ニ屬ス」ノ類ノ如シ

地主他町村ナルトキハ地主何某ノ右肩ニ其ノ郡町村大字ヲ記載シ地元町村役場ヲ經テ差出スモノトス

訓令第六十號(二十九年六月四日)

公立學校地賦除租ニ關スル報告又ハ通知方ノ件左ノ通定ム

郡役所 收稅署 町村役場

第一條 町村若クハ町村學校組合ニ於テ尋常小學校位置ノ指定ハ其ノ他ノ公立學校設置ノ許可ヲ受ケタル校地(借地ニ係ル)ニシテ校地ノ使用ヲ始メタル場合ハ町村長ハ直ニ之ヲ所轄收稅署ニ報告スヘシ

第二條 郡長ニ於テ尋常小學校ノ位置ヲ指定シ校地ニ異動ヲ生スル場合ハ直ニ其ノ地收稅署ニ通知スヘシ

其ノ他ノ公立學校設置ノ置廢止等ニ依リ校地ニ異動ヲ生スルモノニシテ書類ノ郡役所ヲ經由スルモノニ就キテモ亦全シ

第三條 第一條第二條ニ依リ報告又ハ通知スルトキハ其ノ大字字名地番地目反別工事着手月日又ハ使用廢止月日等ヲ記載スヘシ

宮崎縣令第三十九號(二十九年六月二十日)
 拂下地又ハ拂下渡ヲ直チニ地租條例第四條ノ免租地ニ使用スルモノハ其ノ拂下又ハ下渡許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十五日以内ニ左記様式ニ據リ届書ヲ製シ相當印紙貼用ノ上所轄收稅署ニ差出スヘシ
 (本屆書用紙ハ美濃紙トス) △印ハ朱

拂下地(下渡地)免租地ニ使用届											
郡町(村)大字											
庚	字	地番	△元地目	地目	反別	△仮地價	△比準地	許可年月日	年	月	日
一	△原野	墳墓地			1,000	3,000	△庚	△	200	△	3,000

右拂下地(下渡地)直チニ免租地ニ使用候ニ付仮地價取調左ニ見取圖掲記及御届候也
 年 月 日 知事宛 右地主 何 某 印

印紙貼付ノ區	見取圖掲記ノ區
--------	---------

宮崎縣令第三十五號(二十九年五月二十三日)
 土地所有又ハ質取主ニシテ其住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ自今左ノ様式ニ依リ届書ヲ製シ所轄收稅署ニ差出スヘシ但一町村内ノ轉居ハ此ノ限ニアラス
 轄居(改名)(改名)(氏)名「訂正」届

國	郡	町(村)	大字	字	地番	地目	段別
---	---	------	----	---	----	----	----

(数字ナルトキハ連載スヘシ)
 右(何郡何町)ニ住居ノ處何郡何村ニ轉居(何氏)名「何々ト改メ」(何氏)名「何々ト訂正」候ニ付及御届候也
 右地主(質取主)

年 月 日
知事宛

何 某 印

訓令第九十號(二十八年十月三十日)
本年十月諭告第三號ニ依リ登記請求書ト町村役場ノ臺帳ト照合テ請フモノアルトキハ之ニ應シ正確ナ期セシムヘシ

收稅署 町村役場

訓令第五十二號(二十九年五月二十六日)
未登記ノ地所ニシテ土地臺帳記載ノ主所氏名等ニ誤記アルヲ發見シ其ノ訂正ヲ届出ツルトキハ町村長ハ之ヲ調査シ其ノ訂正事項ノ相違ナキヲ認メ普通式ニ從ヒ認印ノ上所轄收稅署ニ差出サシムヘシ

收稅署 町村役場

訓令第七十三號(二十九年六月二十三日)
收稅署ニ於テ區裁判所又ハ區裁判所出張所ヨリ土地ノ登記通知ヲ受ケタルトキ其ノ登記事項ニシテ土地臺帳ト符合セサルモノアルトキハ其廉ニ不符合ノ理由ヲ付箋シ之ヲ町村役場ニ送付スヘシ
町村役場ニ於テ前項ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ當事者ニ通知シ登記變更ノ手續ヲ爲サシムヘシ

收稅署 町村役場

訓令第五十號(二十九年五月二十一日)
土地及戶籍ニ關スル登録稅取扱手續左ノ通定ム
第一條 印紙ヲ貼用セル願届書ハ其印紙ノ額面金額ヲ調査シ相違ナキヲ認メ之ヲ受理スヘシ

第二條 稅法第十九條ニ依リ登録稅ヲ免除スヘキモノ、書類ヲ受理シタルトキハ其ノ第一項後段ニ該當スルモノハ之ヲ救助人名簿等ニ對照シ其相違ナキヲ認メ前段ニ該當スルモノハ其ノ實際ヲ精査シ付記ノ事項相違ナキモノヲ認メ受理スヘシ

第三條 貼用印紙ノ額面金額其ノ他種類件數ヲ計上スル爲第一號乃至第三號樣式ニ依リ集計簿ヲ調製シ之ヲ記載スヘシ

第四條 收稅署ニ於テハ第一號集計簿ノ結果ニ依リ第四號樣式ニ依リ登録稅額集計報告表ヲ調製シ之ヲ報告スヘシ

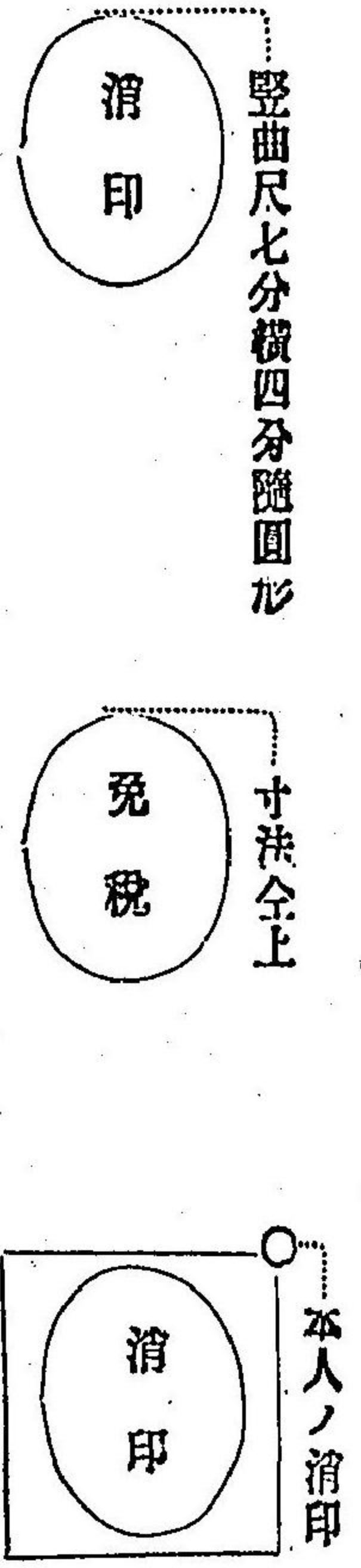
第五條 町村役場ニ於テハ第二號第三號集計簿ノ結果ニ依リ第五號及第六號樣式ニ依リ登録稅額集計報告表及登録稅免除事項集計報告表ヲ調製シ之ヲ所轄收稅署ニ差出スヘシ

第六條 第四條第五條ノ報告期限ハ左ノ如シ

區 別	月 分	
	四月ヨリ七月マテ ノ分	八月ヨリ十一月マ テノ分
收 稅 署	八月二十日以内	十二月二十日以内
町 村 役 場	八月十日以内	十二月十日以内
		翌年四月十七日以内
		翌年四月七日以内

第七條 貼用印紙ニハ黒肉ヲ以テ消印シ免稅ニ屬スル書類ニハ朱肉ヲ以テ書面表題ノ上部ニ免稅印ヲ押捺スヘシ

第八條 消印及免稅印ノ形狀及印紙消印方ハ左ノ樣式ニ依ルヘシ



訓令第六十七號

土地ニ關スル登録稅徵收方左ノ通り心得ヘシ
 第一條 開墾及分裂合併ハ其ノ届出ノ際該届書ニ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ
 第二條 新規登録、地價ノ設定トモ復舊地價ノ正修、繳下年期ノ付與、地價据置年期ノ付與、繳下年期ノ
 繼年期付與、新開免租年期ノ繼年期付與、低價年期ノ付與及反別ノ増減ハ實地調査後指令交付前其
 ノ願書ニ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ收稅署ハ印紙貼用ノ時期ヲ町村役場ニ通知シ町村役場ハ之ヲ納稅者ニ告知スヘシ

收稅署 町村役場

訓令第七十號(二十九年六月十九日)

從來届出ノ地目變換地價檢査済ニシテ未タ地ニ對シ收稅署ヨリ登録稅徵收ノ通知ヲ受ケタルトキハ
 町村役場ハ之ヲ納稅者ニ告知シ左記様式ノ納付書ニ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ收稅署ニ送付スヘシ

收稅署 町村役場

登録稅納付書

印紙貼付ノ區	郡名	町(村)名	大字名	地名
	番	目	別	字
				價
右何年地目變換届出之分登録稅納付候也	右地主	何	某	印

備考

様式中地目反別地價ハ修正ノ分ヲ掲クルモノトス
 本書ハ一人別限リ數筆連載スルコトヲ得
 本書用紙ハ半紙トス
 地主他町村ナルトキハ氏名ノ右傍ニ其ノ町村大字各ヲ肩書スヘシ

訓令第七十四號(二十九年六月廿四日)

從來届出ノ地目變換地ニ對スル登録稅徵收於ノ件本年(六月)訓令第七十號ヲ以テ及訓令置タル處將來
 届出ノ分ニ對シテモ全樣取扱フヘキ義ト心得ヘシ

收稅署 町村役場

宮崎縣令第四十二號(二十年六月十七日)

所得稅調査委員撰學及調査委員會細則左ノ通之ヲ定ム
 所得稅調査委員撰學及委員會細則

第一章 撰學

第一條 調査委員及其補欠員ノ員數ヲ定ムル左ノ如シ

宮崎	調査員	五人	補欠員	三人
北那珂郡	全	五人	全	三人
南那珂郡	全	五人	全	三人
北諸縣郡	全	五人	全	三人
西諸縣郡	全	三人	全	二人
東諸縣郡	全	三人	全	二人
兒湯郡	全	五人	全	三人
東臼杵郡	全	五人	全	三人
西臼杵郡	全	三人	全	二人

第二條 撰擧ヲ分テ町村撰擧人撰擧調査員及補欠員撰擧ノ二トス

第三條 町村撰擧人ハ其年五月二十日以内ニ調査委員及補欠員ハ五月三十一日以内ニ之ヲ撰擧ス可シ但臨時撰擧ハ此限ニアラス

第四條 町村撰擧人ノ撰擧ハ郡長ニ於テ投票期日ヲ定メ町村撰擧ノ區域町村撰擧人ノ員數及其資格ヲ有スル者ノ住所姓名ヲ取調投票期日ト共ニ週クモ五日前ニ之ヲ管内ニ公告シ同時第一號書式ニ倣ヒ投票用紙ヲ製シ撰擧人ニ付

第五條 撰擧人ハ前條郡長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及其被撰擧人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日正午迄ニ郡長ニ出ス可シ

第六條 各撰擧ノ投票ハ豫定ノ日郡役所ニ於テ投票者二名以上ノ立會ヲ要シ郡長之ヲ披キ其投票多數與ス可シ

ヲ得タル者ヲ當撰人トシ同數ナレハ所得額ノ多キ者ヲ採リ所得モ亦同額ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但調査委員及補欠員ハ先ツ調査員ヲ定メ次ニ補欠員ニ及フ可シ

第七條 當撰人ノ當否ヲ査定シタル後郡長ハ其當撰人ニ當撰狀ヲ附與シ當撰人ハ第三號書式ニ倣ヒ請書ヲ出スヘシ但當撰人正當ノ事由アリテ其撰ヲ辭シタルトキハ投票ノ多數ヲ得タル者ヨリ之ニ充テ同數ナレハ前條ノ順序ニ依ル

第八條 調査委員欠員ヲ生シ補欠員ヲ以テ之ニ充ツルトキハ前項ニ同シ

第九條 當撰人各請書ヲ出シタル後郡長ハ其住所姓名ヲ管内ニ公告同時ニ縣廳ニ報告スヘシ

補欠員ヲ以テ調査委員ノ欠員ニ充テタルトキモ前項ニ同シ

第二章 委員會

第十條 調査委員會ハ毎年七月之ヲ開キ會期ハ十五日以内トス

第十一條 調査委員會ノ開會期日ハ郡長之ヲ命シ開會ノ期日ハ五日以前開會シタルトキハ其翌日縣廳ニ報告ス可シ

第十二條 開會中ノ集散時限ハ郡長之ヲ定ム可シ

第十三條 調査委員會會議ハ郡役所内ニ於テ之ヲ設ク可シ

第十四條 開會中ハ所得稅調査ニ關スル者ノ外入場スルヲ得ス

第十五條 會長ニ於テ委員ノ言論若シ所得稅調査上ニ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第十六條 所得高ノ當否ハ納稅者一人毎ニ議決シ調査委員會議定ノ印章ヲ捺捺ス可シ但會長ノ意見ヲ以テ數人ヲ併セ議決スルモ妨ケナシ

第十七條 前條議定ノ書類ハ第四號書式ニ倣ヒ調査委員會ノ決議書ヲ添ヘ便宜之ヲ繼續ス可シ

第十八條 調査委員會ニ於テ調査上納稅者ノ所在ニ就キ尋問ヲ要スルトキハ會長ニ於テ出張ノ委員ヲ指名スルコトヲ得

第十九條 調査委員會ノ書記ハ郡吏ヲ以テ之ニ充ツ書記ハ會長ノ命ニ從ヒ委員會ノ庶務ヲ掌ル

第二十條 調査委員疾病其他ノ事故ニ依リ欠席スルトキハ郡長ニ届出ツ可シ
附則
本年ニ限リ第三條町村撰舉人ハ九月二十日以内ニ調査委員及補欠員ハ十一月十日以内ニ撰舉シ第十條調査委員會ハ十二月ニ於テ之ヲ開ク

郡役所 戸長役場

訓令第百八號(二十年六月十七日)
所得稅調査委員撰舉取扱手續ニ定ム

所得稅調査委員撰舉取扱手續

一 町村撰舉人撰舉並調査委員及補缺員撰舉投票用紙ハ撰舉人ノ員數ニ應シ之ニ封筒ヲ添ヘ郡長ヨリ各戸長ヘ下付シ戸長ハ配付帳ヲ以テ撰舉人ニ付與シ受領ノ証印ヲ徹スヘシ
一 當撰狀ハ別紙書式ニ準據シ郡役所ニ於テ調製スヘシ
(別紙)用紙奉書四ツ切

何那何(町)何番戸族籍 姓 名

何那所得稅調査委員第何部

町村撰舉人ニ當撰

(何那所得稅調査委員ニ當撰)

(何那所得稅調査委員補缺員ニ當撰)

宮崎縣何郡長 姓 名

明治 年 月 日

郡役所印

郡 役 所

訓令第百四十四號(二十年八月十八日)

所得稅調査委員手續並旅費支給規則左ノ通ニテ定

第一條 調査委員手當ハ一日金壹圓トシ開會ノ日ヨリ閉會ノ日迄日數ニ應シ之ヲ支給ス

第二條 調査委員手當ハ病氣等ニテ會場へ出席セサルモ該地ニ滞在スルトキハ之ヲ支給ス

第三條 調査委員ノ開會地へ往復旅費ハ其路程及日數ニ應シ日當金五拾錢車馬賃壹里金六錢ヲ支給ス

但車馬路程壹里未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第四條 前條ノ日當ハ片道三里未滿ノモノハ之ヲ支給セス

第五條 開會中所得稅法第二十一條ニ據リ納稅者ノ所在ニ就キ取調ヲ要スルトキハ第三條第四條ニ準

シ日當及車馬賃ヲ支給ス但路程片道三里未滿ト雖モ宿泊ヲ要スルトキハ其數ニ應シ日當ヲ支給スヘ

第六條 調査委員開會中ニ要スル文具ハ現品ヲ給セス明治二十二年(二月)閣令第四號ニ準據シ一回金

拾錢ヲ支給スヘシ

宮崎縣令第七十七號(二十二年十一月廿八日)

所得稅納稅者ニシテ郡役所々轄内申村ヨリ乙利ニ轉居セントスルトキ及ヒ轉居シタルトキハ各其地ノ町村長ヲ經テ郡長ニ届出ヘシ

宮崎縣令第二十九號(二十五年四月七日)

所得稅法第一條ノ但書ニ依リ同居ノ家族ニ屬スル所得ヲ合算スル場合ニ於テハ明治二十年大藏省令第
八號所得金高届書式ニ進シ登人別限リ明記シ合算スヘシ

告示第五十一號(二十六年三月八日)

所得金高届書記載方之變ハ近來往々簡單ニ失スルノ傾向有之自今概テ左ノ例ニ準シ廉限リ精細ニ列記
スヘシ但切實稅法第二條第二項ノ諸費亦之ニ準シ詳細ニ記載スルヲ要ス

- 一 田自作ノ所得
- 一 田小作ノ所得
- 一 畑自作ノ所得
- 一 畑小作ノ所得
- 一 宅地貸地ノ所得
- 一 盤田ノ所得(鑛泉地、池沼、山林、牧場、原野、雜種地、皆之ニ倣フ)
- 一 營業ノ所得(一營業母ニ別項ニ記載スヘシ)
- 一 公債證書ノ利子(一種毎ニ別項ニ記載スヘシ)
- 一 地方債ノ利子(上全)

- 一 株式ノ利益(上全)
- 一 證券ノ利子(上全)
- 一 貸金ノ利子
- 一 預ケ金ノ利子
- 一 俸給(官科別項ニ記載スヘシ)
- 一 手當(上全)
- 一 恩給金
- 一 賞與金
- 一 割賦金
- 一 貸家ノ所得
- 一 診察料
- 一 藥價ノ所得
- 一 著譯ノ所得
- 一 其他之ニ準シ廉限記載スルモノトス

訓令第七號(二十六年六月廿九日)

所得稅法第十七條ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メタルトキハ直ニ左ノ壹號書式ニ倣ヒ報告表
ヲ編製シ直稅分署ニ送付スヘシ
直稅分署ニ於テハ日數三日以内ニ所得稅臺帳ニ記入シ該報告表ハ直稅署へ送付スヘシ
爾後増減アルトキハ左ノ貳號書式ニ倣ヒ前二項ノ手續ヲナスヘシ

郡役所 直稅分署

明治二十二年六月訓令第百七十六號ハ廢止ス

官制令第三十一號(二十七年三月卅一日)

所得金高届書へ添付スヘキ内詳明細書ハ左記様式ニ記載スヘシ

所得金高内詳明細書

一金何程

(本項ハ所得届書面ノ金額事
項ヲ移記スヘシ以下全シ)

内

金何程

金何程

(公債ノ種類及利子ノ相異ナ
ル毎ニ別項ニ掲記スヘシ)

一金何程

内

金何程

金何程

(貸付利子ノ相異ナル毎
ニ別項ニ掲記スヘシ)

一金何程

内

金何程

公債利子

何公債額面金何程

但何未ノ利子

何公債額面金何程

但何未ノ利子

貸付金利子

貸付元金何程

但年何割ノ利子

貸付元金何程

但年何割ノ利子

預ケ金ノ利子

預金何程
但年何割ノ利子

預金何程

但年何割ノ利子

家族某分

預金ノ利子

預金何程

但年何割ノ利子

預金何程

但年何割ノ利子

株式利益配當金

何々銀行株式額面若クハ拂込何程

但何割ノ利益

何々會社株式額面若クハ拂高何程

但何割ノ利益

「銀行又ハ會社ノ相異ナル毎、又全一銀行若クハ會社ニシテ利益與ルモノハ其異ナル毎ニ別項ニ掲記スヘシ」

何々々金

何々ヨリ受クル何々金

何々ヨリ受クル何々金

「官廳、市、町、村、學校、病院、社寺、銀行、會社、組合、商店、工場、其他各人ヨリ受ク

一金何程

ル俸給、給金、賃金、手當、豫定ノ規則又ハ約束ニ依テ受クル交際費、賞勳其他ノ年金各種
(税法第三條官私ヨリ受クル旅費、傷病、疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料ヲ除)ノ恩給金
・割賦金、賞與金、其他等ノモノト性質ヲ全フスル所得ハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ各其支給
スル所ノ相異ナル毎ニ種類名稱ヲ區別シ之レヲ別項ニ掲記スヘシ」
土地ニ係ル所得

内

何郡何村何大字田段別何程地價

金何程ニ係ル自作(小作)所得
米何程(前三年平均高以下全)

收穫麥何程

何々何程

米石代何程(前三年平均相場以下全)
但麥石代何程
何々石代何程

地 租

地方稅地租割

町村稅地租割

種子代

肥料代

何々代

(前三年平均額以下全)

外

金何程

金何程

金何程

金何程

小以金何程

金何程

金何程

外

金何程

金何程

金何程

金何程

金何程

小以金何程

金何程

外

何郡何村何大字畑段別何程地價
金何程ニ係ル自作(小作)所得

收穫粟何程

何何程

粟石代(前三年平均相場以下全)
但麥石代
何々石代

地 租

地方稅地租割

町村稅地租割

種子代

肥料代

何々代

何郡何村何大字何貸地(宅地)何程ニ
係ル所得但壹段歩ニ付收得金何程(

前三平均額)

米又ハ麥等ヲ以テ收得スルモノハ其

收得石數及前三年平均石代ヲ種類毎
ニ掲記スヘシ

業ニ係ル所得	清酒高何程前三年平均賣上	石價何程	但焼酎高何程全	何々高何程全	何々	何々	何々
小以金何程							
金何程							
外							
金何程							
内							
金何程							
外							
金何程							
金何程							
小以金何程							
<p>(醬油造、酢製造、營業其他石數ニ依リ算出スルヲ便利トスル營業所得ハ本項ニ準スヘシ)</p>							
業ニ係ル所得	何々營業所得	何那何村何大字何番地ニ於ケル賣上	金高何程ニ對スル所得	但賣上高百圓ニ付前三年平均收益金何程	何々營業稅	地方稅營業稅	町村稅營業稅
商	商品原價	何	何	何	何	何	何

製茶業所得	何那何村何大字何番地ニ於ケル製茶	何程ニ對スル所得	但製茶百斤ニ付前三年平均賣價何程	何々	何々	何々	何々
製糸業所得	何那何村何大字何番地ニ於ケル製糸	高何程ニ對スル所得	但一貫目ニ付前三年平均賣價何程	何	何	何	何
小以金何程							
金何程							
外							
金何程							
内							
金何程							
小以金何程							
<p>(斤數ニ依リ算出スルヲ便利トスル營業所得ハ本項ニ準シ種類毎ニ掲記スヘシ)</p>							
業ニ係ル所得	何々營業所得	何那何村何大字何番地ニ於ケル賣上	金高何程ニ對スル所得	但賣上高百圓ニ付前三年平均收益金何程	何々營業稅	地方稅營業稅	町村稅營業稅
商	商品原價	何	何	何	何	何	何

一金何程

(貫目ニ依リ算出スルヲ便利トスル所得
ハ本項ニ準シ種類毎ニ掲記スヘシ)

貸家所得

内

金何程

外

金何程

小以金何程

(坪ノ收得高ニ依リ算出スルヲ便利トスル
モノハ本項ニ準シ種類毎ニ掲記スヘシ)

一金何程

内

金何程

外

金何程

小以金何程

何郡何村何大字何番地ニ於ケル營業
ノ所得

但一坪ニ付前三年平均收得高何程

何々々

質屋業所得

何郡何村何大字何番地ニ於ケル營業

貸出金何程ニ對スル所得
但貸出金百圓ニ付前三年平均收益金何程

何々々

一金何程

内

金何程

外

金何程

小以金何程

(源ヲ業務ヨリ生スル所得ニシテ收入高ヲ以テ算出
スルヲ便利トスルモノハ種類毎ニ本項ニ準スヘシ)

計金何程

内

金何程

金何程

金何程

明治何年所得金明細書面ノ通ニ候也

年月日

郡長宛

何々業所得

何郡何村何大字何番地ニ於ケル何々

業收入金何程ニ對スル所得
但收入高百圓ニ付前三年平均收益金何程

何々々

戸主分
家族某分
家族某分

氏名印

訓令第三百三十一號(二十七年七月三十一日) 郡役所 收稅署
前年所得納稅者ニシテ翌年ニ至リ其資格ヲ失フタルモノアルトキハ其前年所得高及住所氏名ヲ本年所得決議高報告ノ際所轄收稅署ヘ通報スヘシ
後半年分所得納稅後他管ヘ轉出シタルモノアルトキハ郡長ハ其前年ノ所得事項ヲ轉入地ノ一處ヘ通報スヘシ

宮崎縣令第二十二號(二十年三月十二日)

明治十九年(七月)ノ藏有令第二十三號ニ依リ賣藥印紙ノ交換ヲ出願スルモノ心得左ノ通之ヲ定ム

- 一 印紙ノ交換ハ規則第三條ニ據リ其官所在郡役所ヘ願出可シ
- 一 各地ニ配置シタル賣藥ノ印紙交換ヲ求メント欲スルモノ便宜ノ爲メ既貼印紙價格拾圓以上ノモノニ限リ其配置先ノ郡役所ニ申出モ其令規ニ從フ
- 於テハ規則第三條ノ仕譯ヲナシタル願書三通ヲ要ス
- 一 棄却ノ證明ヲ受ケタルモノハ其證明書ヲ以テ新印紙下渡方ヲ營業場所在ノ郡役所ヘ其令規ニ從フヘ申出ヘシ
- 一 印紙ノ交換又ハ棄却ノ證明ヲ受ケタル賣藥ハ郡役所主任者ノ面前ニ於テ棄却ス可シ但其賣藥ヲ再製セン爲メ營業場所在地ヘ運搬セント欲スルモノハ其官申出荷造ノ上全主任者ノ封印ヲ受ケ營業場所在ノ郡役所ヘ其令規ニ從フ

宮崎縣令第八十九號(二十年十二月三日)

左ノ場合ニ於テ人民ノ所持スル印紙ハ其同郡内ニ在ル印紙賣捌人ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ルモノトス但此場合ニ於テハ印紙類賣捌人ハ其買取リタル事田及ヒ賣渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ置クヘシ

- 一 印紙類賣捌人ニシテ印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ或項目ニ該當スルトキ
- 一 印紙ヲ所持スル人民ニシテ明治十七年大藏省第七十三號達ノ場合ニ該當スルトキ
- 一 何人ニ限ラズ遺失印紙ヲ拾得タルモノニシテ成規ニ據リ當該官署ヨリ其拾得印紙ヲ給付セラレタルトキ

宮崎縣令第二十五號(二十一年四月十四日)

證券印稅受檢査人心得之ヲ定ム

證券印稅受檢査人心得

- 第一項 證券印稅規則第八條檢査ヲ受クヘキ證書帳簿左ノ如シ
 - 一 賣買仕切書
 - 一 營業ニ關スル送狀
 - 一 金 錢 通帳
 - 一 諸物品
 - 一 金 錢 判取帳
 - 一 諸物品
- 第二項 第一項證書帳簿ノ外規則第二條第一類第二類ノ證書帳簿ト爲スモノハ總テ檢査ヲ受クヘシ
- 第三項 受檢査人ハ第一號書式ニ倣ヒ證書帳簿ノ員數種類ヲ區別シ職業ヲ明記シタル調書ヲ製シ之レヲ檢査場ニ差出スヘシ
- 第四項 諸通帳ノ類ハ其帳簿主ニ於テ取纏メ檢査ヲ受クヘシ但取纏難キ事故アルモノニ限リ其官申立帳簿受取主ニ於テ檢査ヲ受クヘシ
- 第五項 檢査期日ニ差出シ難キ事故アル證書帳簿ハ翌日又ハ次ノ檢査場ニ於テ檢査ヲ受クヘキ旨ノ届書ヲ差出スヘシ但旅行先等ヘ携帶セシ證書帳簿ニシテ他管應ノ檢査ヲ受ケサルモノハ歸郷ノ後國稅檢査員派出所ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第六項 證書帳簿主事故アリ代人ヲ差出スルハ代人ヨリ其事由ヲ申立検査ヲ受クヘシ
 第七項 検査ヲ受クヘキ帳簿ニシテ使用期限及見積リ金高ニ滿タサルモノハ第二號書式ニ倣ヒ小計ヲ
 付シ其見積リニ滿チタルモノハ第三號書式ニ倣ヒ合計ヲ檢ケ之レニ捺印スヘシ
 第八項 検査未済ノ證書帳簿ニシテ使用済ニ屬スル者ハ之レヲ保存シ置キ期日ニ至リ検査ヲ受クヘシ
 第九項 検査ヲ受ケタル證書帳簿ハ捺印ヲ受クヘシ
 第十項 検査上必要ト認ムルトハ他ノ證書帳簿若クハ書類ヲ携帶セシムルカ又ハ家宅ニ就キ検査スル
 一アルヘシ

第一號書式

何郡何村
 何商何村
 一判取帳 何册
 一何帳 何册
 一何々 何通
 年月日

(半紙四ツ切)

第二號書式

(第一類ハ)

何年何月ヨリ何ケ年ノ内何年何月迄附込
 何年何月マテ

帳簿主
 實印

(第二類ハ)

帳簿主
 實印

小計附込金何程 何年何月ヨリ
 第三號書式 何年何月マテ

(第一類ハ)

使用期限附込済

(第二類ハ)

合計附込済金額何程

年月日

氏名印

宮崎縣令第三十三號 二十五年四月十四日
 賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼付方ハ願書ニ印紙ヲ貼付セス鑑札受取ノ際左ノ書式ニ倣ヒ領收證ヲ關
 製シ該證書ニ印紙ヲ貼付シ差出スヘシ

署名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケ消印スヘシ

(用紙半紙)

領收證

第何號(鑑札番號)

一賣藥營業免許鑑札

壹枚

右領收候也

年月日

何郡何村大字何々何番戶

何ノ謹印

郡長宛

宮崎縣第十六號 二十六年三月十五日
明治二十三年十一月勅令第二百七十一號印紙類賣下賣捌規則大藏 臣ノ認可ヲ經テ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

宮崎縣令第十七號 二十六年三月十五日

印紙類元賣捌人及賣捌人心得左ノ通之ヲ定メ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス但明治二十二年(一月)縣令第五號ハ全日ヨリ廢止ス

印紙類元賣捌人及賣捌人心得

- 第一條 印紙類ノ元賣捌ヲサントスルモノハ第一號書式ノ願書ヲ縣廳ニ差出スヘシ
- 第二條 印紙類元賣捌人ハ支店代理店ノ位置及支配人代理人ノ氏名ヲ第二號書式ニ依リ届出ヘシ但爾後異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ヘシ
- 第三條 印紙類賣捌ヲサントスルモノハ第三號書式ノ願書ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ
- 第四條 印紙類賣捌所ノ標札ハ第四號書式ニ依リ調製スヘシ
- 第五條 印紙類元賣捌人印紙類ノ賣下ヲ請フトキハ第五號書式ノ願書ヲ差出スヘシ
- 第六條 印紙類賣下 捌規則第七條第二項ニ據リ印紙類代金ノ延納ヲ乞フトキハ第六號書式ノ願書ニ第七號書式ノ公債証書ヲ添ヘ差出スヘシ
- 第七條 前條印紙類代金延納ノ許可ヲ得タルトキハ第八號書式ノ印紙類賣下願書ニ第九號書式ノ延納証書第七號書式ノ公債証書ヲ添ヘ差出スヘシ

第八條 印紙類延納代金ヲ完納シ公債証書ノ還付ヲ請求セントスルトキハ第十號書式ノ願書ニ代金納入ノ領收証書ヲ添ヘ差出スヘシ

第九條 印紙類賣捌人ハ第十一號書式ニ依リ印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ノ都度買入ノ年月日印紙ノ種類枚數ヲ記入シ之ヲ携帶シテ元賣捌人ノ認印ヲ受クヘシ

第十條 印紙類賣下賣捌規則施行細則第七條ノ印紙類受拂帳ハ第十二號書式ニ依リ調製スヘシ

第十一條 印紙類賣捌人ハ烟草製造營業人及賣藥營業人携帶ノ烟草印紙賣藥印紙買入帳ニ賣捌年月日種類枚數及住所氏名ヲ記載シ認印ノ上賣渡スヘシ

第十二條 左ノ場合ニ於テ管内人民ノ所持スル印紙類ハ元賣捌人又ハ賣捌人之ヲ買受クルコトヲ得但此場合ニ於テハ其買取タル事由及賣渡人ノ住所氏名ヲ受拂帳ニ記載スヘシ

一家賣分散又ハ國稅滯納處分法ニ依リ印紙類ヲ公賣ニ附シタルトキ
一印紙ヲ所持スル烟草營業者又ハ賣藥營業者廢業シタルトキ
一人ニ限ラス遺失印紙類ヲ拾得シタルモノニシテ成規ニ依リ管該官署ヨリ其拾得印紙類ヲ給付セラルトキ

第十三條 印紙類賣下賣捌規則第八條ノ印紙類交換又ハ買戻願書ハ第十三號第十四號書式ニ依リ差出スヘシ

第十四條 印紙類賣捌人ヨリ元賣捌人へ交換又ハ買戻ヲ請求スルトキモ亦前項ニ準シタル仕譯書ヲ添付スヘシ

第十五條 印紙類元賣捌人ニシテ印紙類ヲ請取リタルトキハ第十七號書式ノ領收証書ヲ差出スヘシ
第十六條 印紙類賣捌人ハ第十五號書式ニ依リ證券印紙及手形用紙賣捌高表ヲ調製シ左ノ期限ニ依リ所轄間稅分署ニ差出スヘシ但廢業又ハ賣捌免許滿期引續賣捌ノ免許ヲ得サルモノハ其節差出スヘシ

一月ヨリ 六月分 七月五日限リ
六月マテ 六月分 七月五日限リ
十二月マテ 六月分 翌年一月五日限リ

第十六條 印紙類元賣捌人及賣捌人改姓名ヲ轉居又ハ廢業スルトキ元賣捌人ハ縣廳ニ賣捌人ハ所轄間
稅分署ニ其旨速ニ届出ヘシ但賣捌人其賣捌區域内ノ轉居ニ係ルトキハ第十六號書式ノ印紙類賣捌所
移轉願書ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

告示第二百七十九號(二十六年十一月廿七日)

明治二十六年(三月)告示第五十六號印紙類賣捌區域及其人員ヲ改正スルコト左ノ如シ

訓令第二十三號(二十七年二月四日)

賣藥印紙交換規則取扱心得

收稅署

賣藥印紙交換規則取扱心得

第一項 印紙ノ交換又ハ各地ニ配置シタル賣藥廢藥ノ證明ヲ願出タルトキハ檢査ノ上既貼ノ印紙ニ消
印紙用ニ又ハ之ヲ切斷シ願書ニ證明ヲ爲シ交換ニ係ルモノハ該願書ヲ縣廳ニ送附シ廢藥ニ係ルモ
ノハ該願書ノ一通ヲ本人ニ下付シ一通ヲ營業場所在地ノ所轄收稅署ニ送附シ一通ヲ其署ニ保存スヘ
シ

第二項 廢藥ノ證明ヲ受ケタル書面ヲ以テ新印紙ノ下付ヲ申出タルトキハ他ヨリ回付セル證明書ニ照
合シ差違ナキニ於テハ之ヲ縣廳ニ送付スヘシ

第三項 印紙ノ交換又ハ廢藥ノ證明ヲ與エタル賣藥ハ當該官吏立會ノ上直ニ棄却セシムヘシ但再製ノ
爲メ營業場所在地ニ運送セシムトキハ當該官吏立會ノ上取締ナキ檢荷造ヲ爲サ
シメ封印ヲ施シ其印鑑ヲ添ヘ所轄收稅署ニ通報ス通報ヲ受ケタル收稅署ハ該印鑑ト照合賣藥ノ員數
ヲ調査シ差違ナキニ於テハ本人ニ下付スヘシ

第四項 凡テ新印紙ハ收稅署ニ送附ス收稅署ニ於テハ種類員數ヲ調査シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

宮崎縣令甲第十一號(十九年九月三日)

自今左ノ營業ヲ爲ス者又ハ廢業スル者ハ其時々別紙様式ニ倣ヒ所轄間稅分署ニ届出ヘシ但從來營業ス
ル者ハ來ル九月三十日迄届出ヘシ

一 酒類受卸 小賣營業 二 飲食店 三 旅館屋營業 四 醬油受卸 小賣營業

訓令第二百五十一號(二十三年九月廿九日)

間稅分署 町村役場
明治十三年(九月)第四十號布告酒造稅則第一條ノ保證物又ハ保證人ニ關シ取調方面稅分署ヨリ照會ア
リタルトキハ速ニ取調回報スヘシ

宮崎縣令第四十號(二十六年六月二十六日)

酒精營業人心得左ノ通之ヲ定メ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

酒精營業人心得

第一條 酒精營業稅法施行細則第一條ノ書面ハ第一號第二號第三號書式ニ依リ調製シ所轄間稅分署ニ
差出スヘシ

第二條 酒精營業稅法施行細則第二條第二項第三項ニ依リ酒精販賣見込石數ヲ増減セントスルトキハ
第四號第五號書式ノ書面ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第三條 酒精營業稅法施行細則第五條ニ依リ戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ鐵形ニ倣ヒ營業場一ヶ所毎
ニ調製スヘシ

免許鑑札番號

第何號

酒精營業免許

縣 町 大字 番 戸

何ノ誰

(木札寸法曲尺長三尺
幅九寸木品適宜)

第四條 酒精營業法施行細則第六條ノ書面ハ第六號第七號書式ニ依リ調製スヘシ

第五條 酒精營業者不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ營業ニ關スル諸般ノ事ヲ辦セシムヘシ

第六條 明治二十六年勅令第五十八號第二條ニ依リ營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スルモノハ第八號書式

ノ願書ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第七條 明治二十六年勅令第五十八號第八條工業用酒精ニ係ル營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スルモノハ

第九號書式ノ書面ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第八條 酒精營業法施行細則第七條ノ帳簿ハ第十號ヨリ第十四號マテノ書式ニ依リ調製スヘシ

第九條 明治二十六年勅令第五十八號第六條ノ帳簿書類ハ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第十條 酒精營業法施行細則第九條ノ書面ハ第十五號ヨリ第十八號マテノ書式ニ依リ調製シ所轄間

稅分署ニ差出スヘシ

第十一條 酒精營業法施行細則第十條第十一條ノ書面ハ第十九號ヨリ第二十一號マテノ書式ニ依リ

調製シ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第十二條 酒精營業法施行細則第十二條第十三條第十四條ノ願書ハ第二十二號ヨリ第二十五號マテ

ノ書式ニ依リ差出スヘシ

第十三條 酒精營業法施行細則第十五條ノ廢業屆書ハ第二十六號書式ニ依リ所轄間稅分署ニ差出ス

ヘシ

宮崎縣令第四十五號(二十六年七月廿六日)

明治二十六年(五月)勅令第五十八號第八條ノ工業用酒精ニ混和スヘキ木精(メチールアルコール)ハ其

容器ニ内務省衛生試驗所ノ試驗済印紙貼附アルモノニ限ル

宮崎縣令第四十二號(二十六年六月廿七日)

酒精(アルコール)販賣者其製造又ハ買入タル酒精ヲ七月一日ニ持越スモノハ其石量及ヒ賣渡人住所氏

名ヲ七月五日限リ所轄間稅分署ニ届出ヘシ但自用者ニシテ營業人ヲ經由セス買入タル酒精(アルコ

ル)ヲ七月一日ニ持越ス者モ本文ニ準リ届出ヘシ

戊第三十六號(十七年三月廿四日)

郡役所

愛媛縣下ノモノニシテ當管内ニ於テ免稅船新造歸港ノ際仮鑑札請求候者有之節ハ仮鑑札下付ニ不及該

鑑札不與セサル旨ノ証書下渡スヘキ様令縣ヨリ通知越候條自今右ニ依リ可取計此旨相達候事

甲第四十六號(十八年四月十五日)

明治十六年第十三號公布船稅規則第七條但書ニ依リ日本形横石五十石未満ノ船並ニ浮漁船小廻船遊船

ノ本鑑札釘付ノ箇所ハ該船舶ノ艙外部後部ニ釘付候儀ト可心得此旨布達候事

宮崎縣令第三十五號(二十六年六月二日)
船舶賣買讓與ニシテ他府縣ニ交渉スルモノハ鑑札引換願書ヲ定喫場所在ノ町村役場ニ差出シ該願書ニ其當期税金納否ノ證明ヲ受ケ出願スヘシ但本縣内甲間稅分署所轄内ヨリ乙間稅分署所轄内へ移轉ノ場合モ本文ニ準スヘシ

訓令第九十六號(二十六年六月二日)

町村役場

明治二十六年六月二日縣令第三十五號ニ依リ船舶賣買讓與ニ付鑑札引換願書差出シタルトキハ該願書ニ其當期税金納否ノ證明ヲ與フヘシ

訓令第四百九十九號(二十二年六月廿二日)

郡役所

菓子稅則第十四條ニ依リ賣上金高ノ調査終リタルトキハ左ノ書式ニ倣ヒ報告スヘシ

宮崎縣令第四十八號(二十二年六月廿一日)

明治二十二年一月縣令第六號菓子營業人心得左ノ通改定シ明治二十二年七月一日ヨリ施行ス

菓子營業人心得

- 第一條 菓子製造御賣營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式露店呼賣ヲ爲サントスルモノハ第二號書式ノ願書ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ但雇人員及氏名等異動ヲ生シタルトキハ其旨ヲ詳記シ其時々届出スヘシ
- 第二條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入出賣ヲ爲サントスルトキハ第三號書式ノ願書ヲ所轄

間稅分署ニ差出スヘシ但仕入出賣ヲ廢シ又ハ解雇スルトキハ鑑札相添届出スヘシ

第三條 稅則第五條ノ願書ハ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第四條 菓子營業者廢業ノ節ハ第八號書式ノ願書ニ免許鑑札ヲ添へ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第五條 菓子製造營業者廢業スルトキハ納期ニ拘ハラズ製造稅ヲ完納スヘシ

廢業ノ際所持スル菓子ハ所轄間稅分署ニ届出間稅官吏ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條 菓子製造場並住所他管下ニ移轉スルモノハ免許鑑札相添へ間稅分署ニ申出添翰ヲ受鑑札書換方ヲ移轉地ノ管廳ニ願出ヘシ但管内甲分署部内ヨリ乙分署部内ニ移轉スルトキハ本條ニ準シ願書ヲ

間稅分署ニ差出スヘシ

第七條 菓子營業者不在又ハ事故アルトキハ代理人ヲ置キ營業ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第八條 菓子營業者ハ第四號雜形ニ倣ヒ各自標札ヲ製シ戸外ニ掲出スヘシ

第九條 稅則第十三條ニ依リ菓子製造高及賣上金高ハ第五號第六號書式ニ依リ所轄郡役所ニ届出ヘシ但廢業スルトキモ亦本文ニ據リ届出ヘシ

第十條 菓子製造營業人ハ第七號書式ニ依リ毎年帳簿ヲ調製シ日々遺漏ナク日縮高ヲ記載スヘシ新規營業人ハ其月ヨリ始リ十二月末日ヲ終リトシ登記スヘシ但舊帳簿ハ三ヶ年間保在スヘシ

宮崎縣令第五十一號(二十一年八月廿三日)

明治十八年六月甲第八十六號布達醬油製造營業人心得書左ノ通改定シ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス但從前ノ令達中本令ニ抵触スルモノハ全日ヨリ廢止ス

醬油製造營業人心得

第一條 醬油稅則施行細則第一條第二條ノ書面ハ第一號第二號第三號書式ニ依リ間稅分署ニ差出スヘシ

第二條 醬油稅則施行細則第三條ノ届書ハ第四號書式ニ依リ所轄間稅分署ニ差出スヘシ
第三條 醬油稅則施行細則第五條ノ届書ハ第五號第六號書式ニ依リ所轄間稅分署ニ差出スヘシ但届出
ノ後見込石數ヲ増減シ又ハ製造方法ヲ變換シタルトキハ第七號第八號書式ニ依リ其都度届出ツヘシ
第四條 營業免許ヲ受ケタルモノハ製造場一ヶ所毎ニ第二十二號雜形ニ依リ標札ヲ製シ戶外ニ掲出ス
ヘシ
第五條 醬油稅則施行細則第六條ニ從ヒ代人ヲ置ク場合ハ營業上熟知ノモノヲ選ビ委任狀ヲ付與シ該
寫ヲ添エ所轄間稅分署ニ届出ツヘシ但後見人事故アリテ代人ヲ置クトキモ亦本條ノ手續ニ依ルヘシ
第六條 醬油稅則施行細則第八條ニ從ヒ容器ノ檢査ヲ請フトキハ新辦修繕ヲ問ハズ第九號書式ニ依リ
所轄間稅分署ニ差出シ第二十三號雜形ニ依リ木札ヲ製シ其容量等ノ記載ヲ請ヒ容器ノ正面ニ掲出ス
ヘシ
第七條 前條容器ノ外製造用諸器械ニシテ烙印シ得ヘキモノハ總テ烙印ヲ受クヘシ
第八條 檢査済容器及諸器械ヲ賣買讓與貸借又ハ返還スルトキハ番號及品目員數等ヲ記載シ運署ヲ以
テ所轄間稅分署ニ届出テ烙印並木札ノ消除及帳簿ノ更正ヲ受ケ若シ同業者ニ係ルトキハ番號帳簿ノ
更正ヲ受ケ授受スヘシ但破解スルトキハ其都度届出ヘシ
第九條 第六條ノ容器檢査済ノ上ハ檢査員ノ指シニ從ヒ容量調查簿ニ捺印スヘシ但以後異動ヲ生シ
ルトキモ亦本條ノ手續ニ依ルヘシ
第十條 醬油稅則第九條ノ場合ニ於テハ所轄間稅分署ニ届出檢査ヲ受クヘシ
第十一條 醬油稅則施行細則第十條ノ届書ハ第十號書式ニ依リ間稅分署ニ差出スヘシ但本條ノ場合ニ
於テ查定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ第十一號書式ニ依リ所轄間稅分署ニ届出造石數ノ查定ヲ受ク

ヘシ
第十二條 前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ醬油稅則第四條ニ從ヒ造石稅納済ノ後容量調查簿ヲ返納シ諸
器械ノ烙印及木札ノ消除ヲ請フヘシ但營業人ノ都合ニ依リ其儲存置セント欲スルモノハ其旨届出ヘ
シ
第十三條 醬油稅則第六條但昔ノ場合ニ於テハ所轄間稅分署ニ申出テ檢査ヲ受ケ其證明書ヲ得テ授受
スヘシ但營業中都合ニ據リ同業者ト賣買讓與ヲ爲ストキモ亦本條ノ手續ニ依ルヘシ
第十四條 醬油稅則第六條第二項ノ場合ニ於テハ所轄間稅分署ニ申出檢査ヲ受クヘシ但營業中ト雖モ
都合ニ依リ他ノ製造場ニ移ストキハ本條ノ手續ニ依ルヘシ
第十五條 醬油稅則施行細則第十一條第十二條ノ場合ニ於テ鑑札再渡又ハ替換ヲ請フトキハ第十二號
第十三號書式ニ依リ間稅分署ニ差出スヘシ
第十六條 醬油仕込ヲ爲シタルトキハ第十四號書式ニ依リ直ニ所轄間稅分署ニ届出ツヘシ但仕込届済
ノ上ハ便宜木札ヲ製シ仕込番號年月日ヲ記載シ容器ノ側面ニ掲置クヘシ
第十七條 醬油稅則第五條ニ從ヒ造石ノ查定ヲ受ケントスルトキハ第十六號書式ニ依リ所轄間稅分署
ニ届出ツヘシ
第十八條 諸味ニツ仕込以上ヲ合併セントスルトキハ所轄間稅分署ニ申出テ檢査員ノ承認ヲ受クヘシ
但仕込帳ニ其旨記載スヘシ
第十九條 醬油ノ不定ヲ受ケタルトキハ檢査員携帶ノ帳籍ニ登記シタル石高ニ捺印スヘシ
第二十條 醬油ノ查定ヲ受ケタルトキハ仕込帳計ノ次ヘ其查定石數記入ノ上捺印シ檢査員ノ認印ヲ受ク
ヘシ但搾揚ノ都度其年月日製成醬油ノ石數一番二番ヲ區別記入シ置クヘシ
第二十一條 毎年一月ニ於テ同年ニリ持越醬油ノ石高檢査ヲ受クヘシ

第二十二條 醬油稅則施行細則第七條第十六條ニ從ヒ左ノ帳籍ヲ調製シ置キ検査員臨檢ノ都度檢閲ヲ受クベシ

醬油製造原由買入帳 第十七號書式

(此帳籍ニハ大豆麥糜等ノ部分ケテ爲シ買入ノ都度賣渡人ノ住所氏名及石數代金ヲ記載スルモノトス)

醬油製造帳 第十八號書式

(此帳籍ニハ麵ヲ製造スル爲メ使用シタル豆麥等ノ石數ヲ記載スルモノトス)

醬油仕込帳 第十九號書式

(此帳籍ニハ仕込ノ都度原品及汲水等ノ數量ヲ記載スルモノトス)

醬油賣揚帳 第二十號書式

(此帳籍ニハ卸賣ハ其石數代金及年月日買入人ノ住所氏名小賣ハ其石數代金ノ日高ヲ記載スルモノトス但自用及貸與等ニ係ルモノハ口分ケ又ハ別帳ヲ製シ記載スルモ妨ケナシ)

醬油買入簿 第二十一號書式

(此帳籍ニハ買入ノ都度賣渡人ノ住所氏名及石數代金ヲ記載スルモノトス)

第二十三條 醬油稅則第十一條ノ場合ニ於テ造石稅ノ免除ヲ請ハントスルモノハ第二十四號書式ノ書面ヲ所轄間稅分署ニ差出スベシ

甲第三十四號(十七年二月廿七日)

車稅及牛馬賣買營業稅ヲ上納スルモノ他行不在等ノ節納稅ニ差支サル様豫テ納稅代人ヲ定メ置キ双方連署ノ上所轄郡役所へ可届出此旨布達候事

乙第五十二號(十七年三月廿八日)

今般甲第三十四號ヲ以テ及布達候ニ付テハ自今納期ニ際シ本人不在ノ節ハ直ニ代人ヨリ辨納セシムベシ此旨相續候事

郡役所 戶長役處

宮崎縣令第五十九號(二十二年七月廿六日)

明治十七年三月甲第三拾四號布達車稅及牛馬賣買免許狀ヲ上納スルモノ他行不在等ノ節納稅代人届書ハ自今町役場ヲ經由シ所轄直稅分署ニ届出ベシ

宮崎縣令第六十四號(二十二年九月六日)

車所有者心得左ノ通之ヲ定ム

車所有者心得

第一條 車類ヲ新調シ之ヲ使用セントスルモノハ其種類以使用ノ目的ヲ詳記シ所轄間稅分署ニ届出テ檢印ヲ受クベシ但免稅車及官廳用ノ車ヲ買受使用セントスルモノ亦同シ

第二條 免稅ノ檢印ヲ請ケタル後又ハ左ニ列記スル車類普通ノ用途ニ供使セントスルモノハ其旨所轄間稅分署ニ届出更ニ普通車ノ檢印ヲ請クベシ

- 一 非常專用ノ車 一 郵便物遞送ニ專用スル車ニシテ選信省ノ指定ニ據リ構造セシモノ
- 一 公立幼稚園所屬ノ車ニシテ育兒ノ用ニ供スルモノ 一 選病院所屬ノ車ニシテ傳染病患者治療

藥品若クハ死体汚穢物ヲ運搬スルモノ

第三條 馬車一匹立チ式四ニ兼用セントスルモノ又ハ荷積車ニシテ普通荷臺ノ外別ニ積載場所ヲ架設シ坪數ヲ増加シテ使用セントスルモノハ其本車ト共ニ所轄間稅分署ニ届出檢印ヲ請クベシ

第四條 車体ノ檢印等ヲ磨滅毀損シ若クハ左ノ場合ニ係リタルトキハ速ニ所轄間稅分署ニ届出檢印ヲ請クベシ
一 車類ヲ變更シタルトキ
一 馬車馬ノ匹數ヲ増減シタルトキ
一 車ニ修繕ヲ加ヘ税金ニ差違ヲ生スヘキモノ

第五條 左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ速ニ所轄收稅署ニ届出ベシ
一 車ヲ解撤シタルトキ
一 車ヲ亡失シ若クハ其所在ヲ發見シタルトキ
一 代替リ若クハ氏名ヲ變更シタルトキ

所有者住所ヲ移轉シタルトキハ其旨速ク移轉地ノ所轄收稅署ニ届出ツベシ

第六條 車ヲ賣買讓與シタルトキハ當事者連署ヲ以テ其買受人若クハ讓受人ノ所轄收稅署ニ届出ベシ
第七條 他府縣ニ於テ檢印シタル車ヲ買受讓受若クハ所有スル者管内へ轉居シタルトキハ速ニ届出テ買受讓受ニ係ルモノ更ニ檢印ヲ受クベシ
ハ賣渡人讓渡人連署

宮崎縣令第四十號(二十一年六月二十一日)

明治十七年七月甲第百八號布達煙草營業人心得左ノ通改定シ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

煙草營業人心得

第一條 煙草 吸煙ノ用ニ供スル 製造營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ營業場區域圖面ヲ添ヘ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第二條 煙草 仲買 營業ヲ爲サントスルモノハ第三號書式ノ願書ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第三條 煙草 仕入 鑑札ヲ受ケントスルモノハ第四號書式ノ願書ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ

第四條 煙草 營業人ハ第五號書式ニ依リ標札ヲ調製シ戶外ニ掲出スヘシ但兼業スルトキハ各別ニ掲出スヘシ

第五條 煙草 製造ニ關連スル通勤雇人弟子職工等ノ所有所用ニ係ル器械ト雖モ總テ煙草稅則施行細則第三條ニ依リ所轄間稅分署ニ届出ツヘシ

第六條 煙草 營業人ハ煙草貯藏場毎ニ第十七號書式ニ依リ標札ヲ掲クヘシ但製造人ハ製造場葉巻箱ニモ本文ニ準シ掲標スヘシ

第七條 煙草稅則施行細則第三條ノ届書ハ第二號第六號第七號ノ書式ニ準據シ届出ヘシ但製造人ハ製造器械ニ烙印ヲ受クヘシ

第八條 煙草稅則施行細則第十六條ノ消印ハ第八號雜形ノ印紙ヲ押捺スヘシ

第九條 煙草稅則施行細則第十一條ニ依リ數枚ノ印紙ヲ貼用スルトキハ點々封緘ノク所ニ貼用消印スヘシ

第十條 煙草稅則施行細則第十八條ノ標札ハ第九號書式ニ依リ調製スヘシ

第十三條 葉煙草ニ添付ナル標札ヲ破損又ハ紛失セントキハ更ニ調製添付スヘシ

第十四條 煙草 仲買人葉煙草ヲ賣渡ストキハ該標札ヲ荷物ニ添付スヘシ

第十六條 煙草稅則施行細則第二十二條ノ印紙買入帳ハ第十二號書式ニ依リ年々調製スヘシ

第十七條 煙草稅則施行細則第二十四條ノ營業者所用ノ帳簿製造人ハ第十三號仲買人ハ第十四號小賣人ハ第十五號樣式ニ依リ調製スヘシ但該帳簿ハ年々調製スヘシ

第十八條 廠業ノ節ハ第十六號書式ノ届書ニ免許鑑札ヲ添ヘ所轄間稅分署ニ差出スヘシ但仕人出賣ヲ

廢シタルトキハ本條ニ準シ届出スヘシ

第十九條 廢業ノ際煙草ヲ所持スルモノハ其種目數其詳記シ所稅關稅分署ニ届出但揮テ請フヘシ

第二十條 粉煙草ニシテ吸飲ニ供セス肥料トナシ又ハ肥料トシテ販賣セントスルモノハ以前テ其旨所轄關稅分署ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第二十一條 內國產製ニアラザル煙草類ヲ買受借貸渡讓渡若クハ之ヲ預リ又ハ返附シタルトキハ證書ヲ取リ其寫ヲ添ヘ所轄關稅分署ニ届出スヘシ

第二十二條 製造煙草ノ包裝ハ該見本ヲ所轄關稅分署ニ届出ヘシ但變更ノ都台本文ニ準ス

第二十三條 煙草稅則施行細則第十五條ノ商品見本ハ包裝ヲ切披キタルマ、店頭ニ陳列シ又ハ出賣先ニ攜帶スルノ外他ノ箱等ニ轉入シ又ハ他ノ場所ニ移置スヘカラス

第二十四條 天災其他抗拒スヘカザル事故ニ罹リ煙草營業者所持ノ煙草包裝及其貼用印紙毀損又ハ汚染シタル場合ニ於テハ速ニ所轄關稅分署ニ届出事實ノ審明ヲ請フヘシ但過誤ニヨリ所持ノ煙草廢敗シ歸シタルモノト雖モ本文ニ準ス

第二十五條 煙草稅則施行細則第二十條第一項ノ認許願ハ第十九號様式ニ據リ差出スヘシ全施行細則第二十條第二項ノ通帳ハ第二十號様式ニ據リ調製スヘシ

第二十六條 煙草製造人ニ於テ官廳ヨリ無印紙該煙草ノ拂下ヲ受ケタルトキハ印紙ヲ貼用シ該量目箇數及拂下ヲ受ケタル旨帳簿ニ記入シ置クヘシ但製造人葉煙草ノ拂下ヲ受ケタルトキハ種類量目ヲ本文ニ準シ記載スヘシ

第二十七條 仲賣人小賣人ニ於テ煙草ノ包裝ヲ解綻毀損シ又ハ印紙ヲ汚染シタルトキハ原製造人或ハ最寄ノ製造人ニ委託シ更ニ包裝ヲ施シ印紙ヲ貼用セシムヘシ

第二十八條 證約狀ニ要スル保證人ヲ得難キ場合ニ於テハ情願ニヨリ左ノ證券ヲ抵當トシテ差出保證

人ニ代ルコトヲ得

一 公債證書 一 國立銀行ノ預金證 一 國立銀行又ハ政府ヨリ利益ヲ保證スル會社ノ株券

第二十九條 煙草仲賣人小賣人自作ノ葉煙草ハ製造人仲賣人ニ賣捌クコトヲ得ルモ自用ノ爲メニ製造スルニトテ得ス

第三十條 煙草仲賣人小賣人ニシテ煙草製造器械ヲ所持スルモノハ第十八號様式ニ依リ所轄關稅分署ニ届出封印ヲ受クヘシ但該器械ヲ賣渡貸渡サントスルトキハ其官届出開封ヲ請フヘシ

第三十一條 煙草營業人葉煙草及製造煙草ヲ預入レ賃入若クハ抵當ニ差入タルトキハ其種類數量債主ノ住所氏名ヲ所轄關稅分署ニ届出シ但受戻シタルトキ又ハ種類ノ變換量目ニ増減ヲ生スル場合モ亦本文ニ準ス

第三十二條 第二十七條ノ改裝委託ヲ受ケタル製造營業人ハ施行細則第十條ニ據リ改裝シ其數量個數定價印稅等ハ自己ノ製造ニ準シ記載シ尙其事由ヲ欄外ヘ明細記入シ置クヘシ

第三十三條 煙草稅則施行細則第二十六條ノ書面ハ所轄關稅分署ニ差出スヘシ

宮崎縣令第四十一號(二十九年六月二十三日)

葉煙草 賣用ト自用トハ其作付反別及收穫高等ヲ左記第一號第二號様式ニ據リ届書ヲ製シ每年左ノ期限ニ從ヒ町役場ヲ經テ所轄稅務署ニ差出スヘシ但本年ニ限リ夏煙草作付反別届ハ七月十五日限リ差出スヘシ

夏煙草 煙草作付反別届 五月十五日限リ
 煙草收穫乾上高届 八月十五日限リ

秋煙草 煙草作付反別届 八月十五日限リ
 煙草收穫乾上高届 翌年一月十五日限リ

(第一號様式)
 煙草作付反別届

土地所存 町村名	全大字名	字番	地目	作付反別	株數	種類	收獲乾上 見込量目	耕作人住所氏名
何町村	何大字	何字番	畑 自用	何反歩	何株	丸葉 何々	何百貫目 何十貫目	何町村大字何 何 某

右ハ明治何年烟草作付反別前書之通(連名ノトキハ連)及御届候也
 署ヲ以テト記ス) 右耕作人 何 某 印
 年月日

知事宛

(備考) 一筆内ノ幾部分作付セシモノハ地番ノ欄へ何番ノ内ト記載スルモノトス耕作人他郡町村ノモ
 ノナルトキハ右耕作人ノ右傍ニ其郡町村名ヲ肩書スヘシ數名連署セサルトキハ耕作人住所
 氏名ノ欄ヲ要セス

(第二號様式)
 烟草收獲乾上高届

烟草收獲乾上量目	賣 内	用 自	譯 用	耕作人住所氏名
何百貫目	丸葉(劍尖)何百貫目	何葉何拾貫目	何町村大字何 何 某	

右ハ明治何年烟草收獲乾上量目高前書ノ通(連名ノトキハ連)及御届候也
 署ヲ以テト記ス) 右耕作人 何 某 印
 年月日

知事宛

訓令第七十二號(二十九年六月二十三日)
 本年縣令第四十一號據リ葉烟草耕作人ヨリ作付反別及收獲高等ノ届書ヲ差出シタルハ町村長ハ其適
 否ヲ調査シ若シ不相當ト認メタルハ其旨ヲ説示更正セシメタル上所轄收稅署ニ差出サシムヘシ

收稅署 町村役場

宮崎縣令第七十九號(二十四年十二月廿三日)
 賣藥營業人同請賣人帳簿調製心得
 第八十二號ハ同日ヨリ廢止ス

- 第一條 賣藥營業人同請賣人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ但帳簿(賣藥製造方)ハ年々調製スヘシ
 - 賣藥營業人帳簿調製心得
 - 賣藥製造方法帳 第一號式
 - 賣藥製造帳 第三號式
 - 交換賣藥受拂帳 第四號式
 - 賣藥印紙受拂帳 第五號式
 - 賣藥製造帳 第六號式
 - 賣藥請賣人帳 第七號式
 - 賣藥印紙受拂帳 第五號式
 - 賣藥製造帳 第三號式
- 第二條 前條ノ帳簿ハ附込濟翌年ヨリ滿三ヶ年間保存スヘシ
- 第三條 賣藥營業人ハ賣藥印紙買入ヲ爲ス毎ニ賣藥印紙買入帳ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ
 記載シ其下ニ押印セシメ置クヘシ
 一 印紙賣渡ノ年月一 印紙日ノ種類枚數 一 賣捌人ノ氏名住所

第四條 賣藥營業人同請貸入ハ他ノ事故アルトキ検査ニ差支ヘサル様營業上自己ノ代出人タル
ヘキ者ヲ豫テ定メ置クヘシ但代理人ノ氏名ハ所轄間稅分署ニ届出スヘシ

訓令第六十四號(二十五年四月八日)

郡役所

明治二十五年(四月)縣令第三十三號ニ依リ差出タル賣藥營業免許鑑札領收證ハ其時々間稅分署へ送付
スヘシ

宮崎縣令第七十一號(二十六年十一月三十日)

明治二十六年十二月一日以降從前ノ諸分通告示中直稅署間稅署トアルハ收稅部直稅署長間稅署長トア
ルハ收稅部部長直稅分署間稅分署トアルハ收稅署直稅署長間稅分署長トアルハ收稅署長トス

訓令第十七號(二十三年一月廿六日)

町村役場

間接國稅犯則者ニ係ル差押物件公賣指示方間稅署若クハ間稅分署ヨリ照會アリタルトキハ直ニ揭示
ヘシ

訓令第三百九號(二十三年十二月十二日)

間稅分署

本年九月法律第八十六號間接國稅犯則者處分法及本年十一月大藏省令第三十一號全法施行細則ニ關ス
ル諸様式別冊ノ制定

訓令第十六號(二十四年一月廿四日)

間稅分署

明治二十三年九月法律第八十六號間接國稅犯則者處分法第十七條ニ依リ差押物件公賣手續及入札人心
得別冊ノ通り定ム

訓令第五十一號(二十五年三月廿五日)

直稅分署

收入官吏

國稅滯納處分法第十一條ニ依リ他府縣ヨリ處分ノ囑托ヲ受タルトキ普通ノ事件ハ其結果當廳へ申出ニ
及ハス候條直チニ囑托收入官吏へ回報スヘシ

訓令第九十八號(二十五年六月十三日)

直稅分署

收入官吏

國稅滯納處分法第十一條ニ依リ他府縣ヨリ處分ノ囑托ヲ受タルトキ明治二十五年大藏省訓令第五號國
稅滯納處分報告ニ該當セル事項ハ處分ノ結果ト共ニ囑托收入官吏へ回報スヘシ
同上他府縣へ處分ノ囑托ヲナシタルトキハ受托收入官吏ヨリ前項同様回報有之旨ニ付其旨相心得整理
スヘシ

訓令第八十一號(二十七年五月八日)

收稅署

分任收入官吏

第滯納處分表ハ本年(四月)大藏省訓令第二十五號様式ニ倣ヒ調製シ左ノ期限ニ隨ヒ進達スヘシ但二
十六年分ニ限リ一周年度ヲ通シ一表ニ調製シ本年七月二十五日迄ニ進達スヘシ

一 第一回報告ハ翌年一月二十五日限

一二 第二回報告ハ翌年七月二十五日限

訓令第五十四號(二十四年三月五日)

間稅分署長

犯則ニヨリ没査若クハ追徵スル金員ノ收入調定及收納ノ監督ヲ委任ス

訓令第百十二號(二十四年十月一日)
訴訟入費償却金ノ收入調定及收納ノ監督ヲ委任ス

間稅分署長

訓令第百八十三號(廿三年十一月十四日)
徵稅令書面ニ誤記脱漏アルコトヲ發見シ之カ訂正ヲ要スルモノハ金員ヲ除クノ外訂正方委任候條其都度分署長ニ於テ訂正ノ上捺印スヘシ

各直稅分署

訓令第三百十六號(二十三年十二月廿日)
明治二十三年(九月)法律第八十六號間接國稅犯則者處分法ニヨリ徵收スル罰金及科料并處分費ノ收入調定及收納ノ監督ヲ委任ス

間稅分署長

訓令第五十號(二十四年二月廿六日)
明治二十三年(九月)法律第八十六號間接國稅犯則者處分法第十七條ニヨリ徵收スル物品拂下代ノ收入調定ヲ委任ス

間稅分署長

訓令第百五十四號(二十六年十一月十三日)
國稅帶納處分法第十一條但書囑托書經内ノ事務ヲ委任ス因テ他管下關係分署へ直ニ移送スヘシ但本文ノ委任ハ直稅署ヨリ隨時通達スル所ノ府縣ニ限ルモノトス

直稅分署

訓令第八十八號(二十七年五月十二日)

收稅署

宮崎縣收稅署事務取扱順序別冊ノ通定
但前訓令達ニシテ之ニ抵觸スルモノハ總テ廢止トス
宮崎縣收稅署事務取扱訓序 (別冊)

地 租

第一條 土地ニ關スル願屆書ハ明治二十二年(三月)大藏省訓令第十五號地租事務取扱手續第一條ニ據リ照查ノ上ハ實地檢査ヲ爲スモノト否トテ區別スヘシ
第二條 實地檢査ヲ要スヘキ願屆書ハ定期ト臨期トテ區別シ分類編冊シ置キ事務ノ緩急ヲ計リ檢査ヲ爲スヘシ但地租條例第十條ノ願屆書ハ別ニ編綴シ置クヘシ
第三條 實地檢査ヲ要セサル願屆書又ハ檢査ヲ了ヘタル願屆書ニシテ明治二十六年(十二月)訓令第百六十號範圍内ノモノハ收稅署限リ取扱ヒ其他ハ關係書類ヲ添ヘ本廳へ進達ノ手續ヲ爲スヘシ
地租條例十條地目變換地地價修正ハ修正地租徵收年度ニ至リ土地檢査手續ニ依リ通達ヲ爲スヘシ

第四條 地租事務取扱手續及地圖修正手續ニ據リ土地臺帳又ハ地圖ノ訂正ヲ爲シタルトキハ毎筆願屆書及別ノ上欄外へ「土地臺帳訂正済」又ハ「地圖訂正済」ノ印及主任者ノ捺印ヲ爲スヘシ
土地臺帳集計簿其他ノ帳簿ニ記入セントキハ願屆書合計へ「諸帳簿記入済」ノ印及主任者ノ捺印ヲ爲スヘシ

第五條 土地臺帳ハ毎年一月ニ至リ前年中ニ於テ異動ヲ加除シタル筆限地目毎ニ其原額ト訂正額トヲ集計シ前々年ノ町村計及郡計ノ現在額ニ基キ之ヲ加除シテ前年ノ現在額ト爲スヘシ
第六條 官有地拂下、下渡、買上、有租地ノ免租地成、免租地ノ有租地成等ハ縣廳郡役所區裁判所又ハ出帳所ノ通知及願屆書ニ據リ土地臺帳其他諸帳簿ヲ整理スヘシ但有租地ノ免租地成、免租地ノ有

租地成ハ明治二十七年(一月)訓令第四號ニ據リ地租租替ヲモ爲スヘシ

第七條 土地所有ノ移轉又ハ質入及其解約等ハ地租事務取扱手續ニ據リ取扱フヘシ

第八條 地目變換地類變換ヲ届出タルトキハ其變換セシ地目ヲ土地臺帳地目ノ傍ニ朱記シ沿革欄内ニ何年何月何日地目變換又ハ地類變換ト記入スヘシ

第九條 土地分合筆又ハ地番戶及地目變換其他流亡ノ如キ異動ヲ生シタルトキハ區裁判所又ハ出張所ニ通報スヘシ

第十條 土地臺帳ノ謄本ヲ請フモノアルトキハ土地臺帳規則施行細則及地租事務取扱手續ニ據リ下付スヘシ

第十一條 土地ノ證明ヲ請フモノアルトキハ民事訴訟法第六百四十三條ニ據リ證明書ヲ下付スヘシ

第十二條 土地檢査ニ關スル手續ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ

所得稅

第十三條 所得金額ノ報告アリタルトキハ明治二十六年(六月)訓令第七號ニ據リ取扱フヘシ

酒造稅

第十四條 酒造營業免許ヲ願出タルトキハ所有不動産買價格ノ當否及質入書入ノ有無等調査シ鑑札下付ノ手續ヲ爲スヘシ但土地ハ土地臺帳ニ照合シ土地建物ノ價格ハ適宜ノ方法ヲ以テ取調ヲ爲スモノトス

引續營業者ノ鑑札ハ裏面ニ免許證印ヲ押捺スヘシ

第十五條 保證物又ハ保證人認可願ヲ差出タルトキハ左ノ事項ヲ調査シ認可ノ手續ヲ爲スヘシ
一 漁石稅四分ノ一以上
一 所得稅ハ資産ヨリ生スルモノ

第十六條 施行細則第六條ニ係ル所有不動産及保證物ノ價格ヲ定メ第一號書式ニ依リ達ノ手續ヲ爲ス

第十七條 檢査濟酒類及諸器械藏置場ヲ願出タルトキハ調査ヲ遂ケ許可ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 稅則第十六條ノ場合ニ於テハ間稅官吏ノ報告ヲ添付シ本廳ニ進達ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 施行細則第二條第三條ノ場合ニ於テ鑑札ヲ下付シタルトキ乙收稅署ハ其旨甲收稅署ニ通報シ甲收稅署ハ乙收稅署ノ通報ニ據リ臺帳ヲ削除スヘシ但該期納稅ノ濟否ヲ添報スルモノトス

自家用料酒

第二十條 自家用料酒類製造ヲ届出タルトキハ鑑札下付ノ手續ヲ爲スヘシ但引續キノ者ハ鑑札裏面ニ免許證印ヲ押捺スルモノトス

酒精營業稅

第二十一條 酒精營業ヲ願出タルトキハ鑑札ヲ下付シ保證金供託受領證書ハ保管ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 酒精諸器械藏置場願、醫藥用酒精營業稅免除願及保證金減額願ヲ受ケタルトキハ許可ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 酒精營業人心得第九條ニ據リ帳簿ヲ差出タルキハ調査ノ上月計ニ免稅證印ヲ押捺スヘシ

第二十四條 施行細則第七條ニ據リ帳簿ヲ差出タルトキハ每葉ニ署印ヲ以テ割印スヘシ

第二十五條 同第九條第一項ニ據リ届出タルトキハ其販賣又ハ使用高ヲ調査シ稅額査定ノ手續ヲ爲スヘシ

釐金營業稅

第二十六條 釐金營業ヲ願出タルトキハ同稅則取扱心得書ニ據リ取扱フヘシ

煙草稅

第二十七條 煙草製造營業ヲ願出タルトキハ相當ノ證約金額ヲ定メ證約狀ヲ徴シタル上鑑札下付ノ手續

續ヲ爲スヘシ

第二十八條 証約狀ニ記載スヘキ保證人ヲ得難キ場合ハ左ノ物件ヲ抵當ト爲サシムルコトヲ得

一土地 二公債証書 三國立銀行預金券又ハ株券 四政府ニ於テ利益ヲ保護スル會社ノ株券

第二十九條 証約金額ノ増減ヲ必要トスルトキ又ハ保證人其資格ヲ失ヒタルトキハ改徵ノ手續ヲナスヘシ

証約狀改徵ノ場合ニ於テハ更改前ニ係ル証約ノ義務ヲモ負擔スヘキ條款ヲ補足セシムヘシ

第三十條 煙草仲買小賣營業願及仕入出賣鑑札下付願出タルトキハ鑑札下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 施行細則第二十條ニ依リ通帳ヲ差出シタルトキハ每葉ニ署印ヲ以テ制印スヘシ

第三十二條 煙草印紙交換手續ニ據リ交換ヲ申出タルトキハ審明書ヲ添ヘ本廳ニ進達スヘシ

醬油稅

第三十三條 醬油製造營業ヲ願出タルトキハ鑑札下付ノ手續ヲ爲スヘシ

檢査濟醬油、諸器械藏置場ヲ願出タルトキハ調査ヲ遂ケ許可ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 施行細則第十二條ノ場合ニ於テハ第十九條ノ手續ニ據ルヘシ

第三十五條 稅則第十一條ノ場合ニ於テハ第十八條ノ手續ニ據ルヘシ

菓子稅

第三十六條 菓子營業願及仕入出賣鑑札下付願出タルトキハ細則取扱心得書ニ據リ鑑札下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 菓子製造營業願及仕入出賣等ノ節ハ住所氏名ヲ詳記シ其時々郡役所ニ通報スヘシ

賣藥稅

第三十八條 賣藥營業ノ興廢ハ郡役所ノ通知ニ據リ臺帳ヲ整理スヘシ

第三十九條 賣藥印紙ノ交換ハ明治二十七年二月訓令第二十三號ニ據リ取扱フヘシ

船稅

第四十條 西洋形蒸氣船並日本形積石五十石以上ノ船舶ハ鑑札下付願並郡役所ノ通知ニ據リ日本形五十石未満ノ船並靜海船小廻船ノ鑑札ヲ願出タルトキハ檢査ノ上船稅取扱心得書ニ據リ鑑札下付ノ手續ヲ爲スヘシ

免稅船ハ其用途ヲ取調烙印スヘシ

車稅

第四十一條 官廳用ノ船舶ハ其官廳ノ通知ニ據リ烙印スヘシ但臺帳ハ免稅船臺帳ニ準シ調製スヘシ

第四十二條 諸車ヲ届出タルトキハ檢査ノ上車稅規則取扱心得書ニ據リ烙印スヘシ

免稅車ハ其用途ヲ取調烙印スヘシ

第四十三條 檢印ハ左ノ個所ニ烙印スヘシ

一馬車及荷積車ハ荷蓋ノ左側一人力車ハ蹴上ノ外部 一牛車ハ車輪ノ外部

第四十四條 官廳用ノ諸車ハ其官廳ノ通知ニ據リ烙印スヘシ但臺帳ハ免稅車臺帳ニ準シ調製スヘシ

第四十五條 他府縣ニ於テ檢印シタル車ヲ買受讓受若クハ所有スルモノ、車ニハ更ニ檢印ヲ與フヘシ

但舊檢印ハ削除スルモノトス

鐵業稅

第四十六條 解車ヲ届出タルトキハ檢印ヲ削除スヘシ

第四十七條 鐵業人ノ興廢製產物ノ數量若クハ販賣代價及鐵區ノ増減賣買讓與等ハ收稅部ノ通知ニ據リ臺帳ヲ整理スヘシ

牛馬賣買免稅稅

第四十八條 牛馬賣買免許ヲ願出タルトキハ鑑札下付ノ手續ヲ爲スヘシ
第四十九條 警察署同分署ヨリ符牒免許ノ送付ヲ受ケタルトキハ該帳ニ登錄シ速ニ下付ノ手續ヲ爲ス
ヘシ但異動ノ通報アリタルトキハ該帳ヲ訂正シ置クヘシ

印紙賣捌

第五十條 印紙賣捌ヲ願出タルトキハ定員ニ據リ許否ノ手續ヲ爲スヘシ
第五十一條 印紙賣捌人ノ興廢ハ元賣捌人本店又ハ支店ニ通知スヘシ

檢稅及犯則處分

第五十二條 間稅ニ關スル手續ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ
第五十三條 差押物件公賣ハ明治二十四年(一月)訓令第十六號ニ據リ取扱フヘシ
第五十四條 沒收物件ヲ領收シタルトキハ預リ證ヲ以テ内務部物品會計官吏ニ引繼ノ手續ヲ爲スヘシ
第五十五條 告發ニ係ル宣告書ノ謄本ハ裁判所ニ請求シテ其署ニ備置クヘシ

測定及現計費

第五十六條 測定額ニ増減ヲ生シタルトキハ追加徵稅令書又ハ減額違習ヲ發スヘシ
減額違習ハ第二號書式ニ據ルヘシ
第五十七條 測定ニ關スル證書類調理手續ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ
第五十八條 測定額證明書類賦課現計費及報告表進達期限ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ
第五十九條 凡ソ計算書類進達ノ後誤謬ヲ發見シタルトキハ經伺ノ上處分スヘシ

徵收

第六十條 徵稅簿樣式ニ記載例ナキモノハ左ノ各項ニ據ルヘシ
一 定期徵稅簿
收入額欄内ニ増減トシテ掲クヘキモノハ金庫突合表更正拂ニ關係スルモノ及科目組替ノ場合ニ限

ル
測定外ノ課納額アリタルトキハ摘要欄内ニ其事由測定額欄内ニ其金額ヲ記入シ尙ホ超過額ヲ未済
額欄内ニ朱書(完結)ス
本簿ニハ末尾ニ同式ノ合計ヲ付ス
一 隨時收入徵稅簿
本簿ニハ月計及累計ヲ付ス

第六十一條 滯納處分剩餘金ハ歳入歳出外現金トシテ現金出納簿ニ登記スヘシ
第六十二條 現金拂込書ニ課記セシ爲メ租稅外租稅外租稅外租稅ニ課納セシトキ又ハ歳入金科目
ニ課記アルモノハ明治二十四年(四月)訓令第百一十一號及同二十六年(一月)達第九號ニ據リ訂正ノ手
續ヲ爲スヘシ

第六十三條 歳入金徵收ノ囑託ヲ受ケ徵收シタル現金ハ爲替納金取扱順序ニ據リ取扱フヘシ
第六十四條 民事訴訟法第六百五十四條ニ據リ裁判所ヨリ催告ヲ受ケ未納金アルトキハ分任收入官吏
ヨリ回金ノ請求ヲ爲スヘシ但酒類醬油遊石稅ニ限リ課額既ニ定マリタルトキハ未タ納期ニ至ラサル
モ測定額額ノ通知ヲ受ケ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

徵稅簿ヲ適用スルコトヲ得

第六十五條 隨時納期ヲ定ムル國稅ノ内附村ヲ經テ徵收スルモノハ國稅徵收法施行細則第五號樣式ノ
第六十六條 地租毎納期收納ノ狀況ハ明治二十五年(十月)達第四百五十七號ニ據リ報告スルノ外第三
號書式ノ既未納表ヲ調製シ收稅部長ニ報告スヘシ
第六十七條 租稅收入額收入未済額徵稅報告書並收入未済額完結報告書調製方及其樣式ハ明治二十五
年(十二月)達第五百三十三號ニ據ルヘシ

滞納處分

第六十八條 國稅滞納額整理簿ノ期印ハ分任收入官吏職印ヲ以テスヘシ

第六十九條 同一ノ納期ニシテ同時ニ一項中二税目以上ノ滞納ヲ爲シタルモノアルトキハ督促令狀一通ニ其科目税金ヲ列記シテ交付スヘシ

第七十條 納税代人ヲ置キタル土地所有者ニ對シテ滞納處分ヲナストキハ直ニ納税代人ニ對シテ督促令狀ヲ發シ定期日限内ニ完納セサルトキハ納税本人ニ就キ財產差押ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十一條 滞納處分ニ依リ生ゼシ剩餘金ニシテ管理者ナキ場合ニ於テハ明治二十三年勅令第二號及二十六九年九月六號訓令第二十號ニ據リ金庫ニ寄托ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十二條 財產差押ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ其要件ヲ差押命令書用紙ニ記入シ分任收入官吏ニ交付スヘシ

前項處分前ノ上ハ其領本ヲ差押命令書ニ記入シ署長ノ檢閱ヲ受クヘシ

第七十三條 滞納處分法第十一條ニ據リ他ノ地方管内ニ係ル處分ノ囑託ヲ爲サントスルトキハ明治二十六年(十一月)訓令第五百四號ニ據リ囑託書發送ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十四條 滞納處分ノ囑託ヲ受ケ完了シタルトキハ直ニ囑託分任收入官吏ニヨリ回報スヘシ

第七十五條 鐵業稅又ハ鐵區稅ヲ滞納スルモノアルトキハ明治二十五年(四月)大藏省訓令第二十二號末項ニ據リ所轄鐵山監督署長ニ通知スヘシ

前項通知後處分終了セシトキハ直ニ其結果ヲ同署長ニ通知スヘシ

第七十六條 國稅滞納處分表ハ別ニ定ムル所ノ期限ニ隨ヒ進達スヘシ

第七十七條 租稅徵收票中書ハ第四號書式ニ據リ差出スヘシ

徵稅費

第七十八條 經費ノ請求精算ハ明治二十三年五月訓令第六十六號ノ規則ニ據ルヘシ

第七十九條 豫算配付ノ示達ヲ受ケタル經費ハ豫算配付示達額差引簿(第五號)ヲ備置キ其受拂ヲ明瞭ナラシムヘシ

第八十條 物品ニ關スル取扱ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ

雜部

第八十一條 官報ニ登載ノ訓令會計檢査院達及同指令等ニシテ當然收稅署ノ事務ニ關スルモノハ直ニ適用スルコトヲ得但特ニ本廳ヨリ示達ノモノハ此限ニアラス

第八十二條 諸營業廢業同等ハ收受ノ日ヲ以テ臺帳ヲ削除スヘシ但正當ノ事故アルモノハ廢業ノ日ヲ以テ臺帳ヲ削除スヘシ

第八十三條 諸營業廢業及書換等ニ係ル返納證札ハ不取締ナキ繰消却スヘシ船證札モ亦タ同シ

訓令第六十二號(二十七年四月廿一日)

左ニ掲クル事項ハ自今收稅署限リ取扱フヘシ

但明治二十二年(十月)達第六一三號同二十三年(十月)達第三七四號ハ廢止ス

一 諸營業并ニ印紙賣捌ニ關スル願届ノ件

一 徵稅令書並ニ財產差押命令書發布ニ關スル件

收稅署

直稅分署 間稅分署

訓令第二百七十五號(二十三年十一月十日)

官廳縣 直稅分署 宿直心得左ノ通定

間稅分署

左記略

訓令第二號(二十八年一月十五日) 收稅署長
國稅外諸收入ニシテ從價收入測定及收納ノ監督ヲ委任セシモノ、外收稅署ニ於テ收入ヲ要スヘキモノ
ハ總テ其測定ヲ委任ス

訓令第六十六號(二十三年五月廿四日) 收稅部出張所 租稅檢査員派出所
內國稅徵收費請求精算規則左ノ通り之ヲ定ム但明治十九年(九月)達第五七一號訓令ハ廢止ス
內國稅徵收費請求精算規則

第一章 總 則

第一條 內國稅徵收費ノ請求及精算ハ總テ此規則ニ據ルヘシ

第二條 內國稅徵收費ノ支出請求ハ其當然支給ヲ受ルモノ、外課メ知事ノ裁可ヲ稟クルニテサレハ
之ヲ爲スコトヲ得ス但左ノ場合ハ此限リコトナラス
出張中郵便稅及電信料ヲ要セシトキ
出張中又ハ收稅部出張所租稅檢査員派出所ニ於テ緊急ノ事件ニ付得テ書狀送達ノ爲メ人足賃ヲ要
スルトキ

國稅滯納處分ノ爲メ該費ヲ要スルトキ

第三條 旅費ノ該算請求ハ管内ハ一ヶ月分管外ハ二ヶ月分ヲ超ユルコトヲ得ス但管内ハ出發最初ノ月
ニ限リ翌月十日以内ノ分ヲ併セテ請求スルコトヲ得

第四條 前條計算額ノ金額ハ其請求額ヲ減少スルコトアルヘシ

第五條 內國稅徵收費ハ其收稅部ニ於テ受取ルモノ集合仕拂命令ニ係ル規定ノ通知書ノ交付ヲ受ケシ

トキハ之ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シテ該證書ト引換ニ現金ヲ金庫ヨリ受取ルヘシ但各自ニ對シテ
仕拂命令ノ交付ヲ受ケシトキハ第二章以下各其本條ニ據ル
其收稅部若クハ出張先ニ於テ受取ルモノハ總テ金庫ヨリ送金シ仕拂命令官ニ於テ規程ノ通知書ヲ直
ニ受取人ニ送付スヘキニ付金員ヲ領收セシトキハ該通知書ハ成規ノ手續ヲ了シ金庫ニ送付スヘシ但

官崎收稅署ハ前項ノ例ニ依ル

第六條 俸給文具料等 支拂科目ノ同一職名ノ受取人ニ於テ一人ノ代理者ヲ選定シ現金ノ領收方ヲ委任
シタルトキハ委任狀ノ添付ヲ委任 被任者連署ヲ以テ其職名仕拂命令官ニ届出ツヘシ

第七條 內國稅徵收費ハ隨時精算請求スルモノ、外課メ月毎ニ通常一課 區分シ翌月三日以内精算スヘ
シ但出張中ニ係ルモノハ御用濟部廳后三日以内精算スヘシ

第八條 前條期日以内ニ精算シ得サルトキハ豫メ事由ヲ具シ收稅長ノ承認ヲ請フヘシ

第二章 俸給文具料

第九條 收稅部ニ於テ交付ヲ受クル俸給文具料ハ各其支給日第二課ニ就キ受取ルヘシ但交付ノ時間
ハ昇廳時限一時間後ヨリ二時内トス

前項受領ノ際仕拂命令ノ交付ヲ受ケタルトキハ第一號第二號書式ノ領收證書ヲ差出タスヘシ但第六
條ノ代理者ヲ以テ受取ルトキハ第三號第四號書式ニ據ル

第十條 前條條給、文具料支給日ニ當リ出張外ハ病氣其他ノ事故ニ由リ自身ニ受取ル能ハサル者ハ
代理者ヲ以テ之ヲ受取ルヘシ

第十二條 出張所派出所在勤員ニシテ特ニ收稅部ニ於テ俸給、文具料ヲ受取ラントスル者ハ代理人ヲ
定メ第六條ノ例ニ倣ヒ支給日六日以前 收稅部ニ到達 届出ツヘシ

第十三條 出張所日給雇給料ハ第六號書式ニ據リ申請書ヲ製シ其月末日第二課ニ送付スヘシ